

# はじめに

近年、児童生徒を取り巻く社会環境の急激な変化に伴い、児童生徒の心身の発育・発達 の早期化が見られる一方で、メディアなどからの誤った性情報の氾濫、そして、それらの情報を簡単に入手できるインターネットや携帯電話の普及などの影響を受け、性行動の低年齢化が進み、十代の望まない妊娠、人工妊娠中絶、性感染症、性犯罪の被害が増加するなど、性に関する健康問題が深刻化しています。

このような今、性に関する正しい知識や自他の性に対する認識を深め、望ましい人間関係を築いていくことができる能力や態度を備えるとともに、適切な意志決定に基づき行動を選択できる児童生徒の育成を目指す性教育への期待が高まっています。

このような性教育を実施するためには、指導時間の確保や専門家の活用、保護者や地域の理解を得るなどのきめ細かな計画への配慮が必要となってきます。

県教育委員会では、昭和48年度、昭和56年度、平成5年度にそれぞれ学習指導要領の改訂やその時代の要請に応じた「性教育指導の手引」を作成し、学校における性教育の充実に努めてきました。さらに、時代のニーズに応えるために平成17年度には「愛媛県性教育実践調査研究委員会」を設置し、すべての学校で児童生徒の発達段階や実態に応じた性教育を実施できるようにするための参考資料として本冊子を作成しました。

すべての学校において、性教育を効果的に進めるためには、教職員の共通理解の下に、家庭や地域と連携を図りながら、教育計画に位置付け、組織的かつ計画的に行うことが重要です。本冊子に示している性教育の基本的な進め方及び指導の展開例を活用され、「性教育」の充実が図られることを期待しています。

終わりに、本冊子の作成に当たり、御協力と御指導いただきました委員の皆様及び貴重な資料を提供いただきました方々に心から感謝を申し上げます。

平成19年3月

愛媛県教育委員会

# 目 次

## はじめに

### 第1章 学校における性教育とは

1 「今、なぜ性教育なのか」	1
2 学校における性教育の役割	2
3 学校における性教育の考え方	3
4 学校における性教育の進め方	4

### 第2章 学校における性教育の進め方について

1 学校における性教育を推進するための組織作り	9
2 学校における性教育の効果的な進め方	10
(1) 児童生徒の実態把握	10
(2) 研究すべき事項	10
(3) 指導内容の確認	11
(4) 指導計画の作成	11
(5) 学習指導案、活動実施案の作成と実践	14
(6) 実践の評価と改善	14
3 学校と家庭・地域との連携	15
(1) 学校と家庭との連携	15
(2) 学校と地域の関係機関との連携	15
4 性教育の指導計画等の確認の徹底	16

### 第3章 児童生徒の発達段階に応じた性教育の在り方について

1 発達段階に応じた性教育の目標及び指導内容と性教育の実際	17
(1) 幼稚園編	18
(2) 小学校編	19
(3) 中学校及び中等教育学校（前期課程）編	36
(4) 高等学校及び中等教育学校（後期課程）編	61
(5) 障害がある児童生徒編	77
(6) 保健センターと連携した実践例	90
2 性教育を効果的に進めるためのQ & A	94

### 資料編

1 各教職員の役割（例）	99
2 実態把握の進め方	101
3 学習指導要領に示されている性教育に関する主な内容	102
4 性教育の校種別内容の系統性・関連性（例）	105
5 性教育全体計画作成例（小学校）	106
6 年間指導計画作成例（高等学校及び中等教育学校（後期課程））	107
7 教育活動全体を通じて行う性教育とは？	108
8 学びのネットワーク	109
9 活動実施案	110
10 学校と家庭との連携の具体例	110

# 第 1 章

学校における性教育とは

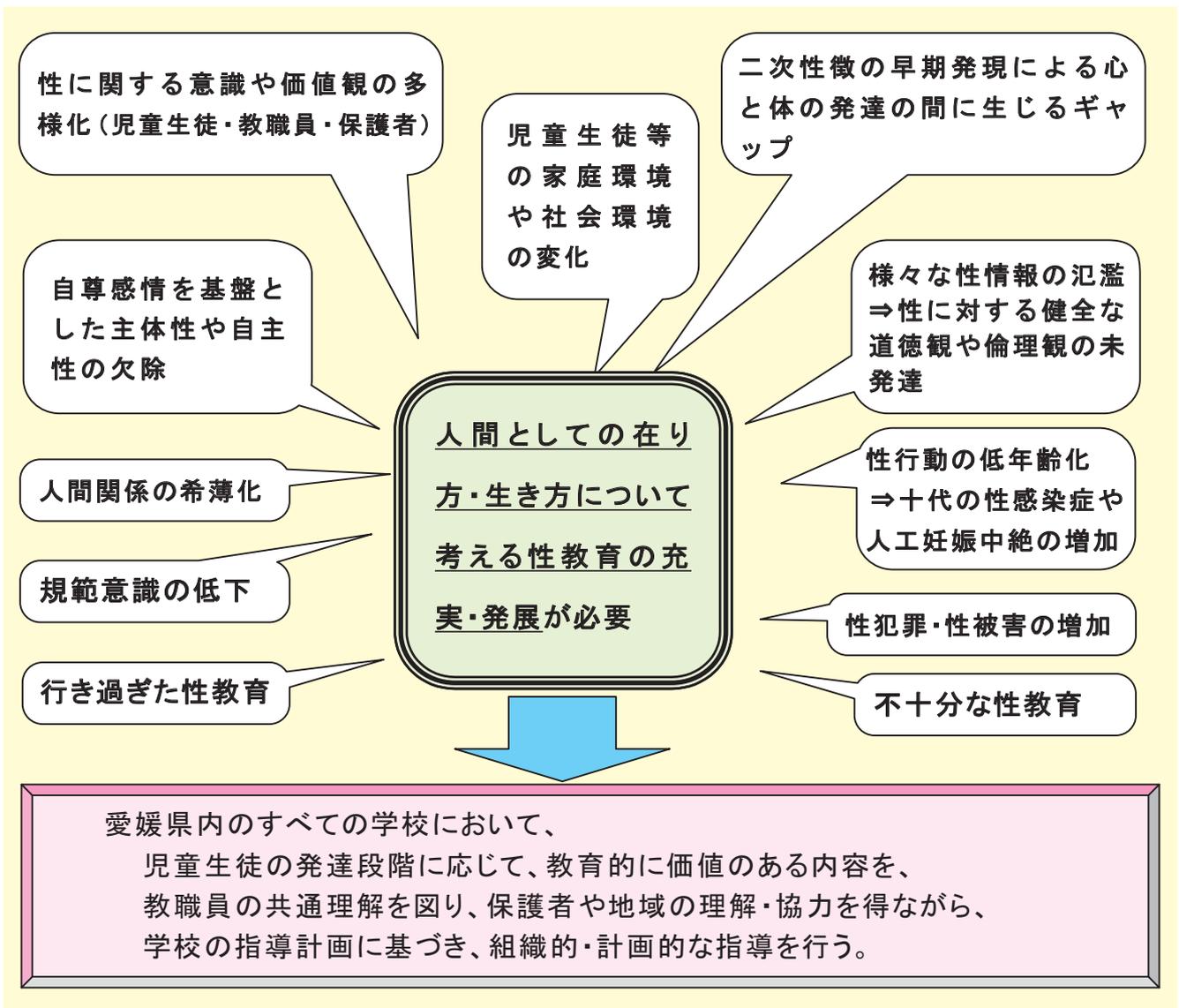




# 1 「今、なぜ性教育なのか」

近年、国民の性に関する意識や価値観が多様化するとともに、児童生徒を取り巻く家庭環境や社会環境も大きく変化している。そうした中で、児童生徒の心身の発達においては、二次性徴の発現が早くなり、心と体の発達の間ギャップが生じ、不安や悩みを抱え、それを克服できにくくなっている状況が見られる。また、様々な性情報が氾濫している中で、児童生徒は無防備な状態で性情報に曝され、その結果、薬物乱用、売買春やその類似行為、性感染症や十代の人工妊娠中絶などが増加し、性に関する健康問題も深刻化している。

これらのことから、家庭、学校、地域社会において、すべての児童生徒に対して、人間尊重の精神の徹底を図るとともに、人間の性に関する基礎的・基本的事項を正しく理解させ、同性や異性との人間関係や現在及び将来の生活において直面する性に関する諸問題に対して、適切な意志決定や行動選択ができるよう性教育を行う必要があるが、家庭の教育力の低下やどう教えればよいか分からないという保護者の意見もある。そこで、児童生徒の発達段階に応じて、教育的に価値のある内容を指導計画に基づき、組織的・計画的に専門的力量を持った教員が保護者や地域の理解・協力を得ながら、関係機関と連携して指導することができる学校における性教育が重要となってきたのである。



## 2 学校における性教育の役割

児童生徒は、それぞれの成長の過程で、性に関する多くの課題に直面し、それに対応するための意志決定や行動選択が求められる。

学校においては、教科を中心にすべての教育活動を通じて性教育を行ってきたが、近年の児童生徒の性的成熟や性意識・性行動の実態を考えると、これらの背景にある家庭や社会の現状を踏まえ、幅広い観点から指導していく必要がある。

- (1) 学習指導要領に基づく性教育に関する内容や児童生徒の実態に応じた内容について集団指導を行う。
- (2) 性に関する悩みや問題を抱える児童生徒や個々の児童生徒の実態によって、集団指導で不十分な点がある場合は、随時個別指導を行う。
- (3) すべての教育活動を通じて、学校における性教育の目的が達成できるように自尊感情を高めるような体験や夢を持つことができるような働きかけ、コミュニケーション能力、情報選択能力等の育成に努める。
- (4) 性教育における家庭や地域の果たす役割が十分機能できるように支援する。

### 性教育に生かせる学校の特長

- (1) 学校には、性教育にかかわることができる様々な人材がいる。  
校長、教頭、教諭、養護教諭、学校医等
- (2) 性教育にかかわる教育内容が学習指導要領に位置付けられている。  
体育・保健体育、生活、理科、社会、公民、技術・家庭、道徳、特別活動、総合的な学習の時間
- (3) 豊かな人間形成の基礎作りにタイムリーな時期である学齢期（6歳から18歳）を対象としている。
- (4) 学校保健委員会、性教育推進委員会、生徒指導部会などの組織を活用できる。
- (5) 保護者と連携を図ることができる。
- (6) 地域の医療機関、保健所などの関係機関と連携することができる。  
学校は、地域の関係機関の中核である。
- (7) 個別の指導が必要な児童生徒と日常的にかかわることができるので、変化にいち早く気づき、即座に対応することができる。

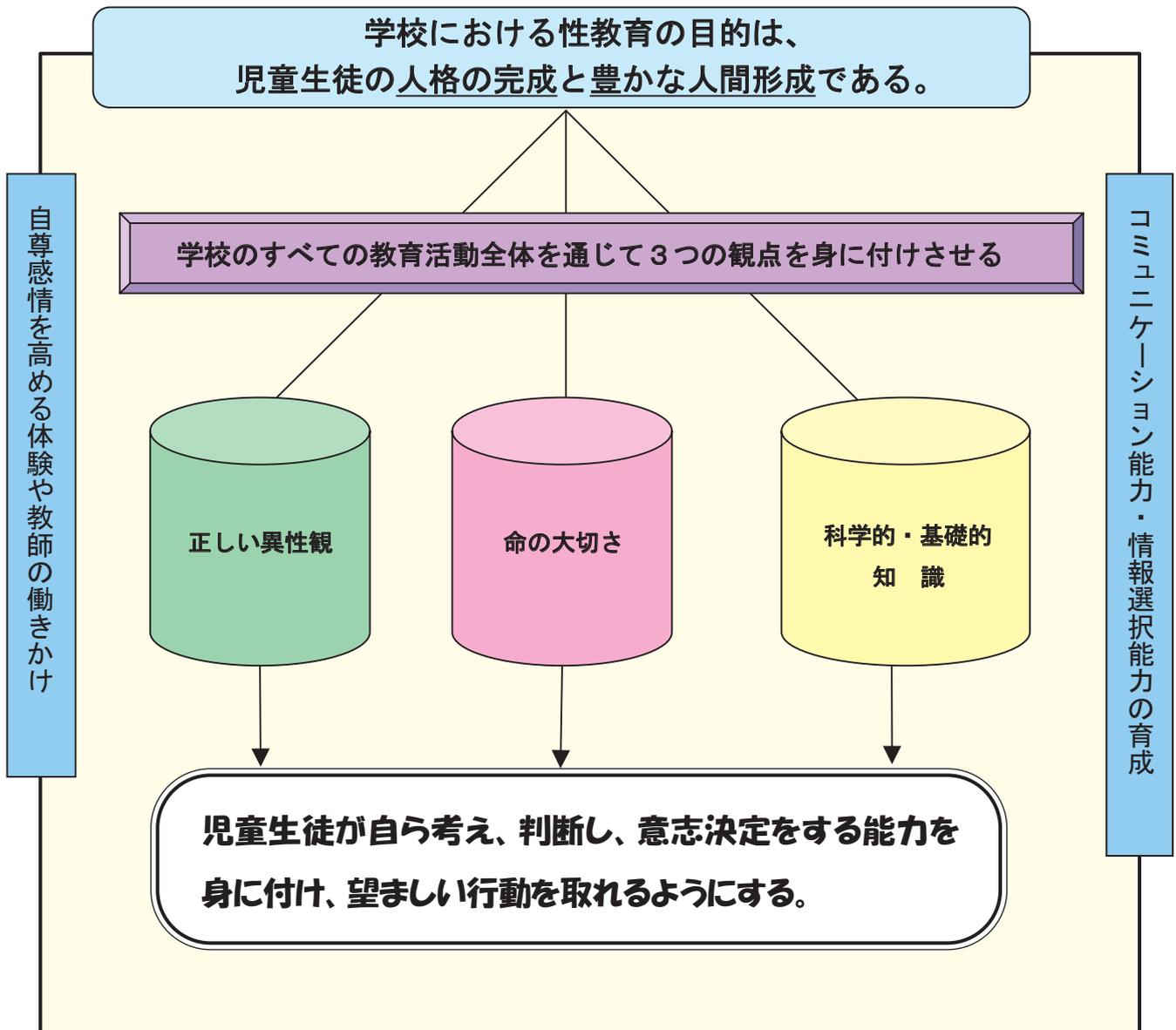


- (8) 性教育を推進するための教材や視聴覚機器などの設備や環境が整っている。
- (9) 関係行政機関などからの支援を受けることができる。

(文部科学省養護教諭中央研修会三木とみ子講義資料、一部改編)

### 3 学校における性教育の考え方

学校における性教育は、児童生徒の人格の完成と豊かな人間形成を究極の目的とし、人間の性を人格の基本的な部分と位置付け、生理的側面、心理的側面、社会的側面などから総合的にとらえ、科学的知識を与えるとともに、児童生徒が生命尊重、人間尊重の精神に基づく正しい異性観を持つことによって、自ら考え、判断し、意志決定の能力を身に付け、望ましい行動を取れるようにすることである。



#### 学校における性教育の具体的な目標

- 1 自己の性への認識を確かにし、異性に対する理解を深めさせる。
- 2 生命尊重、人間尊重の精神に基づく豊かな人間関係を築くことができるようにする。
- 3 家庭や様々な社会集団の一員として直面する性の諸問題を適切に判断し、対処する能力や資質を育てる。

#### 4 学校における性教育の進め方

学校における性教育が、「行き過ぎた性教育」や「不十分な性教育」とならないように、学校において性教育を適切に実施するための基本的な3つのポイントを明確に示した。

### 性教育を適切に実施するための3つのポイント

#### (1) 性教育に取り組む校内体制の整備

- 校長など管理職のリーダーシップの下、性教育の担当を校務分掌に位置付け、学校全体で性教育に取り組むための委員会を設置するなど、校内体制を整備する。

#### (2) 性教育の効果的な推進

- 児童生徒の実態を把握し、学校全体で指導計画を作成した上で、教職員がそれぞれの役割に応じて、組織的・計画的に性教育に取り組む。
- 授業など集団指導を行う場合は、学習指導要領に基づく内容を取り扱うこととし、個々の児童生徒の実態によって不十分な点がある場合は、随時個別指導を実施する。

#### (3) 性教育における「学校—家庭—地域」の連携

- 性教育における家庭や地域の果たす役割は大きく、十分に連携して指導に当たることが不可欠である。
- 学校で指導する内容については、事前に保護者の理解を十分に得ることを徹底する。
- 外部指導者を活用する場合は、事前に入念な打合せを行うなど、学校が主体的に対応する。



## 効果的な進め方の手順

手 順		内 容
1	実態の把握 (P10参照)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自校の健康教育に関する基礎調査</li> <li>○課題別の実態調査</li> <li>○健康診断の結果</li> <li>○教職員による日常的観察結果の分析</li> <li>○指導実績の累積効果の確認</li> <li>○保健室への来室の実態</li> <li>○性行動に関する実態</li> </ul>
	研究すべき 事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文部科学省が示している性教育を進める上での留意事項の確認と分析 (P11 参照)</li> <li>○取り上げた課題の基本的な知識理解の文献研究</li> <li>○発育・発達段階の特徴と課題の把握</li> <li>○学習指導要領における取扱いと課題との関連の分析 (P102～105 参照)</li> </ul>
2	指導内容の 確認 (P6～8参照)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○指導内容の確認               <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校における課題の明確化</li> <li>・発達課題や到達目標に即した「これだけは押さえない」という内容の学年ごとの設定</li> <li>・理解目標（～が分かる）や行動目標（～ができる）の設定</li> </ul> </li> </ul>
3	指導計画の 作成 (P11～13、106～107、109参照)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科（体育・保健体育等）</li> <li>○道徳</li> <li>○特別活動（学級活動・ホームルーム活動）</li> <li>○総合的な学習の時間</li> <li>○行事・個別指導・集会・日常・朝（帰り）の会等</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいの明確化</li> <li>・指導内容の厳選</li> <li>・教科・領域間の連携</li> <li>・役割分担の明確化</li> <li>・場の設定、時間の確保</li> </ul> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div>
4	学習指導案、 活動実施案 の作成と実 践 (P14、108、 110参照)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科               <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科等の学習指導案の作成と実践</li> </ul> </li> <li>○行事・個別指導・集会・日常・朝（帰り）の会等の活動実施案の作成と実践               <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科、領域間の情報交換と連携</li> <li>・教育相談担当教諭、生徒指導担当教諭、保健主事、養護教諭との連携</li> <li>・家庭への連絡と協力 (P15、110参照)</li> </ul> </li> </ul>
5	実践の評価 と改善 (P14、16参照)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○手順1～4の評価と改善</li> <li>○授業・活動の分析</li> </ul>

（文部科学省 養護教諭中央研修会三木とみ子講義資料をもとに作成）

## 性教育に必要な指導内容

### (ア) 自己の性の認識を確実にするために必要な内容

発達段階に応じて次のような内容を取り上げ、自己の性に対する認識を確実にし、異性に対する理解を深めることができるようにする。

#### (1) 生命尊重に関する内容

人間に性別があるのは、新しい生命を育み、種を保存するためであるという基本的なことを理解した上で、性について学ぶ。

- ①新しい生命は男女によって生まれること
- ②新しい生命を産む体に成長しても、それに伴って心が大人として十分に成長しているわけではないので、まだ親にはなれないこと
- ③生殖の仕組みに関すること
- ④人間は、新しい生命を産むかどうかの選択ができること
- ⑤性と健康に関すること（性感染症予防等）
- ⑥人間は、人間としてどう生きるかということが問われること

#### (2) 身体的、生理的側面からの自己認識に関する内容

- ①男女の外性器の違いから生ずる興味・関心や素朴な疑問に対応すること
- ②体の発育・発達や性的成熟、発達段階に応じた生殖の仕組みに関すること
- ③自己の性を肯定的に受容できるようにすること
- ④すべての人間が人間として尊重されなければならないということ

#### (3) 思春期における不安や悩みに関する内容

- ①身体的、精神的な発達や変化に伴い、自我が目覚め、関心が自己に向き、容姿に敏感になったり、不安や悩みが生じたりすること
- ②性ホルモンの分泌が活発になり、身体の内部環境が変化するため、情緒が不安定になること
- ③性の心理的発達やそれによる不安や悩みについて理解し、個人的適応を図ること
- ④他人を思いやる心情を育てること

#### (4) 男女の生き方に関する内容

- ①人間は生まれながらに個人として尊重され、それぞれの生き方が尊重されなければならないこと
- ②男女が人間として平等の立場で、お互いに人格を尊重し合って生きていくことが大切であること

(『学校における性教育の考え方、進め方』 文部省 1999 より引用、一部改編)

## (イ) 男女の人間関係の育成に必要な内容

人間が男性又は女性として幸福な生活を送る上で、異性とのかかわりを円滑に保ち、望ましい方向へ発展させることは大切な意味を持っている。特に思春期は、異性への関心が高まり、異性愛が芽生え、男女の人間関係にも変化が生じ、特定の異性との交際を望んだり、実際に交際したりする児童生徒も出てくるので、男女の人間関係や特定の異性との交際などに関する個別指導が必要となる。

一方、家庭環境や社会環境によっては人間関係が希薄になっており、人間関係がもたらす充足感の経験が得られなかったり、他人とのかかわり方が極めて未熟になっていたりする場合があるので、次のような内容を取り上げ、男女の相互理解を深めさせ、男女の人間関係について指導や支援を行うことが大切である。

### (1) 男女の相互理解に関する内容

- ①男女の身体的、生理的な差異や心理的特徴
- ②異性の人格を尊重する態度や行動の仕方

### (2) 人間関係の基礎的内容

- ①お互いが満足し、心理的快感を得られれば人間関係は成立し、不快感や苦痛を感じれば人間関係は崩れやすいことや好き嫌いや理由もないのに個人的、集団的に相手を見捨てたり、排斥したりする言葉や態度、暴力などが、相手に不快感や苦痛を与えることなどの人間関係の基本的な原理に気付かせること
- ②人間関係を築くためには、相互理解を深め、積極性や言語・態度による自己表現の能力、相手に対する受容的な態度、相手との違いに対して「我慢する」、「譲る」、「合わせる」、「待つ」などといった耐忍性や調整力など、人間関係スキルを高めさせること

### (3) 男女の人間関係に関する内容

- ①思春期には、特定の異性と親しくしたいという欲求が高まるが、特定の異性と親しくなる前に、多くの異性と友人関係を持ち、異性に対する理解を深め、異性の人格を尊重する態度や行動を身に付ける必要があること
- ②人間関係のマナーやエチケットとして、相手や周囲の人に不安感や不快感を与えない時と場、年齢に応じた行動様式を身に付けること

### (4) 特定の異性との交際に関する内容

特定の異性との交際に関しては、賢明な行動選択や意志決定の能力が必要であること

## (ウ) 家庭や社会の一員として必要な性に関する内容

児童生徒が家庭や社会の一員として生きていく上で必要な性教育に関する内容には、次のようなものがある。

### (1) 性役割に関する内容

家庭や学校、社会での性役割、固定的な性役割観の発生要因とそれによる性差別などの学習を通して、男女共同参画社会の実現を目指すよう指導をすること

### (2) 性情報に関する内容

情報化社会における性情報の意義や価値について考えさせ、性情報を適切に取捨選択し、自己の成長発達に役立てる能力を身に付けることの大切さを理解させること

### (3) 性の被害・加害に関する内容

- ①様々な性被害について人間尊重、男女平等の観点から理解させ、日常生活における性被害・加害の発生状況やその防止について考えさせること
- ②被害防止の観点から、児童生徒等が受けやすい性被害の発生状況や発生要因などを知らせ、被害を受けた場合の対処の仕方等を具体的に理解させること
- ③性加害は、人間尊重、男女平等の精神から絶対に許されないことであることを理解させること
- ④自己中心的な欲求による自制心のない行動は、相手の心身を傷つけるだけでなく自分自身も大きな罪を背負うことになることを理解させること

### (4) エイズ・性感染症に関する内容

- ①エイズについて正しい知識を与え、その予防方法を理解させるとともに、エイズによる偏見・差別の払拭のための教育が必要であること
- ②主な性感染症とその予防に関することを理解させること

### (5) その他

高等学校段階になれば、学校や生徒の実態に応じて「性と文化」、「性と人権」などの内容を取り上げることも考えられる。

# 第 2 章

学校における性教育の進め方について

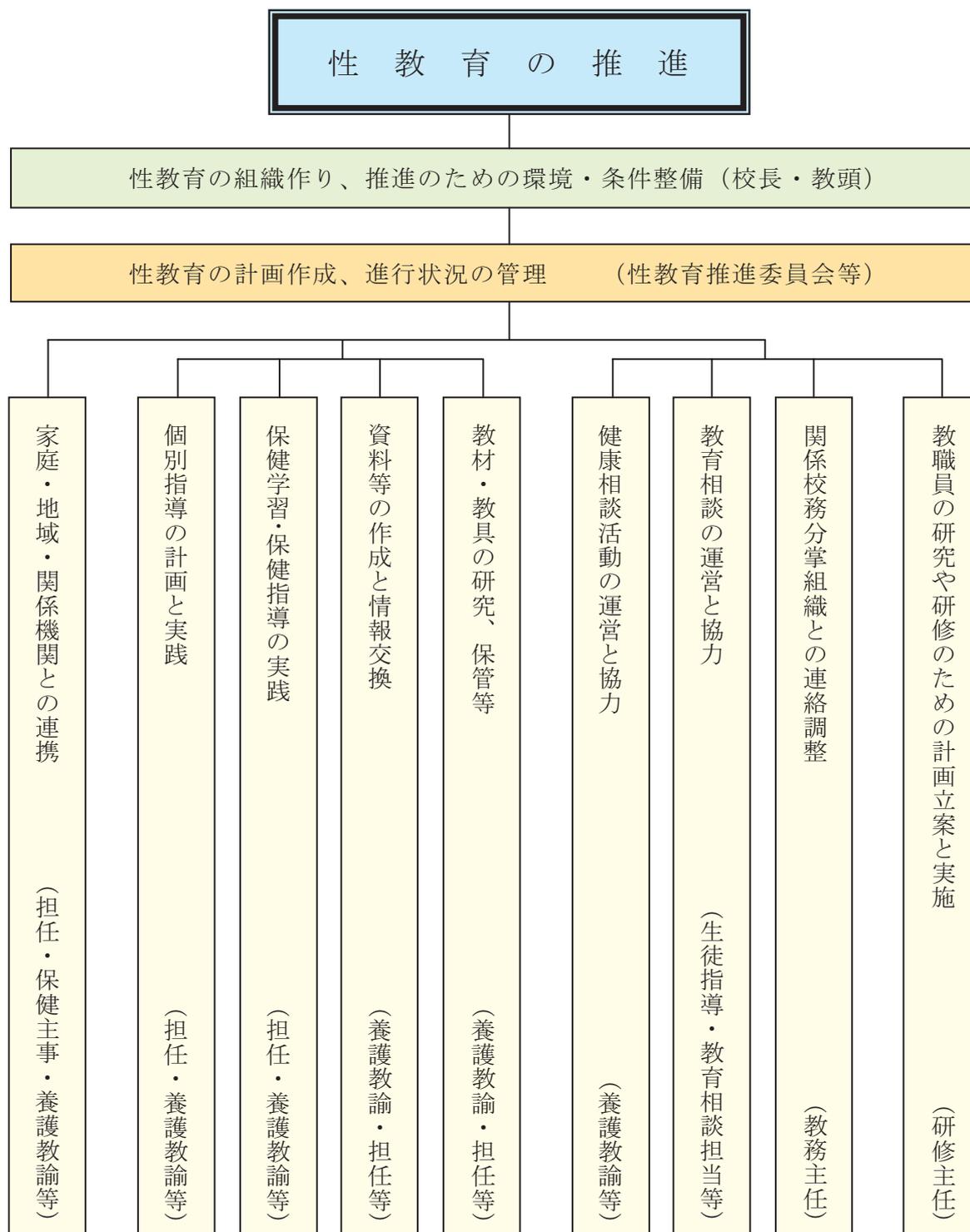




## 1 学校における性教育を推進するための組織作り

性教育を学校教育活動全体で行うためには、管理職がリーダーシップを発揮し、性教育の担当を校務分掌に位置付け、教職員各自の役割を明確にしておく必要があるが、これまで担当が明確でなかったり、一部の教職員任せにしていた場合も見受けられるので、各学校の組織体制の見直しを図る（P99～100：資料1参照）。

また、性教育推進委員会等（学校保健委員会の活用も可）を設置して、指導計画や指導内容、教材などについて検討を行うことにより、組織的・計画的な指導を行うことができる。



## 2 学校における性教育の効果的な進め方

学校において性教育を行うためには、すべての教職員が性教育の意義や必要性、性教育の基本的な考え方や指導の在り方などについて共通理解を図り、性教育の全体構想を明確にした上で、それに基づく指導計画、指導組織を確立する必要がある。そのためには、次のような手順が必要である（P 5 参照）。

- ① 児童生徒の実態把握
- ② 指導内容の確認
- ③ 指導計画の作成
- ④ 学習指導案、活動実施案の作成と実践
- ⑤ 実践の評価と改善

### (1) 児童生徒の実態把握

児童生徒の性意識や性行動には、保護者の性に関する認識、家庭内の人間関係等、家庭環境が大きく影響している。また、児童生徒が生活する地域社会には、それぞれ固有の風俗、しきたり、文化があり、その背後には、それぞれの性にかかわる思想、価値観がある。それらのことも十分に踏まえ、児童生徒の実態を把握する。

**すべての教職員による児童生徒の実態把握が、共通理解のはじまりである。**

＜実態把握の進め方＞（P 101：資料 2 参照）

ステップ 1：学校全体、学年単位等で児童生徒の性に関する実態について、すべての教職員が、自校の児童生徒の課題やよい点を出し合い、KJ法などを用いて分析する。

ステップ 2：関連のあるものをグループにまとめて、テーマを付ける。

ステップ 3：児童生徒の実態から課題を明確にし、どのような指導内容が必要であるかを考える。

ステップ 4：必要な指導内容と学習指導要領との関連を図った上で、教育課程に位置付け、計画的、組織的に進める。

### (2) 研究すべき事項

すべての教職員が、性教育の今日的課題や学校における指導の在り方、進め方などについて、文部科学省が示している性教育を進める上での留意事項を基に検討する。

## 性教育指導上のポイント

- ①学習指導要領に則り、児童生徒の発達段階に沿った時期と内容で実施すること
- ②教育上の内容について、理解の得られるものであること
- ③個々の教員がそれぞれの判断で進めるのではなく、学校全体の指導計画に基づく組織的・計画的な指導を行うこと
- ④教職員の共通理解だけでなく、保護者や地域の理解を得ながら進めること
- ⑤集団指導と個別指導とによって相互に補完すること

(「平成18年度性教育指導講習会資料」文部科学省)

### (3) 指導内容の確認

各学校の性教育の目標を実現するために、児童生徒の実態等を踏まえて、必要な指導内容を選択し、指導の適時性や指導内容相互の関連性などを検討して、教育課程に位置付け、入学から卒業までの期間に最も適切な時期や機会に指導されるよう構成する必要がある(P 6～8及びP 102～105:資料3、4参照)。

#### ア 自己の性の認識を確かにするために必要な内容

- (ア) 人間尊重に関する内容
- (イ) 身体的、生理的側面からの自己認識に関する内容
- (ウ) 思春期における不安や悩みに関する内容
- (エ) 男女の生き方に関する内容

#### イ 男女の人間関係の育成に必要な内容

- (ア) 男女の相互理解に関する内容
- (イ) 人間関係の基礎的内容
- (ウ) 男女の人間関係に関する内容
- (エ) 特定の異性との交際に関する内容

#### ウ 家庭や社会の一員として必要な性に関する内容

- (ア) 性役割に関する内容
- (イ) 性情報に関する内容
- (ウ) 性の被害・加害に関する内容
- (エ) エイズ・性感染症に関する内容

### (4) 指導計画の作成

学校において性教育を進めるに当たっては、児童生徒の実態を把握し、学校の教育目標や基本方針を踏まえた性教育の全体構想に基づき、学校としての性教育の「**全体計画**」と、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間における性教育が体系的、総合的に行われるようにするための「**年間指導計画**」を作成することが必要である。

<指導計画の作成手順> (P106~107:資料5、6参照)

ステップ1: 性教育全体計画を作成する。

学習指導要領等	学校教育目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の実態</li> <li>・ 地域の実態</li> <li>・ 保護者の願い</li> <li>・ 教師の願い</li> </ul>		
性に関する指導の目標					
学年目標					
指導の重点					
身体的生理的発達	精神的心理的発達	生命誕生	男女関係	家庭社会の一員	エイズ予防
指導の場					
各教科	道徳		特別活動		

(小学校用)

ステップ2: 学習指導要領の内容を確認する (P102~104:資料3参照)。

- 小、中、高等学校の学習指導要領の内容をすべて並べて見比べてみる。  
⇒発達段階に応じた指導内容を確認し、内容の重複を避ける。
- 自校の課題を、学習指導要領のどの部分で指導できるかを確認する。
- 教科「体育、保健体育」における性に関する内容は、性教育の基礎・基本(核)となる。他の教科等との関連性を持たせて指導することが重要となるので、実施時期を明確にし、確実に実施する。

ステップ3: 性教育の指導の場面を考える (P108~109:資料7、8参照)。

性教育は、すべての教職員が教育活動全体を通じて指導する必要がある。したがって、教室での授業だけではなく、次のような指導の場面が考えられる。

- 指導の場面: 授業(教科、学級・ホームルーム活動)、学校行事、集会活動、委員会活動、日常指導、教育相談、健康相談活動、保護者会、学校保健委員会、地区別懇談会等

○学びのネットワークを考えながら指導を行うことで、限られた指導時間の中で多くの成果を上げることができる。



○指導の形態：その内容や指導の対象となる児童生徒の状況に応じて、集団指導と個別指導を適切に組み合わせて行う必要がある。

### 【集団指導】

□下記の指導場面において、性に関する内容を児童生徒の具体的な行動や現実の生活における技術・能力・態度・習慣として身に付けさせるものである。

#### <指導場面>

体育科、保健体育科、家庭科、生活科、理科等の各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等（学校の教育目標、指導の重点を踏まえ、それぞれの教科等の指導内容に関連性を持たせる。）

### 【個別指導】

- 集団指導では十分でない点について、補充・深化を図る。
- 性に関する悩みがある児童生徒を対象として問題行動等の早期発見や予防を図る。
- 性の問題行動等を行った児童生徒や性的な被害を受けた児童生徒に対してその立ち直りを支援する。

#### <指導場面>

児童生徒の状況に応じて随時指導時間を設定する。その場合、プライバシーの保護に十分留意する。

## ステップ4：年間指導計画を作成する。

### 年間指導計画作成上の留意点

- ①各学年、各教科における性教育の基本方針を明確にし、教職員の共通理解を図る。
- ②指導内容については、児童生徒の状況や地域等の実態を考慮し、選択する。
- ③学習指導要領の各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間における性教育の内容を明確にし、指導内容を設定する。
- ④各教科等との相互の関連を図り、効果的な指導ができるように指導内容や方法を構造化する。
- ⑤指導に当たっては、保護者や地域の関係機関との連携を積極的に図るようにする。

## (5) 学習指導案、活動実施案の作成と実践（P110：資料9参照）

教科等は学習指導案を、行事、個別指導、集会、朝（帰り）の会等の学級活動・ホームルーム活動以外の特別活動については、活動実施案を作成し、実施計画に基づいて実践する。

作成に当たっては、次のことに配慮すること。

- (ア) 教科、領域間の情報交換と連携
- (イ) 教育相談、養護教諭との連携
- (ウ) 家庭・地域への連絡と協力
  - 学校便り等により情報提供を行う。
  - アンケート調査により意識等の把握を行う。
  - 学校行事を通して性教育に対する関心を高める。
  - 学校保健委員会において性教育のテーマを取り上げることにより関心を高める。
  - 啓発のためにPTA活動へ性教育の講演会や研修会を取り入れる。
  - 地域の専門機関、人材等の活用を行う。

## (6) 実践の評価と改善

児童生徒の実践的能力や資質を高めるための指導計画や指導過程が適切であるかという観点で、学期毎等、適宜評価を行い、改善を加えていく。

- ◇性教育を行うための全校的な指導体制が確立されているか。
- ◇指導の目標やねらいが適切で、具体的であるか。
- ◇指導内容に教育的価値が認められ、指導効果が期待できるか。
- ◇指導内容が児童生徒の発達段階や発達課題に適しているか。
- ◇指導内容が保護者等の理解を得られるか。
- ◇他教科等や個別指導と関連させた指導が考えられているか。
- ◇指導の時期や他の指導内容との関連が適切であるか。
- ◇教材、教具などに十分な配慮がなされているか。
- ◇指導後の評価や指導計画の改善などが可能か。

### 3 学校と家庭・地域との連携

児童生徒は、学校、家庭、地域社会の全体を通じて育つものである。したがって、性教育は、学校、家庭、地域が連携して指導を行うことが大切である。

#### (1) 学校と家庭との連携

児童生徒の性意識や性行動は、生まれ育った家庭の在り方、家族の関係、保護者の価値観や生き方、保護者の育て方やしつけ及び考え方などが大きく影響している。

性教育を効果的に行うためには、学校、家庭が性教育の重要性を認識するとともに、それぞれの役割を理解し、お互いに連携、協力してそれぞれの役割を果たすことが大切である。

学校と家庭との連携を図るためには、日ごろから学校が家庭との連携を密にして、保護者と信頼関係を確立することが必要であり、児童生徒に指導する前に、学校の教育方針や性教育の意義、内容、方法についての理解を得ることが大切である。

その上で、家庭においても適切な性教育が行われるよう働きかける必要がある。  
(P110：資料10参照)

#### ◆家庭における性教育の課題

一般的に、保護者が性教育を十分に理解しているとは言い難い。

性教育は男性又は女性の在り方や生き方の教育である。しかし、保護者の中には月経や精通、受精の仕組み、妊娠、出産、家族計画、性感染症の予防など生理的な内容だけを教えることと誤解している場合もある。また、「寝た子を起こすな」などの考えから、性に関する知識を与えないことで性行動を抑制できると考えるなど、性教育に否定的な考えも根強い。

しかし、性に関して責任ある適切な行動を取ることができるようにするためには、性に関する正しい知識を習得するとともに、自分を大切にし、他者を尊重し、また、自分の生き方に自信を持つことなどが大切である。

心身の発育・発達についての知識が自己の認識に組み込まれ、責任ある行動の基礎となるためには、家庭においても精神的、社会的成熟への支援が必要であり、知識を行動へと結び付けるための支援が積極的に行われなければならない。

#### ○ 一人一人の児童生徒の状況に応じた連携

性に関する問題行動の未然防止、円滑な解決はもとより、児童生徒の健全育成という観点から、一人一人の児童生徒の実態を把握し、家庭と連携した指導を充実させることが大切である。そのためには保護者との信頼関係を確立し、お互いに情報提供、情報交換、連絡、相談などを充実する必要がある。

#### (2) 学校と地域の関係機関との連携

地域の関係機関には、様々な情報と機能があり、性教育の素材を得ることができる。また、民間の団体や活動には、青少年の健全育成を推進しているものも多く、学校とそれらの団体や活動との連携、協力は、性教育を効果的に行うのに有効である。

#### 4 性教育の指導計画等の確認の徹底

現在の自校における性教育の指導計画や指導過程等について、次の各項目を確認してみる。

できていない項目については、早期に改善を図る。できている項目についても、十分できているかどうか再検討してみる。

- (1) 性教育に関する全体計画、年間指導計画を作成しているか。
- (2) 校務分掌において性教育の担当が明確であるか。
- (3) 性教育に関する指導内容や教材等について検討する委員会を設置しているか。
- (4) 性教育に関する教職員研修を実施しているか。
- (5) 性に関する児童生徒の実態について、教職員の共通理解を図ることができているか。
- (6) 保護者や地域の理解と協力を得るために、性教育の目標や指導計画を周知しているか。
- (7) 授業参観や親子学習会の開催、保健だよりなどを通じて保護者との連携を図っているか。
- (8) 外部講師による授業や講演会を実施する際に、学校における性教育という観点で、事前の打合せが十分できているか。

#### 外部講師を選ぶ時のポイント（P76参照）

##### 【外部講師を依頼する際の確認事項】

- 学校の指導方針に従って協力できるかどうか。
- 事前の打合せができるかどうか。
- 児童生徒へ示すプレゼンテーションスライドや配布資料を事前に確認、検討することができるかどうか。

##### 【事前の打合せのポイント】

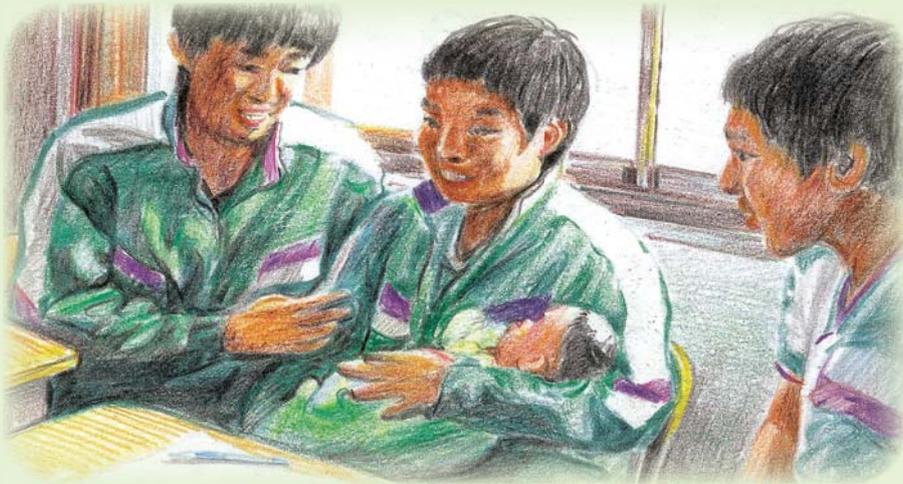
- 性教育全体計画、年間指導計画等により、学校の基本方針を示し、依頼する講演などの位置付け（事前・事後の指導との関連性）を示すこと。
- 児童生徒の実態やこれまでの学習内容を伝え、内容の重複を避けるとともに、講師の専門性が発揮できる内容を明確に伝えること。

（例：助産師であれば、出産後の両親の喜び、生命の尊さ等）

- 用語については、学習指導要領及び教科書で使われている児童生徒の発達段階に応じた用語を伝え、整合性が図れるようにすること。

# 第 3 章

## 児童生徒の発達段階に応じた 性教育の在り方について





# 1 発達段階に応じた性教育の目標及び指導内容と性教育の実践

目標及び指導内容		学年	自己の性への自己認識	男女の人間関係	家庭や社会の一員			
幼稚園	P18							
小学校	P19	低学年	道徳 第1学年 「おおきくなったよ」	P20				
			学級活動 第1学年 「正しい用便の仕方」	P22				
		中学年	体育 第4学年 「育ちゆく体とわたし」	P29		学級活動 第3学年 「からだといのちを自分で守るために」	P25	
		高学年	宿泊行事事前指導 「月経とその手当て」	P34				
中学校	P36	1年	道徳 「命を見つめ命を支える」	P37	学年集会 「思春期の心と体」	P39		
		2年				学級活動 「あぶない!出会い系サイト」	P46	
		3年			道徳 「男女の理解」	P55	保健体育 「健康な生活と病気の予防」	P51
					学級活動 「男女のかかわり」	P57		
全学年					生徒集会 「エイズーわたしたちに問われていることを考えようー」	P59		
高等学校	P61	1年				保健体育 「感染症とその予防」	P62	
		2年				ホームルーム活動 「性感染症を考える」	P66	
		3年			ホームルーム活動 「望まない妊娠とそのリスク」	P72		
		全学年					生徒保健委員会活動 「エイズについて考える」	P73
							文化祭 「エイズについて考える」	P74
					全校集会 「世界エイズデー」	P75		
		外部講師を迎えての性教育講演会の流れ					P76	
盲・聾・養護学校	P77~79	盲学校小学部 第4学年 体育 「育ちゆく体とわたし」	P80	知的障害養護学校高等部 第3学年 保健体育 「男女交際のマナー」	P85			
		盲学校小学部 第4学年 個別指導 「大きくなったね」	P83	知的障害養護学校高等部 生徒集会 「高校生のマナーについて」	P89			

※ 指導事例については、児童生徒の発達段階や実態に応じて、弾力的に活用すること。

## (1) 幼稚園編

### ア 目標

幼児期は、自我に芽生え、他者の存在を意識し、自己を抑制しようとする気持ちが生まれてくる時期であり、最も身近な親子の信頼関係を土台にし、幼稚園の集団生活の場で人間関係がはぐくまれる。

幼児期の教育は、その後の学校教育全体の生活や学習の基礎を培う役割を担っていることから、幼稚園における性教育の目標の設定に当たっては、幼稚園教育要領の趣旨を生かすとともに、次のような視点が大切である。

- 1 自分の誕生や男女の違いを受け止めるとともに、生き物の誕生や成長にも気付き、生命の尊さを感じ取る。
- 2 男女には違いがあるが、自分を大事にするとともに、どの友だちも同じように大切であることを知り、友だちを思いやる心情や態度を育て、将来の男女の人間関係の基礎を築く。
- 3 家族は互いに役割を分担し、助け合って生活していることに気付き、男女がいたわり合う心や、そのために自分の欲求を抑制しようとする心が育つ。

### イ 指導内容

幼児期の性教育は、幼児一人一人の発達の課題を的確に把握し、幼児理解を深め、適切な指導や支援を行う必要がある。

最近、幼児が凶悪犯罪の被害者になる事件が急増しており、性被害から幼児を守ることが重要な課題となっている。このため、家庭や地域、関係機関と連携し、安全な環境の確保に努めなければならない。

視点	自己の性の認識を確かにするために必要な内容	男女の人間関係の育成に必要な内容	家庭や社会の一員として必要な性に関する内容
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>○男女の性器の違いに気付く。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分は男である、女である</li> <li>・自分にはおちんちんがある、ない</li> <li>・男女の排尿の仕方の違い</li> <li>・トイレの使い方の違い</li> </ul> </li> <li>○性的事象に関する関心や疑問を持つ。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分と保護者との体つき、性器の違い</li> <li>・自分の誕生に関すること</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○男女の性別意識が明確になる。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・異性間で遊びの邪魔をすること</li> <li>・異性を排斥する傾向</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○男女の役割意識や行動を形成する。</li> <li>○性情報の悪影響を受ける。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・卑わいな言葉</li> <li>・トイレのぞき</li> <li>・スカートめくり等</li> </ul> </li> <li>○凶悪犯罪の被害者になる事件が急増している。</li> </ul>
指導のねらい・内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分が男の子か女の子かの認識を確かにさせる。</li> <li>○性器の大切さを理解させる。</li> <li>○排尿、排泄の習慣やエチケットを意識付ける。</li> <li>○体や性器の清潔保持の習慣を育てる。</li> <li>○大人になると性器や体つきが変わることを理解させる。</li> <li>○自分も少しずつ成長していることに気付かせる。</li> <li>○動物や赤ちゃんは、父親・母親がいて生まれることに気付かせる。</li> <li>○自分が誕生した時の周囲の喜びを感じさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○みんな仲良く助け合う心情を育てる。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールや約束事を守ること</li> <li>・我慢したり助け合ったりすること</li> </ul> </li> <li>○男女の体や行動の仕方の違いがあっても、それぞれが大切な存在であることを理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○性役割にとらわれず、家族それぞれの役割やいたわりあい、家族の一員としての自分の存在について考えさせる。</li> <li>○家族は男女にかかわらず、互いにできる仕事を分担し、助け合って生活していることに気付かせる。</li> <li>○自分も家族の一員として協力しようとする心情を育てる。</li> <li>○誘拐したり、危害を加えたりする人の存在に気付かせる。</li> <li>○被害を防ぐ具体的方法を理解させる。</li> </ul>

(『学校における性教育の考え方、進め方』 文部省 1999 をもとに作成)

## (2) 小学校編

### ア 目標

小学生の時期は6年間という長い期間であり、生涯の中で心身の発育・発達の変化の著しい時期である。また、二次性徴の発現や思春期への移行など、心身両面で発育に個人差が見られる。そのため、子どもたちの発育・発達段階を考慮し、身体面と心理面を中心に、人間関係や社会的側面からの教育も併せて行う。

- 1 生命の誕生及び心身の発育・発達における男女差や個人差に関する基礎的事項を理解し、自己の性を受容し、自分を大切にしようとする気持ちを持って行動できる。
- 2 男女には体の特徴や発達段階などに違いがあることを理解し、互いに相手の人格を尊重する気持ちを持って行動しようとする。
- 3 各家庭における役割について、家族で分担し、互いに助け合うことが大切であることを知り、家庭や社会の一員として適切な判断や意志決定ができる。

### イ 指導内容

視点	自己の性の認識を確かにするために必要な内容	男女の人間関係の育成に必要な内容	家庭や社会の一員として必要な性に関する内容
低学年	特徴 ○身体的な発達速度は安定するが、生理的な機能の発達が未熟である。 ○好奇心旺盛な時期で、自分や赤ちゃんの誕生に関する疑問や性や性差への関心を持つ。	○自己中心的行動が多い一方で、性役割意識が芽生える。	○精神的には未熟で保護者や教師への依存度が高く、影響を受けやすい。
	指導のねらい・内容 ○男女の体の違いに気付かせ、自分や相手を大切にしようとする心情や態度を育てる。 ○動物飼育や植物栽培を通じた生命の大切さを理解させる。 ○自分が生まれてから今まで、親の愛情と保護によって育てられていることに気付かせる。	○一人一人のよさを見付け、お互いが助け合い、自他を大切にしようとする態度を育てる。	○生活の場が広がり、行動する範囲も拡大することから、犯罪被害から自分を守るための基本的な行動や態度を理解させる。
中学年	特徴 ○体の発育・発達によって、初経が起り始めることへの不安を持つ。 ○自己中心的な考え方から、客観的に思考することができるようになる。	○体の発育・発達に男女差が生じ始め、性意識や異性に対する関心が芽生えてくる。	○自分の家庭を他と比較したり、自分を取り巻く社会環境について認識したりするようになる。
	指導のねらい・内容 ○初経、精通の仕組みや体の発育・発達の仕方に個人差があることを理解させることにより、不安を解消させる。 ○自分や他人のよさに気づき、他人への思いやりの気持ちや自他の生命を大切にすることを育てる。	○男女が相互に理解し合い、一人一人が大切な自分であることを知らせ、人とかかわりを大切にする態度を育てる。	○様々な家庭の形や役割の違いがあることを理解させ、家庭での役割を果たす態度を身に付けさせる。
高学年	特徴 ○体つきの変化や初経・精通などを迎え、その個人差などに不安や悩みを持つ。 ○体つきの変化や心の発達に伴う不安や悩みが生じる。	○思春期の心身の変化に伴い、異性への関心が高まり、自己の性への認識が確かになる。	○友だちとかかわりを大切にし、性差や男女の性役割を意識し始め、性情報にも興味を示すようになる。
	指導のねらい・内容 ○自分の体の変化や個人による発達の違いについて理解させ、それを肯定的に受け止めることができるようにする。 ○心も体と同様に発達し、心と体は密接な関係にあることを理解させ、お互いを大切にすることを育てる。	○異性に関心を持ったり、親しくしたいという気持ちが生まれたりする中で、自他を大切にすることを身に付けさせる。	○性情報の収集や行動化等の基本的な行動選択と男女の性差を認め、協力して生活する態度を身に付けさせる。 ○エイズ等の学習を通して、共に生きることの大切さを理解させる。

(『学校における性教育の考え方、進め方』 文部省 1999 をもとに作成)

**小学校 第1学年**  
**道徳 学習指導案**

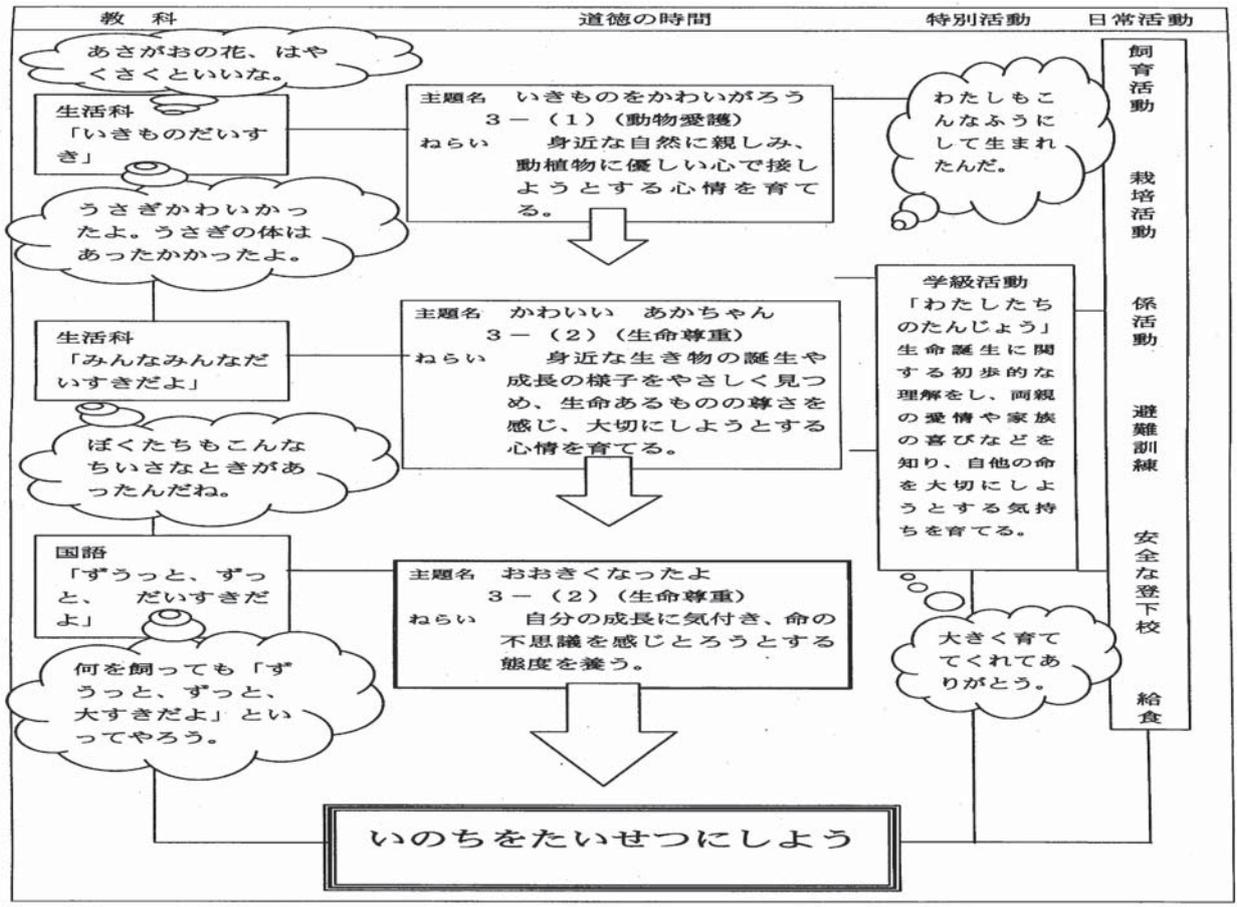
1 主題名 おおきくなったよ (資料名「ちいさなふとん」 光村図書)  
3- (2) 生きることを喜び、生命を大切にすることを。(生命尊重)

2 主題設定の理由  
児童は、「生命」の尊さというものを家庭環境や動植物を育てるという経験などから感じてはいるものの、自分と関連させて考えるということがあまりないというのも事実である。自分の生命の大切さに気付かなければ他者への思いやりや、他者を大切にしようとする気持ちはでてこない。そこで、この学習を通して自分の成長やその不思議さを感じとり、自分自身の生命の大切さを自覚することにつながることは重要であると考え、本主題を設定した。

3 指導について  
本時は、事前に交流した保育所での活動から、赤ちゃんに接した驚きや感動を思い出すことを授業の導入とし、感じたり考えたりしたことを積極的に発表することで、興味を持って授業に参加できるようにした。後半は、弟の誕生から生命の喜びを感じ取らせ、「よしこも、おかあさんにこうやってだっこされていたんだから。」「もう、そのおふとんでは、ねられなくなったわね。」という母親の言葉から、自分の成長に気付くようにさせる。さらに、赤ちゃんの実物大の人形や小さな布団などを見せ、実際に赤ちゃんを抱いたりその布団で寝たりして、自分の成長の不思議さを実感できるようにしたい。保護者に書いてもらった成長を喜ぶ写真と手紙は、自分の成長を改めて認識し、価値の内面化を図ることができるものとする。その手紙への返事は、自分の生命の不思議さだけでなく、家族への愛情や感謝の言葉も書けるように助言する。

4 ねらい  
自分の成長に気付き、命の不思議を感じとる態度を養う。

5 関連構想図



6 展 開

学 習 活 動	時間	児童の意識の流れ	教師の指導・支援
<p>1 赤ちゃんに接したことを思い出し、感じたことや考えたことを発表し合う。</p>	7	<p>保育所に行って、赤ちゃんと遊んだときのことを思い出し、心に残っていることを発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かわいかった。</li> <li>・トイレが小さかった。</li> <li>・楽しかった。</li> <li>・布団が小さい。</li> <li>・赤ちゃんは、小さかった。</li> </ul>	<p>○保育所での交流を思い出させ、印象に残っていることや感じたことを発表させ学習への意欲を持たせる。</p>
<p>2 資料「ちいさなふとん」を聞いて、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前半を聞いて話し合う。</li> </ul>	8	<p>ゆういちとそっと握手して、うれしくなったのはどうしてでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分にも宝物(弟)ができた。</li> <li>・ゆういち、小さくてかわいい。</li> <li>・大事にしたい。</li> <li>・大きくなったら一緒に遊びたい。</li> </ul>	<p>○温かい雰囲気の中で資料を読む。</p> <p>○話し合いをしている時に、心情にせまる言葉のセンテンスカードを黒板に貼る。</p> <p>○話を前半・後半に分けて読み、主人公の気持ちにひたれるようにする。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・後半を聞いて話し合う。</li> </ul>	12	<p>「よしこもこうやってだっこされていた。」と言われたとき、よしこはどんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わたしも、小さかったんだ。</li> <li>・不思議だなあ。</li> <li>・お母さん、ありがとう。</li> </ul> <p>よしこを見て、にこにこしているお母さんはどんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よしこも、大きくなってうれしい。</li> <li>・これからも、元気でいてね。</li> <li>・ゆういちも、よしこのように大きくなってほしい。</li> </ul>	<p>○小さな布団で寝たり、赤ちゃん人形を抱いたりすることで自分の成長を実感させる。</p> <p>○生命の不思議さを感じ取れるような話をする。</p> <p>○母親の表情や言葉から、周りの人々も自分の成長を喜んでいることに気付かせる。</p>
<p>3 手紙を読んで、返事を書く。</p>	15	<p>家の人から、みんなへ手紙がきています。読んで返事を書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小さかったんだなあ。</li> <li>・大きく育ててくれてありがとう。</li> <li>・これからも元気でがんばろう。</li> <li>・お母さんのこと大好きだよ。</li> </ul>	<p>○手紙をじっくりと読む時間を取り、保護者の気持ちを感じ取らせる。</p> <p>○自分の成長を自覚できるような補助発問をして、本時の価値に迫る言葉で返事を書かせる。</p>
<p>4 教師の説話を聞く。</p>	3		

小学校 第1学年

学級活動指導案

指導者 T 1 : 学級担任 T 2 : 養護教諭

1 題材名 正しい用便の仕方 (学級活動 (2) -イ)

2 題材設定の理由

人の体は、体の内側・外側の両面から汚れる。ところが児童の多くは、体の外側の汚れについては気付いているが、内側からの汚れについては、余り気付いていない。

そこで、本題材では、体の内外の汚れから体を清潔に保つための一つの方法として、用便後の始末の仕方を取り上げて指導していく。

児童の中には、性器を見せておもしろがったり、汚れた手で触ったりする子もいるので、性器の大切さについても認識させたい。その際、男女の性器の形は違うが排泄器として同じ役割を果たしている大切なところであることも知らせる。

3 本時の指導

(1) ねらい

男女の体の違いに気付き、正しい用便の仕方を理解するとともに、性器を清潔に保つよう心掛け、習慣化する。

(2) 指導の視点

ア 養護教諭とのチームティーチングを行うことで、養護教諭の特性を生かし、きめ細やかな指導ができるように展開を工夫する。

イ 具体的な場面を黒板絵等を使って分かりやすくする。

ウ 主体的に活動する場として、グループでの簡単な話し合いを持たせる。

エ 終末はペープサートでまとめ、実践意欲が持てるように印象づける。

(3) 展 開

学 習 活 動	時間	指導上の留意点	教師の指導・支援
1 トイレ使用時のエチケットについて話し合う。	10	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     トイレを使うとき、どんなことに気を付けたらよいでしょう。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おしっこやうんこをまわりにつけない。</li> <li>・使ったら流す。</li> <li>・スリッパを並べる。</li> </ul>	○次のような事項に注意させる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノックをする。</li> <li>・のぞかない。</li> <li>・施錠をする。</li> <li>・便器の周りを汚さない。</li> <li>・使用後は水を流す。</li> <li>・公衆トイレには、痴漢防止のため、一人で行かない。</li> </ul> (T 1)
2 性器を清潔に保つ方法について話し合う。	10	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     男の子と女の子の使うトイレは、どうして形が違うのでしょうか。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男の子は立ってする、女の子はすわってするから。</li> <li>・おしっこの出るところが違うから。</li> </ul>	○男女の性器の違いを説明する。(T 2)
個人 ↓ グループ	10	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     おしっこやうんこが出るところをきれいにしておくためには、どんなことに気を付けるとよいでしょう。                 </div>	○プリント(資料1)に沿って話し合いができるような内容にする。(T 1、T 2)

↓ 全 体	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きれいにふく。</li> <li>・おふろに入る。</li> <li>・下着を着替える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>きょうの学習をペープサートで見ましよう。思ったことや考えたことを教えてください。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しっかりふくことを分からせる。</li> <li>・大腸菌が性器につかないよう、前から後ろへふくようにさせる。</li> <li>・入浴で性器をきれいに洗うこと、下着を取り替えることなどを理解させる。</li> </ul> <p>○トイレの使い方や清潔に処理することなどの内容のペープサート(資料2)をすることにより、実践の意欲化を図る。(T1、T2)</p>
----------	----	--	--

- (評価)
- ・男女の性器の違いが分かる。(観察・発表)
  - ・性器をきれいにしようとする。(ワークシート)

(資料1)

からだをきれいにしよう。

1ねん くみ ばん なまえ

おしっこやうんこがでるところをきれいにしておくためには、どんなことをしなければなりませんでしょうか。

- ☆ よいとおもうことをはなしあって、○をつけましよう。  
わけもかんがえてみましよう。

1	<input type="checkbox"/>	トイレのあとはよくふいて、おしっこやうんこがパンツにつかないようにする。
2	<input type="checkbox"/>	ゆぶねにはいるまえに、て、あし、おしっこやうんこがでるところをきれいにあらう。
3	<input type="checkbox"/>	うんこは、うしろからまえへトイレットペーパーできれいにふく。
4	<input type="checkbox"/>	まいにちおふろにはいって、からだをきれいにあらう。
5	<input type="checkbox"/>	したぎは、よごれたとおもったらはきかえ、まいにちかえることはない。
6	<input type="checkbox"/>	あらいばにちよくせつすわらない。
7	<input type="checkbox"/>	おしっこやうんこがでるところをきたないでさわらない。

- ☆ ほかにもよいとおもうことがあれば、かきましよう。

(資料2) ペープサート <けんちゃんの病気>

場面1

けんちゃん 「痛いよう！お母さん痛いよう！」  
 お母さん 「どうしたの？けんちゃん？」  
 けんちゃん 「おしっこをしたら、おちんちんが痛いんだ。」  
 お母さん 「まあ、大変！ばい菌が入ったのかもしれないわ。早く、お医者さんに行きましょう。」

場面2

お医者さん 「けんちゃん、どうしたの？」  
 けんちゃん 「おしっこをしたら、おちんちんが痛い。」  
 お医者さん 「きつと、おちんちんから、ばい菌が体の中へ入ってきたのね。どんなふうになっているのか、体をみてみましょうね。」

場面3

お医者さん 「まあ、大変！ばい菌だらけになっているわよ。」

場面4

お医者さん 「けんちゃん、どうして、こんなにばい菌だらけになったのかしら？遊んだ後、手を洗ってる？」  
 けんちゃん 「うん。」  
 お医者さん 「きたない手でおちんちんをさわってしまったのかな？お風呂にはまいにち入ってる？」  
 けんちゃん 「うん、入っているよ。」  
 お医者さん 「そう、でもね、ちゃんと洗えてるかな？ていねいに？」

場面5

お医者さん 「お風呂に入ったときには、石けんで体をきれいに洗ってね。特に、おしっこの出るところは、とても大事なところだから、ていねいにね。それから、おしりもね。耳の後ろも汚れているから、よく洗ってね。そして、お風呂から出たら、タオルできちんとふいてからきれいなパンツをはくのよ。」

場面6

お医者さん 「トイレでおしりをふくときは、前から後ろにふくのよ。そうしないとばい菌が入ってくるからね。今日は、ばい菌を殺す薬をあげますね。でもね、いつも体をきれいにしておかないと、また、ばい菌が入ってきて、痛くなるのよ。」

けんちゃんは、おうちに帰ってからお薬を飲み、お医者さんに教えてもらったとおり、体をきれいにしています。そして、今では、すっかり元気になったのでした。

おしまい

小学校 第3学年

学級活動指導案

指導者T1：学級担任 T2：養護教諭

1 題材名 からだといのちを自分で守るために (学級活動(2)-オ)

2 題材設定の理由

近年、幼児や小学生を対象とした誘拐や殺害、性的な被害が増加し、年々その手口も巧妙かつ凶悪になっている。このような状況を踏まえ、子どもの性を含むすべての暴力や犯罪から身を守ることは、学校や家庭での緊急かつ重要な課題である。そこで、自分の体や生命の大切さを知り、自らを守るための具体的な方法を身に付けさせるため、本題材を設定した。指導の場面では、養護教諭とのチームティーチングを取り入れ、ロールプレイングの機会を多くすることにより、自己を守るための実践化を図る。

3 本時の指導

(1) ねらい

- プライベートゾーンの大切さが分かる。
- 犯罪(性被害を含む)から身を守るための基礎的な態度や行動を身に付ける。

(2) 準備物 ペーパーサート・ワークシート・性被害の資料(1~7)

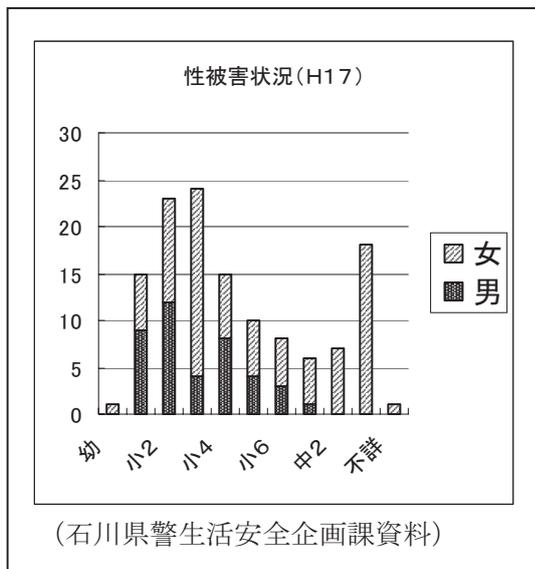
(3) 展開

学習活動	時間	指導上の留意点・支援の工夫	評価の観点・方法等
1 知らない人から声をかけられた経験について話し合う。	5	○ペーパーサートを使い、どのように誘われたかを発表させることにより、問題の意識化を図る。 (意見が出ないときは新聞記事から身の周りの被害の様子を伝える。)(T1)	
2 いつ、どんなところで誘拐や痴漢事件が起きているか資料をもとに考える。	10	○警察の資料から、性被害者の年齢や性被害が起こりやすい時間や場所などの実態を知らせることにより、身近な出来事であることに気付かせる。 (資料1、2)(T1) ○知らない人に声を掛けられるだけでなく、様々な被害を受けやすい状況にあることに気付かせ、危険予知能力を高める。 (資料3)	
3 プライベートゾーンの大切さについて知る。	7	○プライベートゾーンの場所を知らせ、特に大切な自分だけの場所であることを知らせる。地域や学級の実態に応じ、具体例を挙げながら「見ない」「見せない」「さわらない」「さわらせない」ことを理解させる。	○プライベートゾーンの大切さがわかる。(観察)

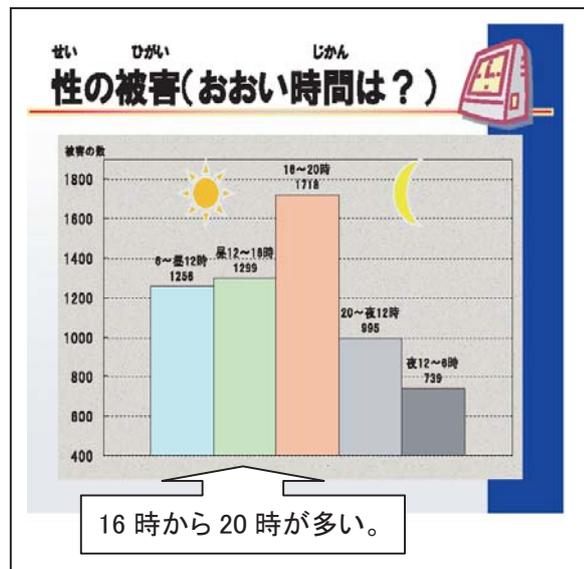
<p>4 危険な場面に遭いそうになったとき、どうしたらいいか役割演技をする。</p>	<p>18</p>	<p>(資料4) (T1)</p> <p>○相手に近づかないことや「いかのおすし」を知らせ、自分の身を守る方法について具体的に理解させる。(資料5) (T1)</p> <p>○いろいろな誘いの手口があるので、地域の実態に合わせて場面を設定し、2つのグループに分かれロールプレイングをすることにより、自分の身を守る方法を身に付けさせる。(資料6) (T1) (T2)</p>	<p>○誘拐などの犯罪(性被害を含む)から身を守るための基礎的な行動や態度について考えようとしている。(観察)</p>
<p>5 これから被害に遭わないようにするためにどうすればいいか考えて、発表する。</p>	<p>5</p>	<p>○ワークシートで学習を振り返り、自分がこれから気を付けることを確認させる。(資料7) (T1)</p> <p>○ワークシートを持ち帰らせ、家庭においても通学路の危険な場所や場面を想定して、どうすればよいか話し合わせる。(T1)</p>	<p>○自分の態度や行動を振り返り、被害に遭わないために日常生活の中で気を付けることが分かる。(ワークシート)</p>

※ 資料2、3、4、6 「いきいき性教育(小学校)」田村通子著 東山書房  
 ※ 資料5 「広島県警察署ホームページ」

(資料1 性の被害年齢)



(資料2 性の被害の多い時間)



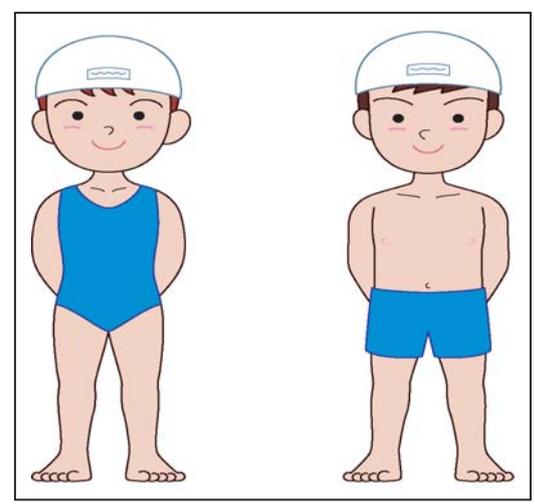
(資料3 性の被害を受けやすい場所)

### どんなとき、どんな場所があぶないか

<p>車が近づいてきた</p>	<p>家に入ろうとした</p>	<p>一人で帰っていた</p>
<p>マンションのろうかに一人でした</p>	<p>エレベーターに一人で乗った</p>	<p>一人で遊んでいた</p>

(資料4 プライベートゾーン)

見ない  
見せない  
さわらない  
さわらせない



(資料5 性の被害から身を守る方法～いかのおすし～)

### いかのおすし

知らない人について 「 <b>い</b> かない」	知らない人の車には 「 <b>の</b> らない」	何かあったら 「 <b>お</b> お声を 出す」	何かあったら 「 <b>す</b> くに にげる」	何かあったら 「 <b>す</b> くに しらせる」

(資料6 誘いの手口)



家の人が交通事故にあってたいへん! すぐ、病院へ行こう。

**やめて!**



よかったら、1枚だけ写真をとらせてくれないかな。

**いやだ!**



道をおしえてくれない? お礼にごほうびをあげるわ。

**たすけて!**

(資料7 ワークシート)

さそいにのらない

3年 ( )

- きけんな目にあわないためには、どんなことに気が付いたらよいかわかりましたか。  
ア よくわかった    イ 少しわかった    ウ あまりわからない    エ わからない
- さそいにのらない練習に進んで取り組みましたか。  
ア 進んで取り組んだ                      イ だいたい取り組んだ  
ウ あまり取り組めなかった    エ 取り組めなかった
- 知らない人に連れて行かれたり、いやなことをされたりしないためには、どんなことに気が付いたらよいでしょうか。



おうちの方へ

子どもたちは、知らない人に誘われたり、連れて行かれそうになったりしたときどうしたらよいかを学習しました。ご家庭でもそのことについて話し合ってください、感想をお書きください。よろしくお願いします。

締切

○月○日

**小学校 第4学年**  
**体育科 学習指導案**

指導者 T 1 : 学級担任 T 2 : 養護教諭

**1 単元名** 育ちゆく体とわたし

**2 題材観**

4年生になると、体の発育・発達に男女の違いが見られ、性意識や異性に対する関心が芽生え始める。また、発育の個人差が見られ、体の変化や他人との違いに不安を抱く児童も出てくる。そこで、本題材において、体の発育・発達を自分のこととしてより主体的に受け止めることにより、自分たちの心や体に起こる様々な変化や個人による発達の違いなどを肯定的に受け止め、お互いの性を認め合い、尊重することができる子どもを育てることができると思う。

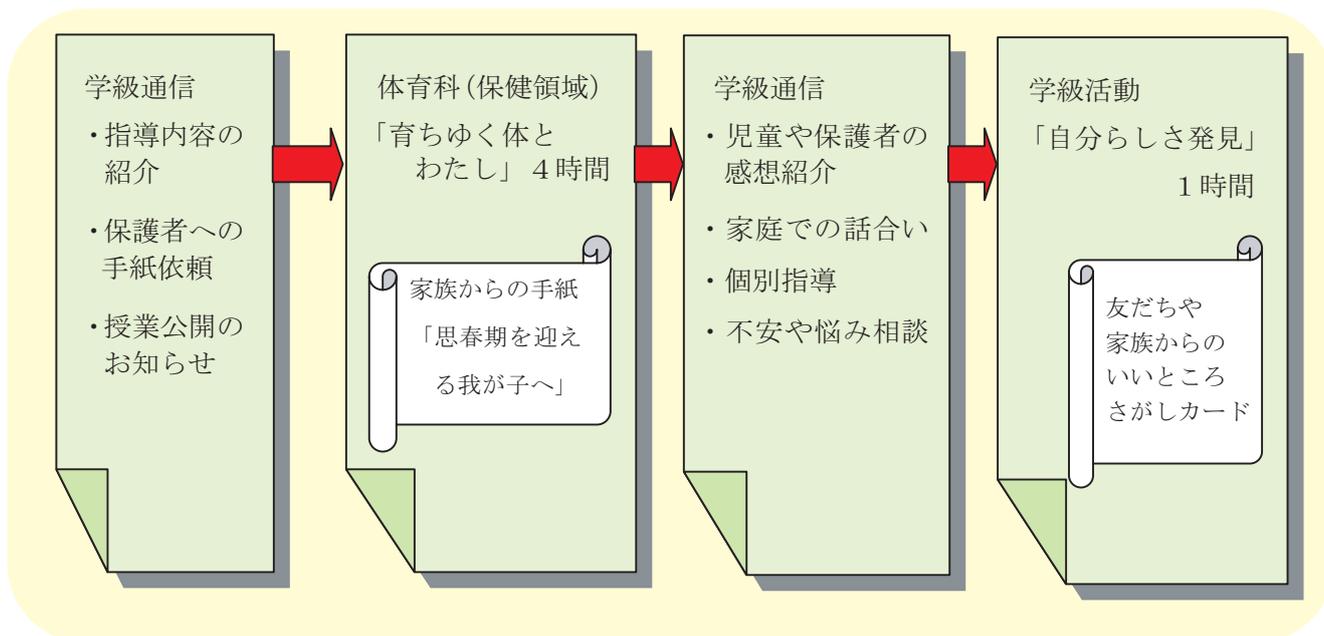
**3 目標**

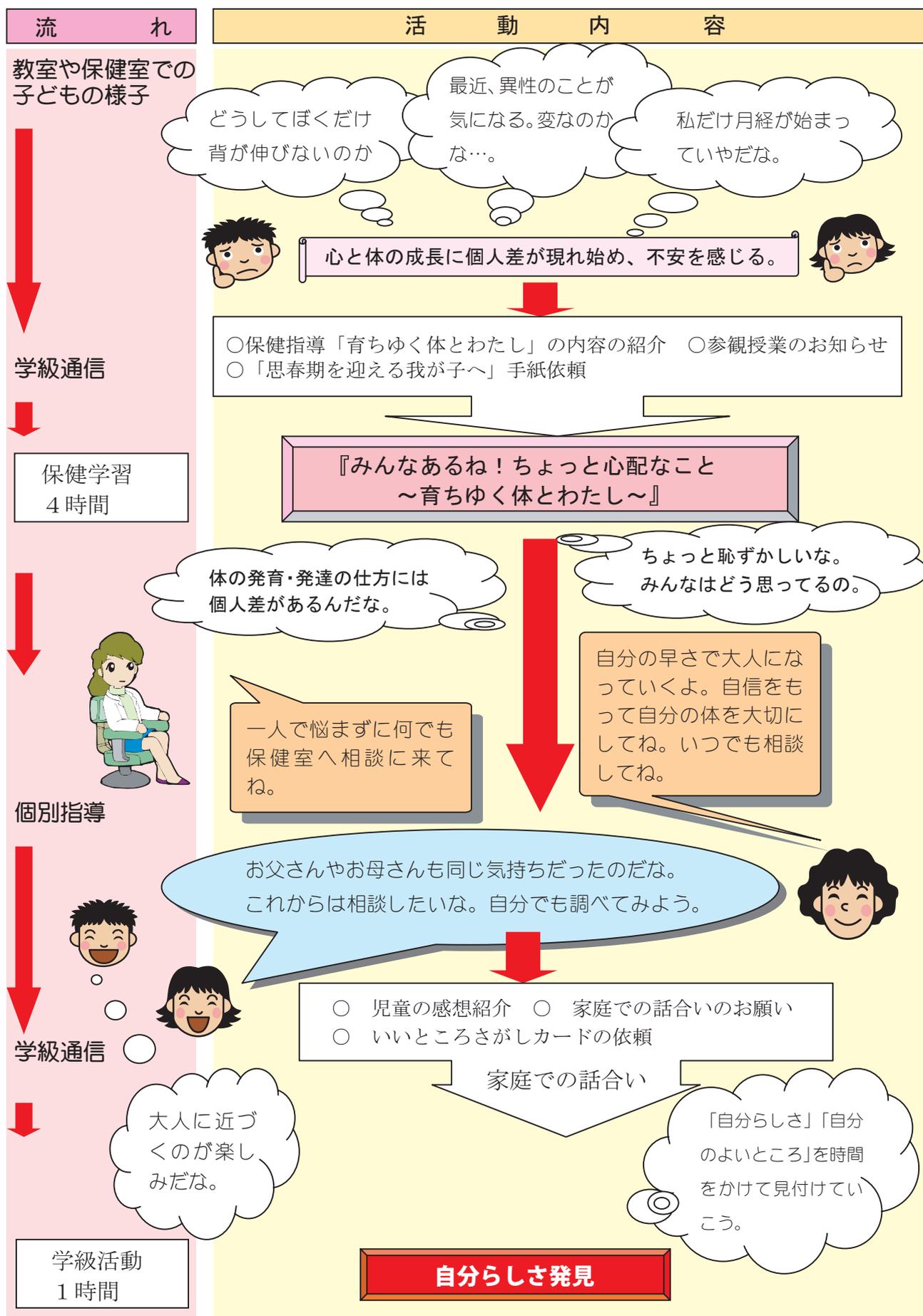
- 人の体つきの変化に興味を持って調べたり、自分の体の変化やこれからの発育を肯定的に受け止めたりしようとする。(関心・意欲・態度)
- 体の発育・発達と、食事、運動及び休養・睡眠の調和のとれた生活の関連を見付けたり、思春期の体の変化などについて自分のことに当てはめている。(思考・判断)
- 体は年齢に伴って変化することや、発育の仕方には男女差・個人差があることが分かる。(知識・理解)

**4 単元計画 (4時間扱い)**

配 当	主 題 名	内 容
第1時	大きくなってきたわたしの体	身長や体重の変化
第2時	すくすく育て わたしの体	食事、運動、休養と睡眠の大切さ
第3時	おとなに近づく体	思春期に起こる体の変化
第4時	体の中でも始まっている変化 (本時)	初経・精通

**5 自己肯定感を高めるための指導の流れ**





## 6 本時の指導

(1) 主題 体の中でも始まっている変化

(2) ねらい

- 自分の体の変化や成長に関心を持ち、肯定的に受け止めようとしている。
- 思春期には初経、精通が起こること、個人差があることが分かる。

(3) 準備物 ・男女の内性器の図・家族からの手紙・ふり返しカード  
 ・先輩からのメッセージ（録音テープ）

(4) 展開

学習活動・内容	時間	指導上の留意点及び支援の工夫	評価の観点・方法等
1 思春期の体つきの変化を話し合う。	5	○体の中にも変化が起こることを知らせ、自分の体の変化に関心を持つことができるようにする。(T1) (前時のふり返しカードを基に、不安や疑問を持っている児童を把握し、配慮する。)	
2 女子と男子の体の中の変化について学習する。	17	○男女の内性器の図を使って説明することにより、初経や精通の仕組みを視覚的にとらえることができるようにする。(T2)	
3 個人差について学習する。	8	○だれにでも起こる変化であることを理解させ、自他の成長を自然に受け止められるようにする。(T1) ○個人差があることを押さえ、興味本位にからかったり、逆に不安感を抱いたりしないように配慮する。(T1)	○体の変化は自然なことであり、個人差があることが分かる。(観察・ふり返しカード)
4 初経や精通を迎えたときの体験談や成長への期待を込めたメッセージを聞いたり読んだりする。	10	○身近な先輩や大人からのメッセージを聞いたり家族からの手紙を読んだりすることにより、周りの人の愛情に支えられながら成長してきたことに気付かせる。また、思春期に起こる体の変化を肯定的に受け止めることができるようにする。(T1)(資料1～3) (地域や学級の実態に応じ、家族からの手紙がそろいにくい場合は、「あるお母さんからの手紙」を読む。)	○自分の体の変化や成長に関心を持ち、肯定的に受け止めようとしている。 (観察・ふり返しカード)
5 今日の学習を振り返る。	5	○不安や悩みを抱えている児童を把握し、事後指導で個別に対応する。(T1・T2) (資料4)	

**参考**

2006年に京都大学大学院木原雅子助教授が小学生対象に調査した結果によると、「男女の体のしくみ」について男女別に教えて欲しいと答えた小学4年生は男子 41.5%、女子 49.3%、5年生は男子 49.3%、女子 61.9%であった。

主な理由は、次のとおりである。

- 男女一緒に恥ずかしかった。それを、親に参観されると特に恥ずかしい。
- 月経について、男の先生に言われて恥ずかしかった。質問ができなかった。
- はだかの絵は、見たいけど男女一緒だと友だちから冷やかされるのであまり見るのができなかった。
- 男女別々で学習したほうが、集中できる。

以上のことから、小学校高学年においては、男女別習で、男子を男性教諭が女子を養護教諭や女性教諭が指導することにより学習効果が高まる可能性があると報告されている。

(資料1 メッセージ依頼の学級通信)

**性教育についてのお知らせとお願い**

4年生の保健学習では、単元「育ちゆく体とわたし」で、思春期に起こる体や心の変化について学習します。この時期の子どもたちは、個人差はあるものの急激に体が発育・発達してきます。様々な体の変化に、戸惑いを感じたり不安や悩みを持ったりする子も少なくありません。

そこで、体の変化を大切なこととして肯定的にとらえられるようにするために、保護者の皆様からのメッセージをお願いします。体の変化はだれにでもおこる自然なことであり個人差があること、周りの大人すべてが相談者であることを伝えたいと思います。よろしくをお願いします。

例・お母さんは中2のころに初経が始まったのよ。お赤飯をたいてお祝いしてもらったよ。

- ・自分を大切にしてください。いつでも相談してね。
- ・お父さんは小6でひげがはえてきたんだ。 等

なお、書いていただいたメッセージは授業の中で子どもたちに読んでもらいます。

○月○日までに、封筒に入れて持たせてください。ご協力よろしくお願ひいたします。

(資料2 保護者からのメッセージ)

**4年生のみなさんへ**

私は、中学1年生の時とてもうれしいことがありました。それは、初経が始まったことです。家族みんなが喜んでくれて、お赤飯をたいてお祝いしてくれました。体の変化は大人になるための大切な準備です。でも、始まる時期が人それぞれ違うので、あなたのお祝いをする日がいつかなあと楽しみに待っています。子どもはみんな少しずつ自分の早さで大人になります。不安なことや困ることがあったら、お父さんやお母さんにいつでも相談してくださいね。

(資料3 身近な先輩 大人からのメッセージ)



## 大人になっていくあなたへ

みなさん、こんにちは。今、わたしのおなかの中では、新しい命が育っています。小学生のころは、自分の体の変化に不安を感じたり、悩んだりしたことがあります。でも、それはこの新しい命を生み出すための準備で、素晴らしいことだったんです。みなさんにもこれから様々な体の変化が起こってくると思いますが、新しい命を生み出すための準備の始まりです。自信を持って自分の心や体を大切にしていってください。

ぼくは、今中学2年生。ぼくの声変わりが始まったのは、小学4年生の3学期だった。クラスで一番早くて、音楽の時間など声が出ていくていやだった。体の変化は恥ずかしいと思うこともあるけれど、それは恥ずかしいことではなくて大切なことなんだ。みんなも心配しなくて大丈夫だよ。

わたしは、今中学1年生。小学校5年生の時、仲よしの女の子の月経が始まったと知ってショックでした。取り残されたような気持ちで、自分はいつだろうと不安な気持ちでした。お母さんに相談すると、「そのうち始まるから気にすることはないよ。お母さんは中学2年生の頃だったよ。」と、話してくれました。それからは、体のことを他の人と比べたりしないで、自分は自分と考えたらいいと気付きました。これからは、一人で悩んだりせず、友だちにも気軽に相談したいです。



(資料4 ふり返りカード)

### 「みんなあるね ちょっと心配なこと」ふり返りカード

4年組( )

- ① 体の中でも大人になる準備が始まっていることがわかりましたか。  
 ア わかった                      イ 少しわかった  
 ウ あまりわからない              エ わからない
- ② 心や体のことで気になることや心配なこと、もっと知りたいことを書きましょう。



<b>小学校 高学年女子</b>
<b>宿泊行事事前指導 活動実施案</b>

テーマ 「月経とその手当て」

<p><b>1 設定の理由</b></p> <p>4年生において体育科の保健領域で「思春期に起こる体の変化」、また、5年生においては、理科で人は母体内で成長し生まれることを男女共習で学習する。しかし、高学年女子の中に、おとなの体に近づいていることは理解しているが、初経や月経について不安を感じている児童がいる。</p> <p>そこで、生活環境が変わる宿泊行事を前に、初経の意義や月経の仕組みを具体的に理解させ、月経時の生活を安心して送ることができるようにする。</p>
<p><b>2 ねらい</b></p> <p>(1) 体の発育に伴って、女子は初めての月経を体験するようになることを知らせ、初経を迎える心構えを持つ。</p> <p>(2) 月経には適切な手当てや日常生活での配慮が必要であることを知り、それを身に付ける。</p>
<p><b>3 対象</b></p> <p style="text-align: center;">高学年 女子</p>
<p><b>4 場所</b></p> <p style="text-align: center;">多目的スペース</p>
<p><b>5 指導者</b></p> <p style="text-align: center;">養護教諭、対象学年の女性教諭</p>
<p><b>6 内容</b></p> <p>(1) 導入 詩の朗読（大人になるための心身の変化を明るく前向きに受けとめられるもの） （資料1）</p> <p>(2) 女子の身体の変化 ア 乳房の発達      イ 体の中の変化</p> <p>(3) 初経に対する心構え ア 初経の意義 イ 月経は健康な発育のあかし ウ 月経の個人差</p> <p>(4) 月経の手当て 手当用品の選択（ショーツ・ナプキン）と使い方</p> <p>(5) 月経時の生活 ア 服装                      イ スポーツ                      ウ 突然始まった時 エ 入浴のしかた      オ トイレの使い方      カ 下着の洗濯 キ 月経の記録</p> <p>(6) 素敵な女性になるために</p> <p>(7) 評価と反省</p>

留意点

- ア 保健で既習したことを思い出し、自分の体に起こりつつある変化を肯定的に認識できるようにする。
- イ 初経の起きる時期には個人差があるので、早くても遅くても心配はிரらないことを伝える。
- ウ 心配や不安を持っている子が多いと思われるが、女子の健康な発育のあかしでだれもがなることなので、心配はிரらないことを伝え、安心して迎えられるようにする。
- エ 疑問や不安のある児童には、一人で悩まないで家族または養護教諭や女性教師に相談をするとよいことを知らせる。
- オ 自分だけでなく、友だちの発達を喜び、友だちの体も大切にしようとする気持ちが持てるように助言する。
- カ 「自分のからだは自分で管理できる素敵な大人になる」ような雰囲気作りをする。

(資料1「変化する心とからだ 改訂版 教師用指導書」ばすてる書房)

今、どんどん変わる、わたしたちのからだ  
はっきりと形に現れる  
からだの中で静かに変わる

女の子が女性へ  
男の子が男性へ  
わたしたちのからだが変わる

確かに変わっていく わたしたちのからだ  
新しい発見 新しい経験  
いのちのいとなみに  
おどろき、心をうたれる

美しいものに 心をうたれ  
人間らしい あたたかみに  
心をうたれる  
人間らしい 豊かな心が育つ今

### (3) 中学校及び中等教育学校（前期課程）編

#### ア 目標

中学生の時期は、男女の身体的特徴がはっきりしてくる。また、ほとんどの子どもたちが、初経・精通を経験するなど、性的発達のもっとも著しい時期である。そして、性的なことや異性に対する興味や関心が高まり、不安定な心理状態が現れたりする。このような心身の変化を正しく受け止め、自分の性とどのように向き合っていくのかを考えさせることによって、人間尊重の精神に基づいて、相手の特性を理解して人間関係を築き、望ましい意志決定や行動の選択ができるよう指導する。

中学校卒業後、社会に巣立つ子どもたちもいることから、性に関する知識や人間としての生き方について、しっかりと身に付けさせる。

- 1 心身の発育・発達や変化など人間の性の成熟について科学的に理解するとともに、発達途上にある自己の性を受容し、自他を大切にしようとする気持ちを持って行動できる。
- 2 男女の心身の特徴を基に男女が互いに相手を理解し、人格を尊重する心情や態度を養う。また、望ましい人間関係を築くために、より適切な行動選択ができる。
- 3 男女の生き方は多様であることを理解し、家庭や社会において期待される役割や自己の将来の生き方について考えるとともに、社会における性に関する事象を見つめて、家庭や社会の一員として適切な判断や意志決定、行動選択ができる。

#### イ 指導内容

視点	自己の性の認識を確かにするために必要な内容	男女の人間関係の育成に必要な内容	家庭や社会の一員として必要な性に関する内容
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体の発達が著しく、生殖機能が成熟する時期であり、個人差も著しい。</li> <li>○自我意識が高まり、性に関する不安や葛藤が生まれるなどの不安定な心の状態になりやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○性や異性に対する関心が高まり、異性とのかかわりを求める傾向にある。</li> <li>○友だちとの人間関係を重視するあまり、悩むことが多くなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会の一員として、適切な社会性を育てることが重要な時期である。</li> <li>○自己を取り巻く社会環境や性の情報環境、仲間の性に関する態度等をどうとらえるかなどについて、考えを深めることが重要となる。</li> </ul>
指導のねらい・内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○思春期の身体の変化について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・男女の体の発育・発達は男女や個人によって違いがあることを理解させ、不安や悩みを解消することができるようにする。</li> </ul> </li> <li>○月経、射精について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の性以外に異性についてもその生殖機能と発達の仕組みについて理解させる。</li> </ul> </li> <li>○思春期の心理的特徴について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や教師への反抗、承認要求、自己顕示欲、自信と不安、理想と現実、仲間との強い連帯感、自己の容姿、異性への関心など感情の起伏が激しくなることを理解させる。</li> </ul> </li> <li>○性にかかわる不安や葛藤について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・性に関する不安や悩みへの対処について考えさせる。</li> </ul> </li> <li>○性衝動と性行動について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・性に対する健康で肯定的な概念形成や社会的に適応する適切な性行動等について理解させる。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な男女関係について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・男女の人間関係は、友人、恋人など様々あるが、人間尊重を基盤とした関係が重要であることを理解させる。</li> </ul> </li> <li>○特定の異性とのかかわりについて                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・男女の関係には過程があり、人の愛情表現や感じ方も多様なので、エチケットやマナーが必要であることを理解させる。</li> </ul> </li> <li>○性行動について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の性行動は多様であり、心の働きが深くかかわっていることを理解させる。</li> </ul> </li> <li>○性感染症について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染経路は性的接触である。感染を予防するには性的接触をしないことを理解させる。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○性役割について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯にわたってよりよく生きることができるとして、社会における自分の役割、将来の生き方について考えさせる。</li> </ul> </li> <li>○性の情報環境について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・マスコミの性情報には営利目的で興味本位の内容が含まれていることを理解させ、情報に対する賢明な選択能力を身に付けさせる。</li> </ul> </li> <li>○性的な問題行動について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・性被害の防止、人間としての倫理観や規範意識の形成が必要であることを理解させる。</li> </ul> </li> </ul>

（『学校における性教育の考え方、進め方』 文部省 1999 をもとに作成）

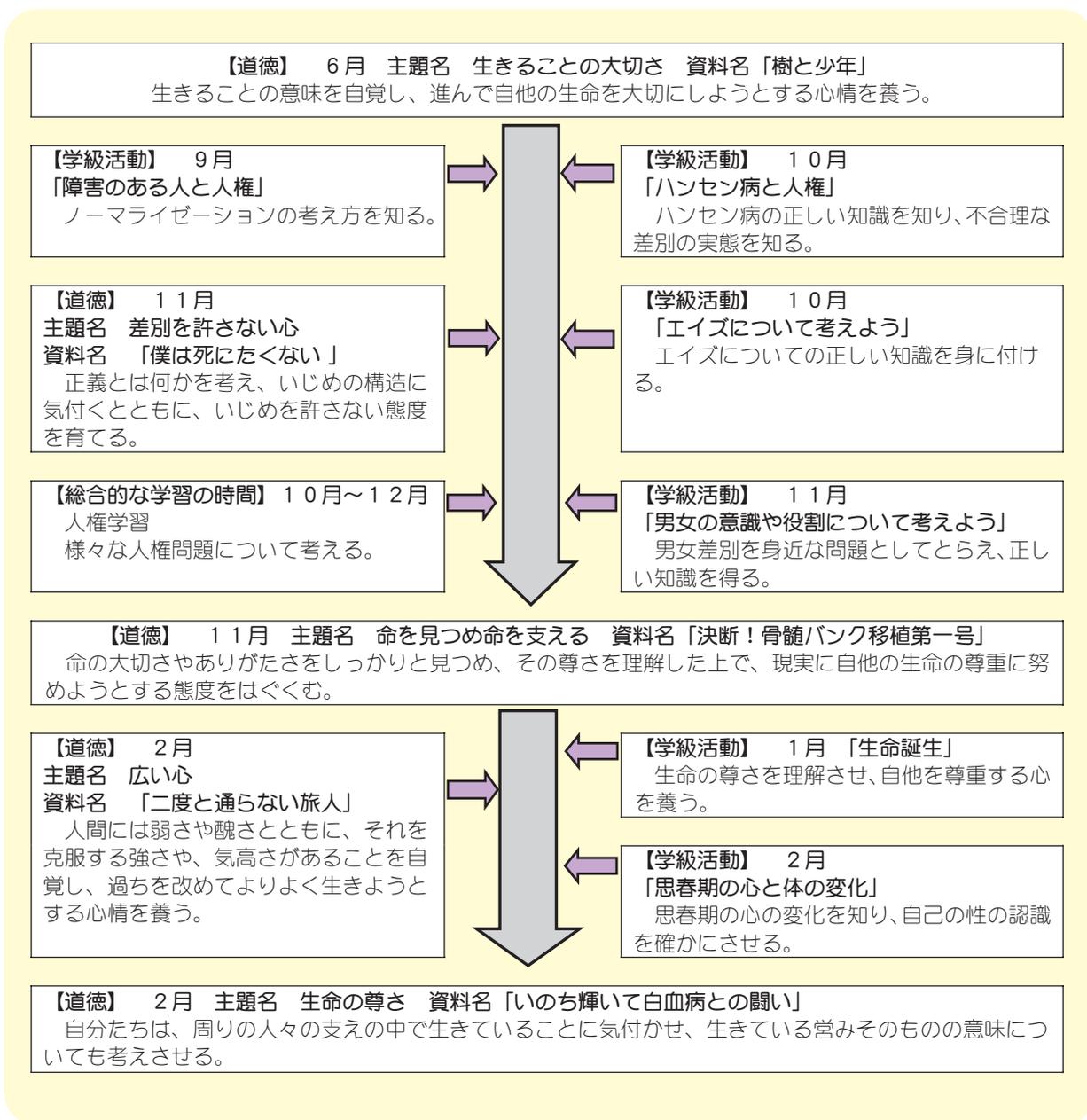
1 主 題 命を見つめ命を支える【3-(2) 生命の尊重】  
 関連項目 2-(2) 人間愛、感謝と思いやり

2 資料名 「決断！骨髄バンク移植第一号」（東京書籍）

3 主題設定の理由

他者に対する優しさや思いやりの心を身に付けるためには、まず、自己の生命の尊さを深く考えることが大切である。また、生命を尊ぶことは、かけがえのない生命をいとおしみ、自らもまた、多くの生命によって生かされているということに、素直にこたえようとする心の表れであると言える。生きていることの有り難さに深く思いをはせ、自らの生命の大切さを自覚するとともに、他の生命を尊重する態度を育てたいと考え、本主題を設定した。

4 他の活動との関連



## 5 人権・同和教育の視点

人間は、多くの生命によって生かされていることを感じ、自己の生命のみならず、他者の生命も同じように尊重することの大切さに気付く。

## 6 本時の指導

### (1) ねらい

命の大切さや有り難さをしっかりと見つめ、その尊さを理解し、現実的に自他の生命の尊重に努めようとする。

### (2) 準備物

ワークシート 心のノート

ビデオ「プロジェクトX 決断 命の一滴 ～白血病・日本初の骨髄バンク～」

### (3) 展開

学 習 活 動	時 間	主な発問と予想される生徒の反応	教師の指導及び支援（◇評価）
1 前時の学習内容を振り返る。	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「白血病」とはどんな病気でしたか。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・血液のガン。</li> <li>・骨髄移植で助かる病気。</li> </ul> </li> <li>○骨髄バンクとは、どんな仕組みでしたか。どんな課題がありましたか。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者とドナーを登録して骨髄移植をしやすいとする。</li> <li>・ドナーの協力が得られない。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前時を振り返り、「白血病」「骨髄バンク」「骨髄移植」について復習させる。</li> <li>○病気の大変さや移植の難しさをしっかりと押さえる。</li> </ul>
2 映像資料の前半部分を視聴して考える。 ○田中さんの揺れ動く心境	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>○白血球の型が一致したと分かった田中さんがすぐに「提供します。」と答えたのはどういう気持ちからだろうか。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・人の役に立ちたいと思ったから。</li> <li>・他人の命でも大切だと考えたから。</li> </ul> </li> <li>○移植の検査が始まってから、田中さんの心が揺れ動いたのはなぜだろうか。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・怖くなった。</li> <li>・他人のために、なぜ自分が苦労しなければいけないのかと考えた。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○思いつきや成り行きで決定したのではない、田中さんの心情を深く考えさせる。</li> <li>○田中さんの心情の変化に迫り、迷いや戸惑いに共感できるよう工夫する。</li> </ul>
3 映像資料の後半部分を視聴して考える。 ○田中さんの思い	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>○田中さんはどんな思いで骨髄を提供しようと思ったのでしょうか。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・たとえ他人の命でも、助けてあげたいと考えたから。</li> <li>・人の役に立ちたいと思ったから。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の家族や患者とその家族のことを考えた結果の重い決断であったことを押さえる。</li> <li>◇他人の命も自分と同様に大切であるという気持ちに共感している。</li> </ul>
4 骨髄移植後の様子を読み、話し合う。	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>○田中さんと橋本さんは、がっしりと手を握り合い、固い握手をして抱き合い、どんなことを確かめ合ったのだろう。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・生きていてよかった。</li> <li>・あなたのお陰です。</li> <li>・ありがとう。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○握手から読み取れる二人の心情や、命の大切さに共感できるように配慮する。</li> <li>◇自分が生きていることが他の人を生かし、他の人が生きていることが自分を生かしているという思いに共感している。</li> </ul>
5 教師の説話を聞く。	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今日の学習で感じたことを書きましよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の命の大切さとともに、命あるものは、互いに支えあって生きていることを押さえる。</li> <li>○「心のノート」に記入させる。</li> </ul>

テーマ 「思春期の心と体」

1 設定の理由	<p>教室にわいせつな本を持ち込み、男子数人で読み回しをしていたり、体育授業時に女子の見学者にからかいの言葉をかけたりするような行動が見られた。学年全体に異性に対する興味・関心が高まっている雰囲気があり、集団の中での自分の在り方について考えさせる必要があることから、学年での一斉指導を実施した。</p>
2 ねらい	<p>男女の心や体の違いを理解し、互いに思いやり、大切にしながら、適切な意志決定や行動選択ができるようにする。</p>
3 対象	中学1年生全員
4 場所	体育館
5 指導者	1年部教職員、養護教諭
6 内容	<p>中学1年生全員を対象に事前アンケートを実施し、友だちがどのようなことを考えているのかを知り、自分の考えと比較してみる。</p> <p>(1) はじめに 質問1：今の自分と小学校の時の自分を比較して、今思春期であることを知らせる。 先生の体験談を聞くことにより、先生が思春期を通過してきた先輩であることに気付かせる。</p> <p>(2) 思春期への関心 質問2～4：思春期は異性に関する興味・関心が高まる時期であり、日常の行動について考えさせる。</p> <p>(3) 射精と月経について 質問5、6：お互いの体に起こっている現象について理解させる。</p> <p>(4) 集団の中の自分 質問7、8：人間関係を作るために、自分が友人にしてもらいたいこと、してもらいたくないことの結果を見て、周りの友人とのかかわり方について考えさせる。</p> <p>(5) まとめ 質問9：今の自分を見つめ、これからの自分の在り方を考えさせる。 質問10：「自分たちの学年」という意識を持たせるように、意欲を引き出す。</p>
7 留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事前アンケートを実施する際に、後日この結果を基に学年集会を実施することを知らせ、関心を高めておく。</li> <li>○集会時の隊形は男女別にし、それぞれの仲間意識や反応を把握する。</li> <li>○学年部の全教職員と養護教諭が指導に当たることにより、いつでも誰にでも相談できる体制を作るように工夫する。</li> </ul>

## アンケート

1年 ( ) 組 ( 男 ・ 女 )

このアンケートは 月 日の学年集会の資料に使います。当てはまる項目に○を付け、自分の考えを記入してください。

- 1 小学校の時と比べて自分が変わったと思いますか？  
ア 思う                      イ 思わない                      ウ わからない
- 2 特に親しい異性の友人が欲しいですか？  
ア 欲しい                      イ 欲しくない                      ウ わからない
- 3 異性のことに関心がありますか？  
ア ある                      イ ない                      ウ わからない
- 4 教室の中で数人が集まって週刊誌を見ながら性に関する話をしているのを見かけました。どのように感じますか？ (○はいくつでもよい)  
ア いっしょに入って話がしたい      イ 話はしにくいがそばで聞きたい  
ウ 恥ずかしい                      エ やめてもらいたい  
オ けいべつする                      カ 別にかまわない (気にならない)  
キ その他 ( )
- 5 男子の体に起こる射精について知っていますか？  
ア 知っている                      イ あまり知らない                      ウ 知らない
- 6 女子の体に起こる月経 (生理) について知っていますか？  
ア 知っている                      イ あまり知らない                      ウ 知らない
- 7 人間関係をつくるうえで、あなたがいちばん友人にしてもらいたいことを書いてください。
- 8 人間関係をつくるうえで、あなたがいちばん友人にしてもらいたくないことを書いてください。
- 9 今の自分へひとことメッセージを書いてください。
- 10 1年生のみんなへひとことメッセージを書いてください。

月 日は1年生みんなで学習します。楽しみにしてください。

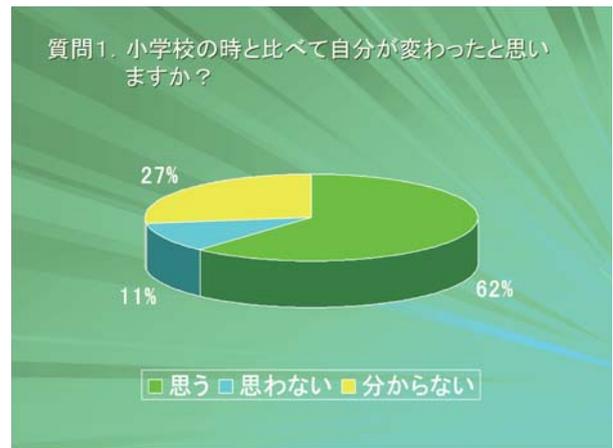
(資料) 次のスライド (27枚) は、全校集会時にプレゼンテーションソフトを活用して生徒へ提示したものである。

1年生性教育全体学習  
**「思春期の心と体」**

平成 年 月 日  
 ○○市立○○中学校1年部

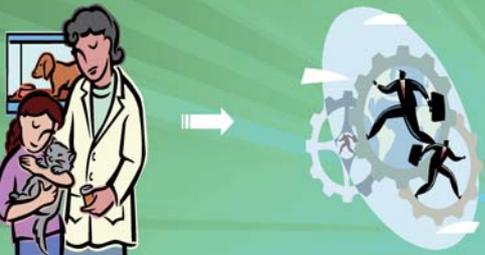
「今の私たちって何者だろう？」  
 「長い人生の中でどんな時期だろう？」  
 「自分を知って自分を考える時間」

1年生の子どもたちの写真

○○先生

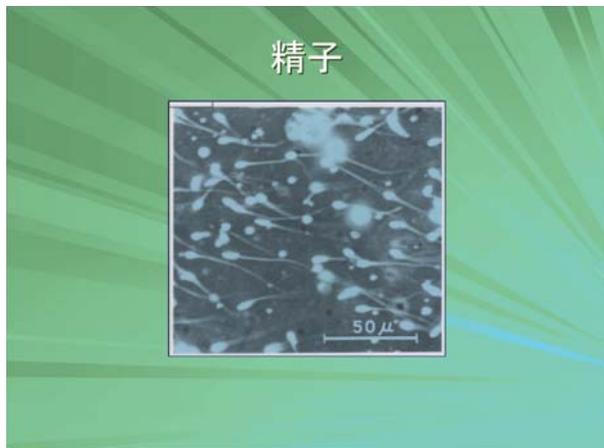
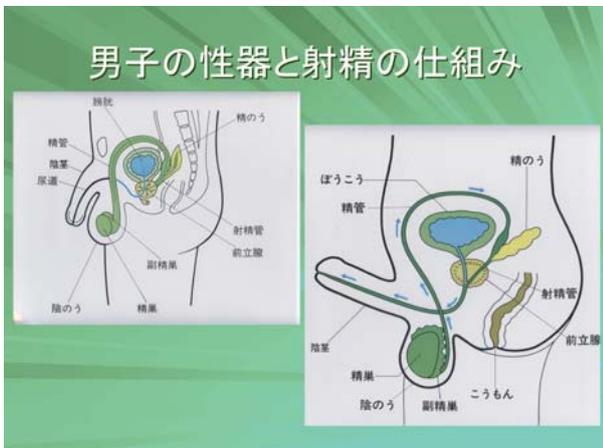
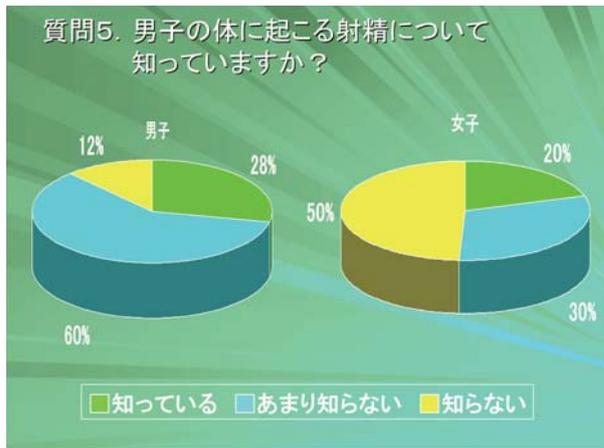
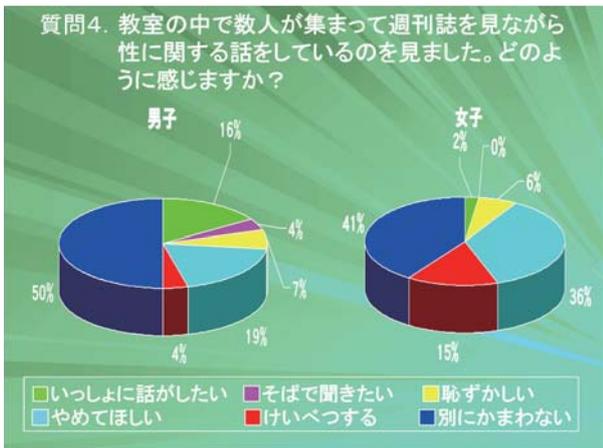
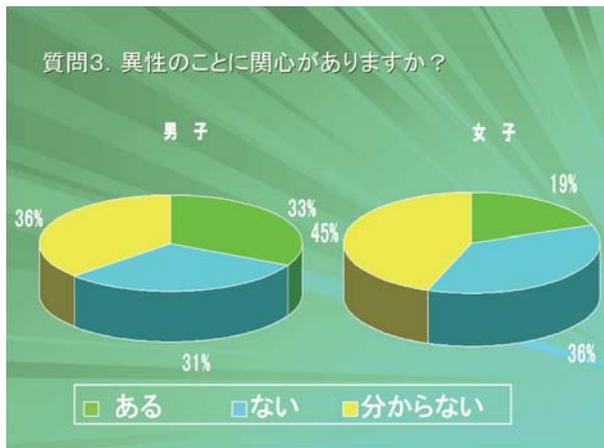
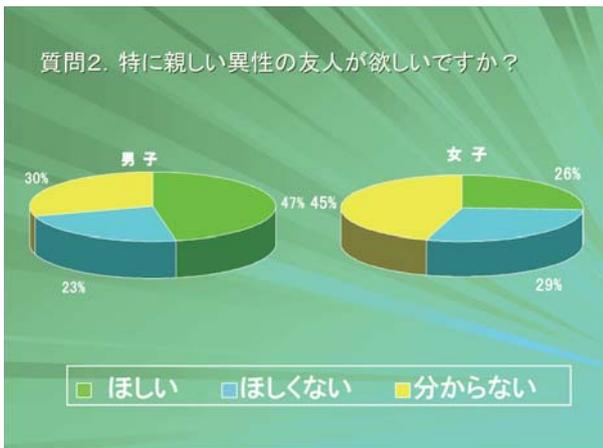
小学生時代の写真      中学生時代の写真



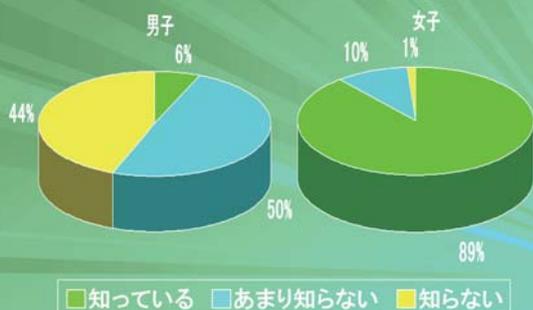
▲▲先生

小学生時代の写真      中学生時代の写真

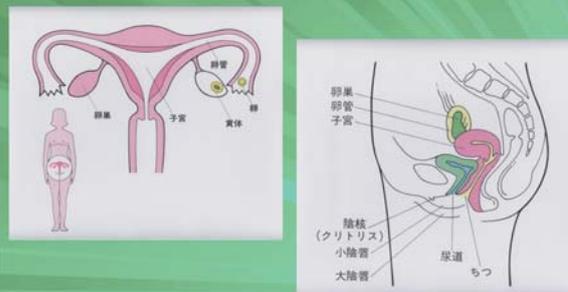




質問6. 女子の体に起こる月経について知っていますか？



## 女子の性器



## 質問7. 友人にしてもらいたいこと

<男子>

- ・何かやってあげたら「ありがとう」と言ってほしい
- ・もっと、いけないことを注意したり、よかったことはほめたりしてほしい
- ・心から仲よくしてほしい
- ・今のまま仲よくすること
- ・ずっと友だちでいてほしい
- ・約束を守ってほしい
- ・遊んだり一緒に勉強したい
- ・ほめてほしい
- ・何でも嫌がらないで手伝ってほしい
- ・暴力をしないでほしい
- ・相談にのってほしい
- ・一緒にいてほしい

<女子>

- ・優しく接してほしい
- ・一緒にいてほしい(ずーっと！)
- ・自分の意見だけじゃなくてみんなの意見もちゃんと聞いてほしい
- ・勉強を教えてほしい
- ・普通でいてほしい
- ・小学校の時性教育を受けていないので性のことについて相談にのってほしい
- ・いつでも優しく、そしておもしろく
- ・悩んだ時相談にのってほしい
- ・時と場を考えて話す内容を考えてほしい
- ・笑ってほしい
- ・信じてほしい
- ・みんなに平等に接してほしい
- ・部活の時アドバイスしてほしい
- ・親切にされたり、優しくされるとうれしい
- ・たまには頼ってほしい

## 質問8. 友人にしてもらいたくないこと

<男子>

- ・人の物を取る(盗み)
- ・自分はどうしようもないことを言わないでほしい
- ・人にちょっかいを出さないでほしい
- ・噂や悪口、仲間はずれ
- ・無視、裏切り
- ・度が過ぎた暴力
- ・友だちとしての付き合いに裏表があったり、陰で自分の悪口を言うこと
- ・変なあだ名を付ける
- ・言い訳をする
- ・自分が一生懸命していることをバカにすること

<男子>

- ・授業中に悪口を言わないでほしい(小学校からずっと続けている)
- ・わい談
- ・少しは異性のことで話をするかもしれないけど、それを変に思わないでほしい
- ・軽べつ、嫌なあだ名
- ・ケガや事故をしてもらいたくない
- ・約束を破ること
- ・プロレス技をかけてくること
- ・いろいろなことに巻き込まないでほしい
- ・携帯を持っていない人もいるので自慢しないでほしい

### 質問8. 友人にしてもらいたくないこと

#### <女子>

- ・ 借りっぱなしで貸した物を返してもらえないこと
- ・ 悪口や「まあこいつはバカだから」などということ
- ・ 無理矢理何かさせられたりすること
- ・ 悪口、嫌がらせ、噂、無視、罵ること
- ・ たたかないでほしい
- ・ そんなことないと思っているけど、陰で悪口言ったりしないでね
- ・ 冗談でもあまりひどいことを言ってほしくない
- ・ 人を軽べつした冷たい目で見ないでほしい
- ・ “〇〇さんってどう思う？嫌なんだよね？”と同意を求められること
- ・ 好きな人の話とかでからかう

#### <女子>

- ・ 相手が嫌と言っていることをしない
- ・ 性に関しての話
- ・ 秘密をばらされる
- ・ 人によって態度を変えないでほしい
- ・ 爪を切ってほしい
- ・ ペタペタひっついてこないでほしい
- ・ 相談した内容を笑うこと
- ・ あまり仲よくない人にいきなり頭をさわられたくない

### 質問9. 今の自分へひとことメッセージ

#### <男子>

- ・ 自分で決める
- ・ 今の時期にたくさんいい友達を作る
- ・ やればできる
- ・ なるべく学校を休まない
- ・ もっと勉強して頑張る
- ・ 大変なときもあるけど頑張ろう
- ・ 後悔するな
- ・ どんなことがあってもくじけないで自分の考えをつらぬき通せる
- ・ 自分は自分

#### <男子>

- ・ 笑顔で生きる
- ・ 前向きにいこう
- ・ ゲームの時間を減らせ
- ・ もう少し忍耐強くなる
- ・ 時々人に暴力やいじめをするのでそれを直す
- ・ 軽いことをしない
- ・ あきらめるな
- ・ けじめをつけよう
- ・ 今のままで大丈夫
- ・ 人に流されるな
- ・ どうすんの！俺！

### 質問9. 今の自分へひとことメッセージ

#### <女子>

- ・ プラス思考でいこう
- ・ あきらめない
- ・ いろんなことから逃げないで
- ・ 人の多い所でも普通の声でしゃべることができるように
- ・ 失敗を何度してもいい。でも、同じ失敗を繰り返さないように
- ・ 陰口を言わない
- ・ 何事にも前向きにいこう
- ・ 思いやりの気持ちを持って人に接していきたい
- ・ 友だちを大切に
- ・ 隠し事をしない

#### <女子>

- ・ ちょっとしたことぐらいでくじけない
- ・ 部活でがんばれ！
- ・ 生活のリズムを変えよう
- ・ 前に比べて自分らしさが出せていいと思う
- ・ もっと積極的に話せるように
- ・ 明るいところをもっと前面に！
- ・ そのままの自分で！自分らしく！
- ・ 勉強と部活の両立を頑張る
- ・ やせる
- ・ 美人になりたい

質問10. 1年生みんなへのメッセージ

<男子>

- ・先輩になるんだから頑張れ
- ・一人が笑顔になったらみんなが笑顔になるから笑って生きろ
- ・楽しくすごそう ・仲よくしよう
- ・けんかをなくそう ・悪口をやめましよう
- ・もっと落ち着いたらいいと思う
- ・みんなで助け合える1年生であってほしい
- ・人に優しくしていこう ・元気出していこう
- ・強く生きろ ・しっかりやろう
- ・あだ名を言わないでほしい

<女子>

- ・1年生は今しかないので後悔しないようにあと一ヶ月頑張る
- ・いつも仲よくしてくれてありがとう。話したことない人も気軽に話しかけてください
- ・やればできる ・けじめをきちんとつけよう
- ・今しかできないことを一生懸命やろう！
- ・たくさんの思い出を作っていきたい
- ・仲よくしよう ・男女仲よくしたいな
- ・明るく差別のない学年にしていこう
- ・みんなで力を合わせよう ・1日1日を大切に
- ・人のことを思いやる気持ちを持つこと
- ・男子は子どもっぽすぎる

これからのみなさんの  
成長に期待します。

おわり

1 題材 あぶない！出会い系サイト（学級活動（2）ーイ）

2 題材設定の理由

生徒の性に対する意識は、情報化社会の影響を受けて大きく変化している。性意識は開放的になり、道徳性や規範意識の薄れとともに、性的な被害を受けやすくなっている。また、性的な欲求の高まりとともに歪んだ性意識を持ち、欲求のコントロールが出来ずに加害者になってしまうケースも生じている。このような状況を踏まえ、本題材では、生徒が犯罪から身を守るために、出会い系サイトの事態を知り、被害者にならないための具体的な対応や予防方法を考え、適切な行動選択ができるようにすることが大切と考え、本題材を設定した。

3 本時の指導

(1) ねらい

- 出会い系サイトの利用は、犯罪に巻き込まれる危険性が多いことを知る。
- 自分の身を守るためにも正しい行動選択をすることが大切であることが分かる。

(2) 準備物 資料 『あぶない！出会い系サイト』警察庁ホームページ

(<http://www.npa.go.jp/cyber/deai/parents/index.html>)より

(3) 展開

学習活動	時間	教師の指導・支援	評価の観点・方法等
1 携帯電話のよい点、悪い点について話し合う。	10	○ブレインストーミングを用いることにより、グループでの話し合いが活発になるようにする。 ○携帯電話は「いつでも、どこでも、だれとでも」連絡を取ることができる利点があるが、問題点も多いことに気付かせる。	
2 出会い系サイトを利用した犯罪の状況について知る。	10	○警察庁の資料から、犯罪に巻き込まれやすい年齢などを知らせることにより、身近な問題であることに気付かせる。	○出会い系サイトの利用は、犯罪に巻き込まれる危険性が多いことを知る。（観察）
3 犯罪に巻き込まれる原因を考える。	20	○出会い系サイトを利用した凶悪犯罪の実例を紹介し、出会い系サイトにのめり込む原因に気付かせる。 ・相手に対面しないため、抵抗感が少ない。 ・手軽に、頻繁にやり取りができる。 ・文字によるやり取りが主体であることから危険意識、罪悪感が薄れやすい。 ・寂しさや不安感を紛らわすことができる。 ・興味をそそる内容である。 ○出会い系サイトにはだれもが持っている心のすきを狙った恐ろしい罠が潜んでいることに気付かせる。 ○警察庁の資料を用いて、「見ない」「書き込まない」「絶対会わない」を理解させる。	
4 自分の身を守るための正しい行動選択について考える。	10	○教師の話を聞き、授業の感想や意見を書かせる。	○自分の身を守るためにも正しい行動選択をすることが大切であることを理解する。（ワークシート）

4 配慮事項

第1学年保健体育科保健分野の「心身の機能の発達と心の健康」における性情報への対処などの学習内容との関連を図る。

(資料：警察庁ホームページより一部改編)

## 中高生のみなさん

### 危険な出会い系サイト

名前を隠して異性と知りあうことのできる「出会い系サイト」。凶悪犯罪の被害にあう少女が増えています。



「出会い系サイト」を利用した援助交際を書き込みを禁止する法律は、皆さんの安全のために定められたものです。実際、ここ数年の間に、「出会い系サイト」を利用した結果として、18歳未満の少女が犯罪に巻き込まれるケースが非常に増えています。

また、そのほとんどを、中高生が占めています。

○被害者の大半が中高生！！

(平成17年の被害者数は1,267人で、うち65%が中高生であった。)

	小学生	中学生	高校生	計
計	3 (±0)	347 (-25)	477 (-61)	827 (-86)
女性	3 (±0)	345 (-26)	473 (-59)	821 (-85)
男性	0 (±0)	2 (+1)	4 (-2)	6 (-1)

(平成17年統計より「被害者のうち小学生・中学生・高校生の数」 単位は人数)

**犯罪者が  
中高生を狙っています！**

出会い系サイトは  
利用しないで！



え～？  
私は大丈夫だよー



**私は大丈夫、と思っている  
あなたも要注意！**

気持ちがぐらついた時、あなたに危険が迫るのです。  
「出会い系サイト」には、誰もが持っている“心のスキ”を狙った  
恐ろしいワナが潜んでいます。

**出会い系サイトから身を守る3つのNO！**

**❌見ない！❌書き込まない！❌絶対会わない！**

(資料：警察庁ホームページより一部改編)

## 出会い系サイト事件簿

出会い系サイトを利用した凶悪犯罪の実例を4コママンガで紹介します。くれぐれも同じ被害に会わないよう出会い系サイトは絶対見ないようにしましょう。

### ○ 強盗・誘拐・強かん事件

出会い系サイトでのメールの交換だけでは、悪い人でもわかりません。友だちと一緒にだからといって安心してはだめ！誘われてついていったらそれが命とりになります。



携帯電話の出会い系サイトを通じて知りあった男性にドライブに誘われたところ、自動車内に監禁されたばかりか、現金を奪われ、両親に身代金まで要求されてしまいました。

1

2



3

4



(資料：警察庁ホームページより一部改編)

## ○ 恐喝事件

出会い系サイトには、優しくて素敵な男性を  
装い、お金や少女の体を目当てにだまそうと  
する悪い人がいます。  
うっかり本気になって心を許したら  
相手の思うツボです。



出会い系サイトで知り合ったカレに、ホテル  
で撮られた裸の写真をばらまくと脅され、お金  
を要求されてしまいました。

1



2



3



4



(資料：警察庁ホームページより一部改編)

## 身を守るためのルール

「出会い系サイト」には誰もが持っている心のスキを狙った恐ろしいワナが潜んでいます。その手口を知り、インターネットの危険性を認識しましょう。



1 単元名 健康な生活と病気の予防

2 題材観

健康は主体と環境の相互作用の基に成り立ち、疾病は主体の要因と環境の要因がかかりあって発生することを理解させる。また、健康の保持増進には、年齢、生活環境等に応じた食事、運動、休養・睡眠の調和のとれた生活が必要であり、生活習慣の乱れは健康を損なう原因となることを理解させる。

3 目標

- 健康の保持増進のために必要な生活行動や病気の予防について、自分や仲間の生活を振り返りながら、課題を見付けようとしたり、その解決方法を積極的に調べようとしたりする。
- 健康の保持増進のために必要な生活行動や病気の予防について、自分や仲間の知識や生活等を振り返り、具体的な課題を見付け、文献の収集や資料分析などを参考にしながら自分なりの解決方法を見いだしている。
- 健康の保持増進にかかわる生活習慣や喫煙、飲酒、薬物乱用の影響及び感染症などについて、科学的に深く理解し、日常生活の課題解決に役立つ知識を身に付けている。

4 指導計画 (略)

5 本時の指導

(1) 主 題 性感染症の予防

(2) ねらい

- 性感染症の現状、原因、症状を知るとともに、その予防対策が必要なことに関心を持つ。
- 性感染症の予防には、不特定多数との性的接触をさけること、コンドームを正しく使うことなどが有効であることを理解する。

(3) 準備物

アンケート、ワークシート1・2

6 展 開

学習活動・内容	時間	教師の指導・支援	評価の観点・方法
1 アンケート結果を確認する。	5	○アンケートの結果を見ることにより、自分たちの実態に気付かせる。 (アンケート)	
2 性感染症の動向を知る。	10	○主な性感染症の動向や性器クラミジア感染症の年齢層別発生数を見せて、気付いたことを発表させることにより、性感染症の現状を知らせる。	○資料から感染症の動向を考えようとしている。 (発表)
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 性感染症が、年々増加している。</li> <li>○ 女子に性器クラミジア感染症が多い。</li> <li>○ 若い年齢層に多い。</li> </ul>			

<p>3 性感染症の原因となる「ある共通の行動」について考える。</p>	<p>15</p>	<p>○性感染症とは、性的接触によって感染する病気であることを説明する。</p> <p>○教師が説明することにより、性感染症の原因、症状や特徴について理解させる。 (ワークシート1)</p> <p>○性関係のつながりを示すことにより、たった一度の性的接触でも性感染症にかかることを理解させる。</p> <p>○放置しておくこと、不妊の原因になることも説明する。</p>	<p>○性感染症は、性的接触から感染することが理解できている。(ワークシート1)</p>
<p>○性的接触 ○不特定多数との性的接触</p>			
<p>4 性感染症の予防方法を考える。</p>	<p>15</p>	<p>○性感染症の原因を確認させることにより、性感染症を予防するための方法を考えさせる。</p> <p>○不特定多数との性的接触を避けること、コンドームを正しく使うことなどが有効であることを理解させる。</p> <p>○感染の不安がある時は、男女ともに医療機関等で検査・治療を受ける必要があることを理解させる。</p> <p>○受診する診療科の違いについても説明する。 男性：泌尿器科 女性：産婦人科・婦人科</p>	<p>○性感染症の予防のために感染経路を遮断する方法について理解している。 (ワークシート2)</p>
<p>5 授業を受けて、今後の自分の行動について考えたことを書く。</p>	<p>5</p>		

事前調査

性感染症に関するアンケート

( )年( )組( )番 名前( )

このアンケートは、学習を進める上において活用するものですので、ありのままに答えてください。

4	.....	3	.....	2	.....	1
強く思う		思う		あまり思わない		全く思わない

- |    |                            |       |   |   |   |   |   |   |
|----|----------------------------|-------|---|---|---|---|---|---|
| 1  | 性に関して、興味・関心がある。            | 4     | ・ | 3 | ・ | 2 | ・ | 1 |
| 2  | 性に関して、家庭で話をしたことがある。        | 4     | ・ | 3 | ・ | 2 | ・ | 1 |
| 3  | 性に関して、家族以外の人と話をしたことがある。    | 4     | ・ | 3 | ・ | 2 | ・ | 1 |
| 4  | 性についてよく考え、自分の体を大切にしている。    | 4     | ・ | 3 | ・ | 2 | ・ | 1 |
| 5  | 性感染症について知っている。             | 4     | ・ | 3 | ・ | 2 | ・ | 1 |
| 6  | 性感染症に感染したらどうなるのか知っている。     | 4     | ・ | 3 | ・ | 2 | ・ | 1 |
| 7  | 性感染症は自分にも身近な問題だと思っている。     | 4     | ・ | 3 | ・ | 2 | ・ | 1 |
| 8  | 性感染症の防止を真剣に考えている。          | 4     | ・ | 3 | ・ | 2 | ・ | 1 |
|    | ○ 具体的な方法                   | _____ |   |   |   |   |   |   |
| 9  | 性感染症に感染したらどうすべきかを考えたことがある。 | 4     | ・ | 3 | ・ | 2 | ・ | 1 |
|    | ○ 具体的な方法                   | _____ |   |   |   |   |   |   |
| 10 | 日ごろから健康管理に気を付けている。         | 4     | ・ | 3 | ・ | 2 | ・ | 1 |

## ワークシート 1

### 主 な 感 染 症

( ) 年 ( ) 組 ( ) 番 名前 ( )

病名	(性器クラミジア)	淋菌感染症	(性器ヘルペス)	尖圭コンジローマ	(梅毒)
病原体	クラミジア	淋菌	ヘルペスウイルス	ヒト乳頭腫ウイルス	スピロヘータ
感染経路	(性的接触) (母子感染)	(性的接触)	性的接触 母子感染	性的接触	性的接触
潜伏期間	( 1～3週 )	( 2～9日 )	2～10日	3週～8ヶ月	3～4週
症 状	男性	○尿道からのうみ 排尿痛など	○性器やその周 辺痛のみ、水 ぶくれなど	○性器やその周辺 に先のとがった いぼ	○感染後3～6 週ごろ、性器 や足の付け根 にしこり
	女性	○多少おりもの が増える程度 で、症状が出な いことが多い。 ○腹膜炎を起こ し腹痛で発見 されることが ある。	○症状が出ない ことが多い。 うみのような おりもの ○腹膜炎を起こ し腹痛で発見 されることが ある。	○症状が出ない ことが多い。 再発しやすい。 ○足の付け根の しこり	○約3ヶ月後か ら全身に赤い はん点
治療方法	(抗生物質 の内服)	(抗生物質 の内服)	抗ウイルス剤 の内服など	外科的な切除 ・焼灼など	抗生物質の 内服・注射など

※ ( ) 内は解答

## ワークシート 2

( ) 年 ( ) 組 ( ) 番 名前 ( )

1 アンケートの結果から、気付いたことを書いてください。

2 資料1を見て、気付いたことを書いてください。

3 性感染症の原因となる「ある共通の行動」とは何でしょう。

4 性感染症を予防する方法を考えてみましょう。

5 今日の授業の感想を書いてください。

1 主 題 男女の理解

2 資料名 「M君のこと」 項目2－(4) (明日をひらく 東京書籍)

3 主題設定の理由

今日、中学生における男女の交際は、ともすると情報化社会の影響を受けて興味本位な行動に流される傾向がある。そこで、人間関係の中で、相手の人格を尊重し、男女の特性を理解させることが必要である。そこで、この時期に異性への関心やあこがれを持つことは自然の感情であることに気付かせ、男女の交際において、何が大切か、何を心掛け、努力しなければならないかを理解させることが大切であると考え、本主題を設定した。

4 ねらい

○ 異性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重することができる。

5 準備物

○ 心のノート

6 展 開

学習活動	教師の指導・支援	評価の観点・方法
1 男女の理解について、考えを発表する。	○グループで話し合わせるにより、異性に対する関心やあこがれがどういう形で現れてくるのかを考えさせる。 ○心のノートP52を活用することにより、「中学生の男女交際」について、自分の考えを発表させる。	○積極的に自分の考えを発表している。(発表)
2 資料「M君のこと」を読んで話し合う。	○「わたし」が雅恵さんとの約束を破ってまで、M君のプレーを見たかった理由を考えさせる。 ○教室での雅恵さんの表情から、「わたし」が不安を感じた理由を考えさせる。 ○「わたし」はM君にどんなことを訴えたかったのか考えさせる。 ○ひとりでなみだがこぼれてきた「わたし」の気持ちを考えさせる。	○「わたし」の立場に立って考えることができる。(ワークシート)
3 男女が互いに相手を理解することについて話し合う。	○心のノートP51を活用して、男女が互いによりよく理解するために、大切なことを話し合わせる。 ○今日の学習で考えたことを書かせる。	○異性についての理解を深め、相手の人格を尊重しようとしている。(ワークシート)

## 「M君のこと」

3年（ ）組（ ）番 名前（ ）

1 異性に対する関心やあこがれはどのような形で現れてくるのか。

2 「中学生の男女交際」について私はこう思う。

3 「M君のこと」を読んで話し合おう。

(1) 「わたし」が雅恵さんの約束を破ってまで、M君のプレーを見たかったのはどうしてか。

(2) 教室での雅恵さんの表情に、「わたし」が不安を感じたのはどうしてか。

(3) 「わたし」はM君にどんなことを訴えたかったのか。

(4) ひとりでになみだがこぼれてきた「わたし」は、どんなことを考えているのか。

4 男女が互いによりよく理解するためには、どのようなことが大切なのか。

1 題材 男女のかかわり（学級活動（2）－イ）

2 題材設定の理由

中学生の時期は、個人差はあるが、異性への関心が出てくる時期である。この時期に、愛情表現の仕方や感じ方に性差があることを気付かせ、男女のかかわりにはエチケットやマナーが必要であることを理解させるとともに、男女が相互に相手を尊重する態度を養う必要があると考え、本単元を設定した。

3 本時の指導

(1) ねらい

- 男女の心身の特徴を知り、男女が互いに相手を理解し、人格を尊重する心情や態度を養う。
- 男女の交際に関して、適切な判断や意志決定ができるようになる。

(2) 準備物 事例、ワークシート

(3) 展開

学習活動	時間	教師の指導・支援	評価の観点・方法等
1 事例を読んで、班で話し合う。	15	○ブレインストーミングの手法を使うことにより、多くの意見が出るようにする。	○男女交際の在り方についての考え方に男女差や個人差があることがわかる。 (観察)
2 班で出た意見を発表する。	10	○各班からの意見を基にして、付き合い方について、男女の意識の違いに注目させる。	
3 男女交際について考える。	20	○望ましい男女交際についての友達の考えと自分の考えを比べることにより、特定の異性との関係には、自他の成長や向上を助長するものや向上を妨げるものがあることに気付かせる。 ○特定の異性との人間関係を保つためには、自己を確立し、相手の人格を尊重することが大切であることに気付かせる。	○異性を互いに大切にし、互いのよさを伸ばし合うような関係について考えている。 (観察)
4 今後どのような男女交際をしたいと考えているかを書く。	5	○教師の話聞き、今後の男女交際の在り方について考えさせる。	○男女の交際に関して、適切な判断や意志決定ができるようになる。(ワークシート)

(資料 事例)

中学3年生のA子は、B男のことについて、誰かに相談したいと思っています。  
その内容は、次のとおりです。

B男とは、小学校からの友だちで、よく遊んでいました。中学校に入学してからも、クラスは違いますが、部活動は卓球部で同じでした。

男女の部員同士は仲がよく、男女を問わずその日のプレーについて振り返ったり、協力して部活終了後の片付けを行ったりすることができていました。

そんな中で、私は、日増しにプレーが上達していくB男を少しずつ意識するようになり、B男の事ばかりが気になり始めました。

B男とは、卓球や音楽の話、友だちのことなど何でも話すことができ、B男という時は、時間があっという間に過ぎてしまう気がして、幸せな気持ちでいっぱいでした。

ある日、B男と卓球部員と四人で映画を観に行き、帰りにファーストフード店で食事をして帰りました。帰りに二人っきりになった時、B男が手をつないできました。私は一瞬ドキッとしましたが、嫌がることもせずしばらく歩き、家の近くで分かれましました。

それ以来、B男は二人でいると私に身を寄せてきたり、何気なく体に触れたりするようになりました。二人で過ごす時間も増えてきました。1ヶ月くらい経った頃、B男から、今度の日曜日に家の人が出かけるので、誰もいないから家に遊びに来ないかと誘われました。

私は、B男の家に行って二人きりになるのが少し怖い感じもするし、断ると嫌われてしまうのではないかと不安でたまりません。

どうしたらよいでしょうか。

ワークシート

氏名 \_\_\_\_\_

○今日の授業を振り返って、気付いたことや分かったことを書いてみましょう。

○これから、男女がお互いを尊重しながら付き合っていくためには、どのようにしていけばよいか、自分の考えを書いてみましょう。

テーマ 「エイズーわたしたちに問われていることを考えようー」

- 1 日時 平成〇〇年〇月〇日(〇) 〇:〇〇~〇:〇〇
- 2 場所 体育館
- 3 対象 全校生徒(企画運営 生徒保健委員会)
- 4 活動設定の理由

本校は、これまで、文化祭、世界エイズデー、映画等でエイズについての理解を深めてきた。しかし、日本で感染し、H I Vを持って生きている(きた)人たちのメッセージはなかなか伝わらない。

本活動においては、だれでも病気になったり、障害を持ったりする可能性があり、この点を大前提として出発したい。病気や障害の種類によって身体のはたらきや活動には当然違いが出てくる。H I Vを持った人が何もできなくなるわけではない。病気や障害を持った人がその事実を受容する中で、できるだけ幸せに生活したいという願いを持つ。そうした人々の願いや生活を理解しようとする人が増えていくことが、病気や障害を持った人を受容し励ます社会環境の整備を進める力となる。

そこで今回は、愛媛県でH I Vに感染した赤瀬範保さんの生き方を取り上げ、人権について考えさせたい。

5 活動の構想



## 6 本時のねらい

「人間として支え合うためにエイズを学ぶ」ことによって、これまでの「うつらないための」という意識を変えて、「共生」の社会作りに生きてはたらく力を育てる。

## 7 本時の活動

生徒の活動	時間	教師の支援と工夫（準備物）
1 保健委員長あいさつ	1	○集会の目的を確認しやすくするためにテーマを事前に掲げておく。
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; background-color: #e0f2f7;">                     HIVに感染している人たちと共に、希望を持った社会を作っていくには何を学ばばよいかを考える集会であることを伝える。                 </div>		
2 赤瀬範保さんについての発表	5	○赤瀬範保さんの生き方を知り、人間としていかにHIVと向き合い、それを克服しようとしてきたかを、ビデオを活用して示す。（ビデオ）
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; background-color: #e0f2f7;">                     赤瀬さんは住んでいる社会で病み、生きようとしていた点に注目する。                 </div>		
3 班での話し合い活動 「赤瀬さんが私たちにしてくれたことは何か」	13	○小集団での話し合いに教師が加わり、話し合いの活性化を図る。（カード）
4 HIV人権センターのメッセージ	5	○メッセージの一部をOHPによって示し、話の焦点化を図る。（OHP）
5 3年生全員による 「ネームズ」の手話コーラス	6	○手話と交えて歌うことで堂々と生きることを感じさせる。
配慮事項	○病気の人から学ぶことで、その人たちをどう受け止め、どのように接するかを考えさせる。	
	○集会後の感想文、及びメモリアルキルト作りにより生徒の変容を知る。	

#### (4) 高等学校及び中等教育学校（後期課程）編

##### ア 目標

高校生の時期は、身体的及び心理的な発達とともに、生き方や社会とのかかわり方について考え始める時期になる。また、友人関係やメディアの情報から性意識や性行動が活発化することが多くなることから、科学的な知識を基盤として、自らの性を受け入れ、主体的に生きる力と責任ある性行動を選択し、自立の力を養う。

また、自分の生き方を考え、人生のパートナーも含め、自立した人間関係の中で互いに認め合い、支え合う意識を醸成する。

- 1 性に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、自他の性についての認識を確かにする。
- 2 人権を尊重し、互いに認め合う豊かな共生感覚を育て、よりよい人間関係を築くことができる。
- 3 現在及び将来の社会生活において直面する性に関する諸問題に対し、適切な意志決定や行動選択ができる。

##### イ 指導内容

視点	自己の性の認識を確かにするために必要な内容	男女の人間関係の育成に必要な内容	家庭や社会の一員として必要な性に関する内容
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体の発育・発達には個人差が見られ、これに伴う悩みには体の発育・発達によるものと、性的な成熟に伴う生理現象に関するものがある。</li> <li>○身体的な変化や性的成熟を自覚するようになり、自我の確立が一層進むことになるが、自分自身の判断で物事を進めようとするあまり、自己中心的になるなど、人間関係がうまくいかなくなったり、性や異性に関することでも子ども扱いされることを嫌がり、背伸びした男女関係を求めたりすることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○活動範囲が広がり、友人関係に変化が現れてくる。</li> <li>○異性への関心が高まり、積極的に異性の友人を求めるようになる。異性との交際にも様々な形があり、恋愛関係にも発展が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自我の確立ばかりでなく、社会的な発達という点からも極めて重要な時期である。</li> <li>○日々の学校生活や家庭生活などを通して、自己を模索しながら、各自の個性に見合った人生観や社会観を形成するようになり、その過程で家庭、家族関係、結婚などについて考えるようになる。</li> </ul>
指導のねらい・内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○思春期の身体の変化について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・体の発育・発達について科学的に理解させるとともに、個人差があることを十分に認識させる。</li> </ul> </li> <li>○思春期の心理的特徴について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の性の成熟について理解を深めるとともに、それらを科学的・総合的に理解させる。</li> </ul> </li> <li>○性にかかわる不安や葛藤について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の性に関する認識を深め、人間としてのより適切な行動を選択し、自他の生命を大切にしようとする態度を育てる。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な男女関係について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・男女の生理的、心理的な違いについて理解させ、男女の人間関係には多くの過程があり、その過程が大切であることを理解させる。</li> </ul> </li> <li>○特定の異性とのかかわりについて                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・男女が互いの立場や考え方を尊重し合い、自分の意志を相手にはっきりと伝えられる自立した男女の人間関係を育てることが大切であることを理解させる。</li> </ul> </li> <li>○性行動について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・性行動に対する賢明な意志決定や行動選択の能力や態度を身に付けさせる。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会での役割について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・結婚や次の世代を育てる場である家庭について、従来の固定的な性役割観にとらわれることなく、相手の人格を尊重することが大切であることを理解させ、自分なりの結婚観や家庭観を持つことができるようにする。</li> </ul> </li> <li>○性の情報環境について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・性情報を適切に見極め、性に関する様々な社会事象に対して主体的な判断ができる能力や態度を身に付けさせる。</li> </ul> </li> <li>○性と人権について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間尊重の精神が社会生活を送る上で大切であることを認識し、自他を尊重する行動選択ができる能力や態度を育てる。</li> </ul> </li> </ul>

(『学校における性教育の考え方、進め方』 文部省 1999 をもとに作成)

### 1 単元名 感染症とその予防

### 2 題材観

今日、わが国の大きな健康問題は生活習慣病であり、感染症は既に克服された感がある。しかし、世界中に目を転じれば感染症がまん延し、猛威を振るっている地域や国がある。特に、人やものが国際間を大量に行き来する今日、こうした感染症がいつわが国で流行しても不思議ではない状況である。感染症は、誰でも、いつでも、どこにでも発生する可能性があることを踏まえ、感染症予防には、社会的な対策とともに個人の適切な行動が必要であることを認識させるため、本主題を設定した。

### 3 目標

- 感染症の予防について関心を持ち、積極的に意見を交換したり、仲間と協力し、調べたりしようとしている。 (関心・意欲・態度)
- 感染症の予防について、課題の解決方法を考えたり、選択すべき行動を判断したりしている。 (思考・判断)
- 感染症について正しく理解し、その予防などについて、学習内容を言ったり、書き出したりしている。 (知識・理解)

### 4 単元計画

- (1) 感染症とその予防 (1時間) … 本時
- (2) エイズとその予防 (1時間)

### 5 本時の指導

#### (1) 単元 感染症とその予防

#### (2) ねらい

- 現在問題となっている感染症について理解する。
- 新たな感染症問題の防止のために、自分でやれること、社会がすべきことについて考える。

#### (3) 準備物

ワークシート「感染症とその予防」、パソコン、プロジェクター

#### (4) 展開

学習活動・内容	時間	教師の指導・支援	評価の観点・方法等
1 「感染症」とはどんな病気かを知る。	10	○感染症とは、ウイルス、細菌、原虫などの病原体が、ほかの生物の体内に侵入し、発育または増殖することによって、特有の症状をおこす病気であることを理解させる。 ○感染症のうち、人から人に感染するものを特に伝染病ということを理解させる。 ○感染経路についても理解させる。	
2 感染症問題の変化について考える。	10	○近年すでに制圧したと考えられていた感染症が再び問題となったり、新たな感染症が出現したり、医薬品に抵抗	○現在問題となっている感染症について書き出し

○新興感染症について ○再興感染症について		力を持つ薬剤耐性菌が現れた理由を明確にする。	ている。(観察) (ワークシート)
3 感染症の予防策について考える。	10	○感染源、感染経路、感受性者対策について理解させ、特に感染症の予防には、社会的な対策とともに個人の適切な行動選択が大切であることを理解させる。	○感染症問題の防止のために自分でやれること、社会がすべきことについて考えている。(観察)
4 感染症の中でも若者に増加傾向にある性感染症について知る。	10	○性感染症の種類を説明し、中でも性器クラミジア感染症が増加していることを理解させる。 ○性感染症の予防方法について、性的接触を避けること、コンドームが有効であることを理解させる。	○性感染症の増加の理由について具体例を挙げている。 (ワークシート)

ワークシート

「感染症とその予防」

1 「感染症」と「伝染病」の違いについて考えよう。

- (1) 「感染症」とは
- (2) 「伝染病」とは

2 おもな「新興感染症」と「再興感染症」について知ろう。

(1) 「新興感染症」とは

病名	エボラ出血熱	レジオネラ感染症	エイズ	腸管出血性大腸菌感染症	C型肝炎	コレラの新型
病原体						
発見(確認)年 国名						
症状						
感染経路						

(2) 再興感染症とは

3 感染症の予防策について考えよう。

4 性感染症の種類と特徴について知ろう。

病名	症状	潜伏期間

5 性感染症の予防法について考えよう。

- 
-

(資料) 次のスライド (12枚) は、プレゼンテーションソフトを活用して保健体育科の授業で生徒へ提示したものである。



### 「感染症」と「伝染病」の違い？

「感染症」・・・ウイルス、細菌、原虫などの病原体が、ほかの生物の体内に侵入し、発育または増殖することによって、特有の症状をおこす病気

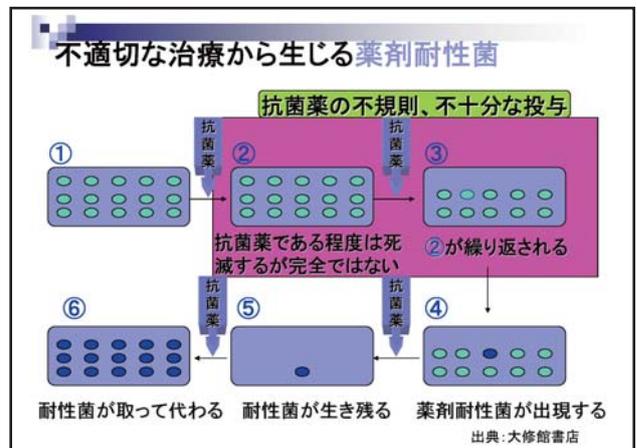
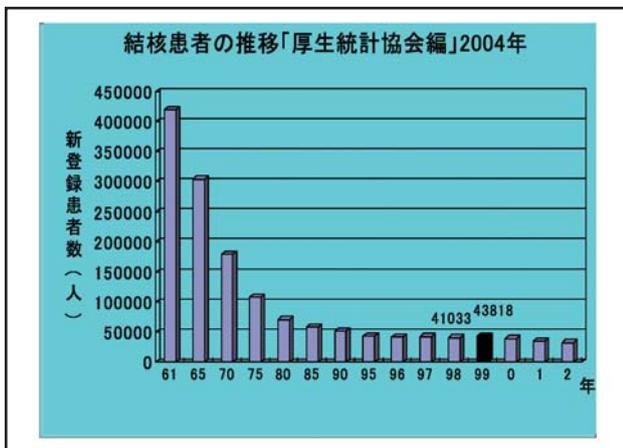
「伝染病」・・・感染症のうち、人から人に感染するもの

### 感染症の出現・流行の原因

- ・国際交流の進展 → 海外から感染して帰国
- ・熱帯雨林の開発 → 新たな病原体と出会う
- ・抗生物質の多量・不適切投与 → 薬剤耐性菌の出現
- ・感染症に対する警戒感の薄れ (予防接種率の低下など) → 新たな流行

主な新興感染症 出典:大修館書店

	病原体	発見年国	症状・問題点	感染経路
エボラ出血熱	エボラウイルス	1976年 スーダン	全身出血 臓器壊死	血液・体液の接触
腸管出血性大腸菌感染症 (O157など)	病原性大腸菌 (O157など)	1982年 アメリカ	下痢、腎機能低下	経口感染
C型肝炎	C型肝炎ウイルス	1989年 アメリカ	食欲不振、嘔吐、黄疸など	血液・体液の接触、母子感染
変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	異常プリオンたんぱく質	1996年 イギリス	進行性の認知症 行動異常など	BSE牛の脳・脊髄等の摂取
高病原性鳥インフルエンザ	トリ・インフルエンザウイルス	1997年 中国	発熱・咳から多臓器不全まで	病鳥及びその内臓や排泄物への接触
SARS (重症急性呼吸器症候群)	SARSコロナウイルス	2002年 中国	発熱・咳、呼吸困難などの呼吸器症状	接触感染 飛沫感染



## 感染症の予防策について

感染源対策……感染源を見つけ出し、病原体を消毒、殺滅

感染経路対策……検疫の強化、上下水道の整備、蚊・ハエの駆除

感受性者対策……予防接種

## 具体的な予防策 <結核>

<個人的対策>

- ・検診の定期的受診、早期発見

<社会的対策>

- ・予防接種の実施
- ・発生動向等の情報公開
- ・発生経路の究明

## 具体的な予防策

<腸管出血性大腸菌>

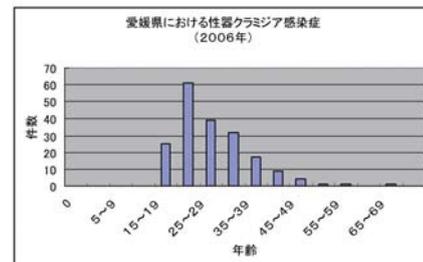
<個人的対策>

- ・食品の適切な保管・調理
- ・手洗いの励行

<社会的対策>

- ・大量調理施設への監視・指導
- ・厳格な管理法の実施

## 若者に急増する性感染症について



## 性感染症を予防できる 方法はこれだけ

- 性交をしない
- コンドームを適切に使う

コンドームを使っても  
性感染症を100%  
予防するのはムリ!

1 題材名 性感染症を考える（ホームルーム活動（2）－イー（ア））

2 題材設定の理由

近年、青少年の性交経験率が増加し、無防備な性交が多く見られるようになった。同時に若年層において男女ともに性感染症に感染する者が増加し、社会問題となっている。そこで、「性」の本質とは何か考えさせることにより、正しい知識を身に付けさせ、“無知ほど怖いものはない”ということ、“知ることによって行動が慎重になる”ということを理解させ、慎重かつ責任ある行動がとれることを目標として、本題材を設定した。

3 本時の指導

(1) ねらい

- 性感染症の正しい予防方法について理解する。
- 性感染症から身を守るために、適切な意志決定と行動選択ができるようにする。

(2) 準備物 ワークシート「性の在り方」、パソコン、プロジェクター

(3) 展開

学習活動	時間	教師の指導・支援	評価の観点・方法等
1 性感染症について事前に調べてきたことを発表する。 (1) エイズについて知る。 (2) その他の性感染症について知る。 (3) 若者の間で性感染症が増えている原因を考える。 (4) これ以上増加させないためには、どうすればよいか考える。	15	○事前に調べてきたことを、グループごとに発表させる。 ○性感染症とはどのような病気で、どのような種類があるのか理解させる。  ○性行動開始年齢の若年化について理解させる。 ○性的接触をしない、性行為をする場合は、避妊具（コンドーム）を正しく装着する、不特定多数の人と性行為をしない点について確実に理解させる。 ○自分に無関係ではないという状況について理解させ、だれもが当事者であることを念頭に置かせる。	○性感染症増加の理由や性感染症の正しい予防方法を具体的に挙げている。（観察）
2 「性」について考える。 (1) 「性」という言葉からのイメージを発表し合う。	25	○4～6人でグループをつくり、ブレインストーミングでできるだけ多く書き出させる。 ○代表に発表させる。	

<p>(2) 「性」を定義する。</p> <p>3 自分の「性」の在り方について考える。</p>	<p>10</p>	<p>○「性」の持つプラス面（恋愛、結婚、家庭等）、マイナス面（性感染症、性犯罪等）の両面性を正しく理解させる。</p> <p>○「性の在り方」に記入させながら、性行為を本能だにとらえるのではなく、その人の人格や生き方を映し出す行為であり、学習や経験によって、個性的に展開していく文化的なものであるととらえさせる。</p>	<p>○自己の意志決定や選択すべき行動を判断している。（ワークシート）</p>
--	-----------	---	---

## ワークシート

### 「性の在り方」

#### 1 性感染症の種類と特徴について知ろう。

病名	症状	潜伏期間

#### 2 性感染症の増加の理由を考えよう。

#### 3 これ以上性感染症を増加させないためにはどうすればよいだらう。

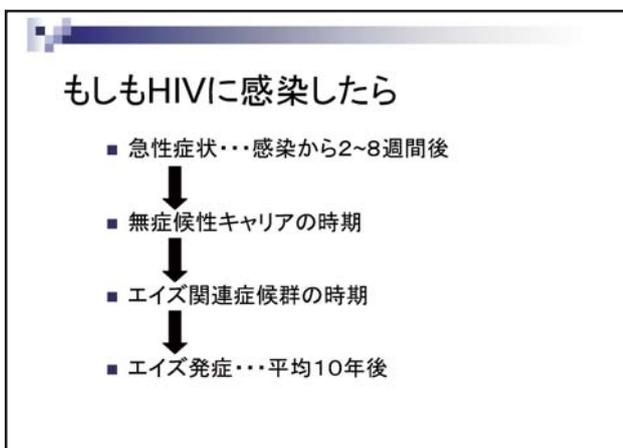
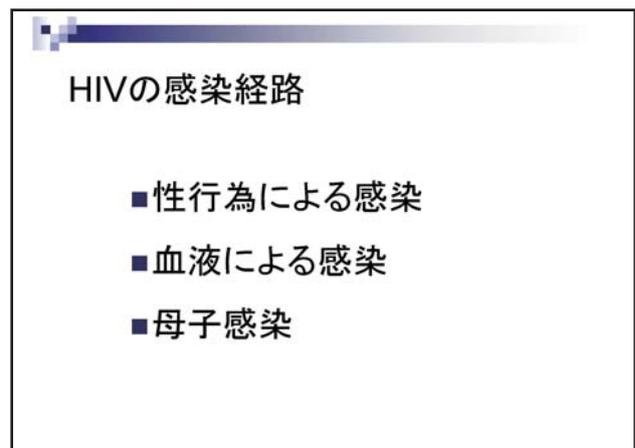
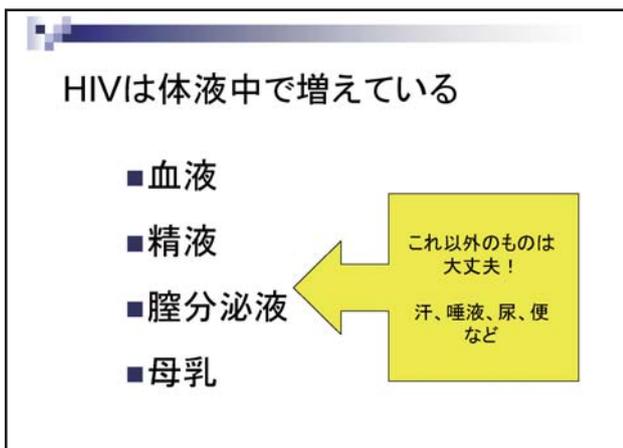
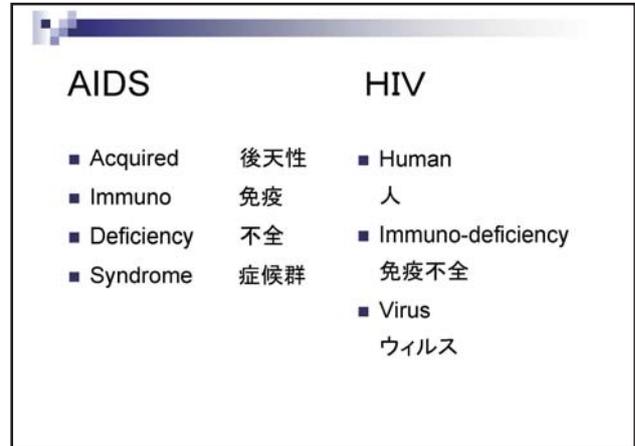
#### 4 「性」という言葉に対するイメージを考えよう。

#### 5 「性」について定義してみよう。

#### 6 自分自身の「性」の在り方について考えよう。

- ・何か気を付けることは？
- ・性感染症になったらどうするの？
- ・病気になったら何科に受診するの？
- ・妊娠したらどうするの？
- ・検査を受けるならどこで受けるの？
- ・費用はどのくらいかかるの？

(資料) 次のスライド (21枚) は、プレゼンテーションソフトを活用してホームルーム活動時に、生徒へ提示したものである。



口腔内カンジダ症



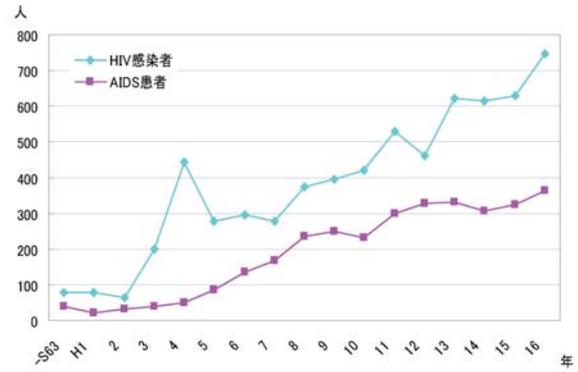
带状疱疹



AIDS患者にみられたカボジ肉腫



HIV感染者・AIDS患者報告数(年間)



HIV感染者及びAIDS患者の発生届出状況(全国・愛媛県) H18.7.2現在

年	全国				愛媛県			
	報告数	累計報告数	発生数	累計報告数	報告数	累計報告数	発生数	累計報告数
平成4年	447	885	51	130	1	1	1	1
平成5年	277	1,162	86	216	1	2	2	3
平成6年	288	1,450	136	352	1	3	1	4
平成7年	277	1,727	188	540	2	5	1	5
平成8年	376	2,103	234	774	2	7	1	6
平成9年	387	2,490	250	1,024	1	8	1	7
平成10年	422	2,912	231	1,255	3	11	1	8
平成11年	520	3,432	201	1,456	2	13	1	9
平成12年	482	3,914	229	1,685	6	19	2	11
平成13年	621	4,535	332	2,017	6	25	1	12
平成14年	614	5,149	308	2,325	5	30	2	14
平成15年	640	5,789	336	2,661	5	35	4	18
平成16年	780	6,569	385	3,046	2	37	3	21
平成17年	632	7,201	367	3,413	2	39	3	24
平成18年	448	7,649	199	3,612	4	43	1	25

注) 血液製剤による患者・感染者は含んでいない。  
平成18年は速報値

HIV感染者及びAIDS患者の感染経路別届出数の累計(全国・愛媛県)

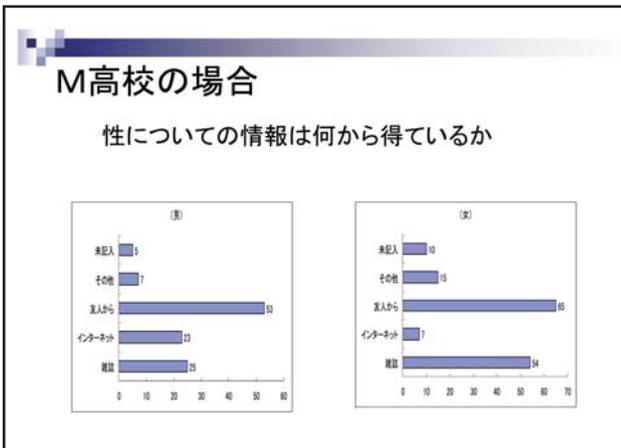
診断区分	感染経路	全国			愛媛県		
		男	女	計	男	女	計
		<small>H18.7.2現在</small>					
HIV感染者	異性間の性的接触	1,714	1,159	2,873	10	1	11
	同性間の性的接触	3,409	1	3,410	18		18
	静注薬物濫用	37	3	40			
	母子感染	17	15	32			1
	その他	112	45	157			1
	不明	772	554	1,326	2	2	4
	小計	6,061	1,777	7,838	30	5	35
AIDS患者	異性間の性的接触	1,351	278	1,629	6		6
	同性間の性的接触	1,056	3	1,059	9		9
	静注薬物濫用	27	2	29			
	母子感染	10	7	17			
	その他	81	21	102			1
	不明	827	179	1,006	6		6
	小計	3,352	490	3,842	21	1	22
計	異性間の性的接触	3,065	1,437	4,502	16	1	17
	同性間の性的接触	4,465	4	4,469	27		27
	静注薬物濫用	64	5	69			
	母子感染	27	22	49			1
	その他	193	66	259			2
	不明	1,599	733	2,332	8	2	10
	小計	9,413	2,267	11,680	51	6	57

注) 同性間の性的接触は、両性間の性的接触を含む。

○ HIV感染者及びAIDS患者の年齢別届出数の累計(全国・愛媛県)  
H18.7.2現在

診断区分	年齢区分	全 国		愛 媛 県	
		男	女	男	女
HIV感染者	10歳未満	16	15	31	1
	10～19	58	111	169	
	20～29	1,912	1,044	2,956	10
	30～39	2,201	412	2,613	2
	40～49	1,050	103	1,153	4
	50歳以上	820	85	905	2
不明	4	7	11		
合計		6,061	1,777	7,838	30
AIDS患者	10歳未満	10	6	16	
	10～19	1	5	6	
	20～29	376	144	520	6
	30～39	1,040	196	1,236	4
	40～49	925	77	1,002	5
	50歳以上	1,000	62	1,062	6
不明					
合計		3,352	490	3,842	21
計	10歳未満	26	21	47	1
	10～19	59	116	175	
	20～29	2,288	1,188	3,476	16
	30～39	3,241	608	3,849	2
	40～49	1,975	180	2,155	9
	50歳以上	1,820	147	1,967	8
不明	4	7	11		
合計		9,413	2,287	11,680	51

エイズまん延防止ができるかどうか  
これからの若者の行動にかかっている



今、HIV/AIDSが増えているのは  
知識や情報があいまいで  
他人事意識が  
まん延しているから

- いま、若者がHIVに感染するのは？
- 性行為
  - 輸血(ほとんどは大丈夫)
  - 注射器の共用
  - ピアス穴開け器の共用にも注意！！

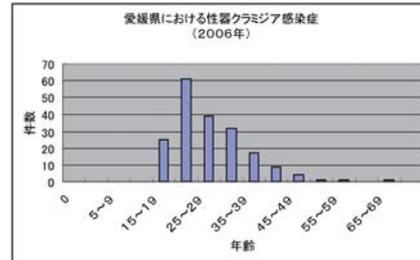
「エイズ感染」は抗体検査を受けない限りわかりません

- 血液検査で抗体陽性になるのは
- 感染して3ヵ月後

## 性感染症を 予防できる方法はこれだけ

- 性行為をしない
- コンドームを適切に使用する

## 若者に急増する性感染症について



## 「性」について考える

- 「性」の持つプラス面
  - 恋愛
  - 結婚
  - 家庭 など
- 「性」の持つマイナス面
  - 性感染症
  - 望まない妊娠
  - 性犯罪

「性」は 人なり……人生に大きくかわる

1 題材名 望まない妊娠とそのリスク（ホームルーム活動（2）－イー（ア））

2 題材設定の理由

望まない妊娠をしないことは、女性の心身の健康のみならず、新しい命の芽を摘む人工妊娠中絶を増やさないためにも重要なことである。特に高校生の時期に妊娠してしまうことは、様々な面において望ましいこととは考えにくい。望まない妊娠の結果、人工妊娠中絶など、女性に与える深刻な影響について具体的に理解させることにより、これらを避ける動機付けを図るために、本題材を設定する。

3 本時の指導

(1) ねらい

- 妊娠や人工妊娠中絶は女性の問題だけではなく、男女お互いの問題であることを理解する。
- 望まない妊娠を避けるためには、正しい知識を身に付け、責任ある行動を選択することができるようになる。

(2) 準備物 ワークシート「望まない妊娠とそのリスク」

(3) 展開

学習活動	時間	教師の指導・支援	評価の観点・方法等
1 本時の流れを知る。	5	○本時の流れを説明し、積極的に意見を出し合えるように促す。	○妊娠や人工妊娠中絶は女性の問題だけではなく、男女お互いの問題であることを理解している。（発表）
2 本時のグループ分けをする。	10	○アイスブレイキングを通して、コミュニケーションを図る。	
3 グループワークをする。 (1) ワークシートに記入する。 (2) ワークシートの内容を基にディスカッションする。 (3) グループとしての意見をまとめ、発表する。	30	○話が進みやすいように、グループ分けに配慮し、司会・記録・発表を決めさせる。 ○主体的な意見が出せるように、自分の意見をワークシートに簡単に記述させる。	
4 本時の学習を振り返る。	5	○他のグループの意見を聞き、様々な意見があることを再認識させる。 ○本時の学習を通して、適切な意志決定や、行動選択の必要性があることを理解させる。	
			○望まない妊娠を避けるためには、正しい知識を身に付け、責任ある行動を選択することができるようになる。（観察）

## 高等学校

### 生徒保健委員会活動

#### テーマ 「エイズについて考える」

委員会活動によって、仲間からの共感・支持が勇気や力を与え、態度や行動の変容につながることを目標とする。

#### 1 授業での取組

##### (1) HR活動

年一回全クラスでの取組

テーマ「エイズ」「性感染症」「男女交際」

##### (2) SHR活動

保健だより等の広報誌を使用して説明



#### 2 学校行事との関連

(1) 文化祭・・・展示発表「エイズについて」「性感染症について」等  
エイズ劇「共に生きる」を上演



(2) 全校集会・・・エイズをテーマにした歌を手話で発表

#### 3 学校保健委員会での取組

(1) アンケート調査結果報告

性に関する意識調査結果報告→委員会だよりで全員に伝える。

(2) ディベートによる意見交換

#### 4 広報活動

(1) 保健だより等の広報紙 性に関する特集

(2) 校内放送・・・エイズ週間の呼びかけ

#### 5 他校との交流・・・活動を紹介、他校の文化祭を訪問

#### 6 地域・関係機関との関連

(1) エイズ予防週間

(2) エイズ街頭キャンペーン

(3) レッドリボン作成

(4) エイズフォーラムでのパネリスト

(5) 保健所主催 エイズ対策セミナー 模擬授業



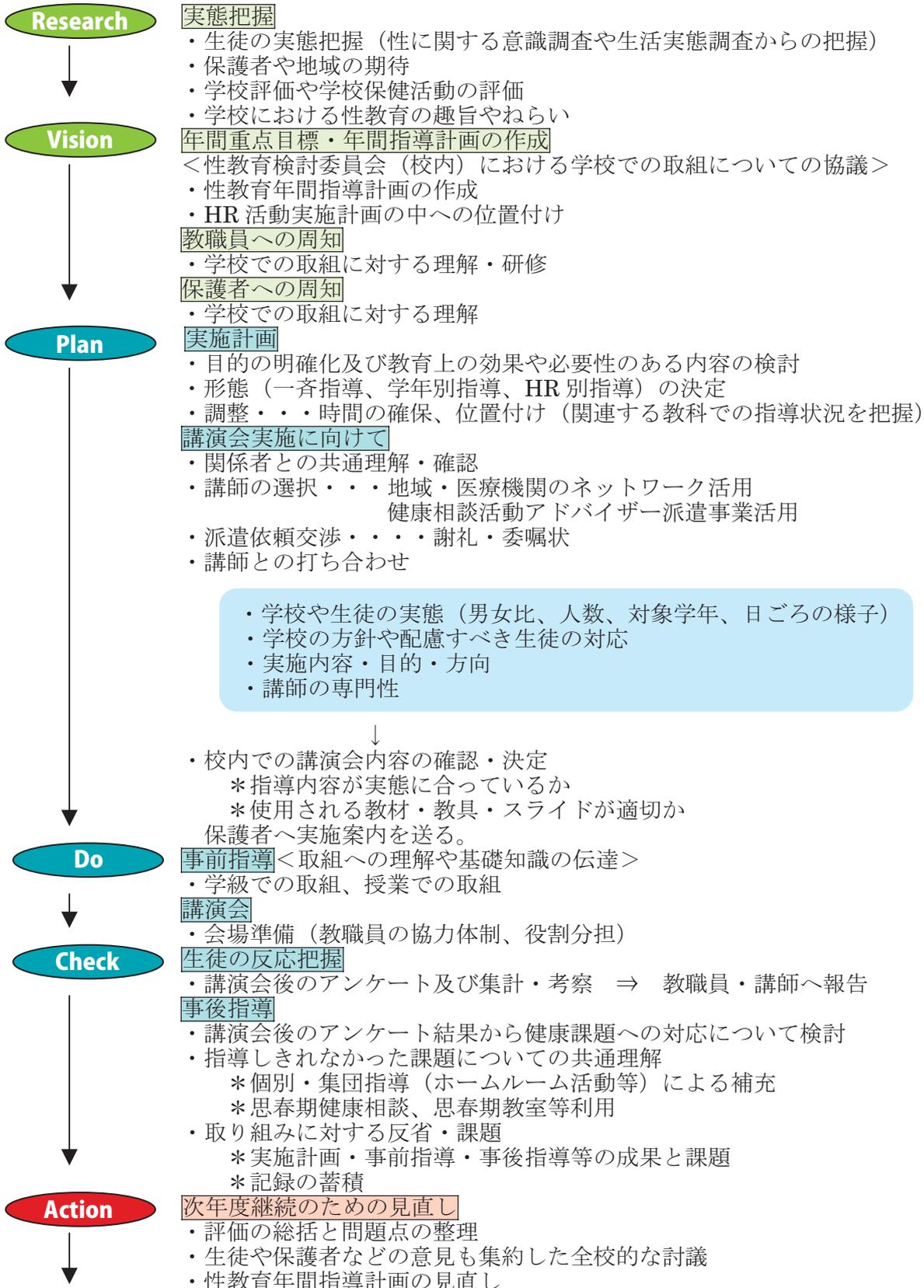
テーマ 「エイズについて考える」

<p><b>1 設定の理由</b></p> <p>HIV/AIDSの現状を正しく理解し、HIV/AIDSに感染しないための予防法や人権意識を高めさせる。</p>
<p><b>2 ねらい</b></p> <p>HIV/AIDSの正しい知識を持ち、私に今できることは何かを考えさせる。</p>
<p><b>3 対象</b></p> <p>全校生徒、保健委員（文化祭担当者）</p>
<p><b>4 場所</b></p> <p>展示教室</p>
<p><b>5 指導者</b></p> <p>養護教諭、保健主事</p>
<p><b>6 内容</b></p> <p>(1) 展示</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○なぜエイズが問題になっているのか</li> <li>○エイズとはどんな病気か</li> <li>○HIVはどのようにして感染するのか</li> <li>○HIVに感染するとどうなるか</li> <li>○予防しよう、検査しよう</li> <li>○エイズ治療の現実</li> <li>○エイズサポート体制</li> <li>○誤解や偏見をなくすためには</li> <li>○エイズがこわいのではなく、知らないことがこわい</li> </ul> <p>(2) 活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○レッドリボン作成</li> <li>○レッドリボンメッセージ</li> <li>○メモリアルキルトにメッセージリボンをつける。</li> </ul>
<p><b>7 留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教科で学習した内容を深める。</li> <li>○展示と性教育講話（翌日実施予定）の関連性を考慮する。</li> <li>○保健所等の協力を求めることにより、地域の関係機関との連携を図る。</li> </ul>

テーマ 「世界エイズデー」

<p><b>1 設定の理由</b></p> <p>HIV/AIDSの若年感染者が増加している中、社会の取組を知り、高校生に身近な問題として考えさせる。</p>
<p><b>2 ねらい</b></p> <p>全校生徒に「世界エイズデー」の趣旨と取組について理解させ、高校生ができる取組について考えさせる。</p>
<p><b>3 対象</b></p> <p>全校生徒</p>
<p><b>4 場所</b></p> <p>体育館</p>
<p><b>5 指導者</b></p> <p>保健委員、人権委員、人権・同和教育主任、保健主事、養護教諭</p>
<p><b>6 内容</b></p> <p>(1) 「世界エイズデー」の趣旨</p> <p>(2) エイズに関する意識調査結果発表 プレゼンテーションソフト使用</p> <p>(3) エイズをテーマにした歌を手話で発表</p> <p>(4) レッドリボンプロジェクトについて説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○レッドリボンの意味</li> <li>○レッドリボンツリーの協力を依頼</li> <li>○メッセージキルトについて</li> </ul>
<p><b>7 留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○校内掲示板にエイズ患者やH I V感染者の手記を掲示</li> <li>○レッドリボンプロジェクトやホームルーム活動で作成した資料を保護者懇談会の期間中に展示し、生徒や保護者に取組を知らせる。</li> <li>○クラス新聞でエイズについて取り上げる。</li> </ul>

## 外部講師を迎えての性教育講演会の流れ



高等学校全学年 全校集会活動実施案

## (5) 障害がある児童生徒編

### ア 目標

障害がある児童生徒の性教育の目標は、障害がない児童生徒の目標と同じである。しかし、その障害の状態や程度に応じて、障害を克服し、共に生きる社会の一員としての自覚を高め、社会的自立を促すようにすることが大切である。このため、障害がある児童生徒に対する性教育の目標は、障害の種別や状態に応じて設定する必要がある。

### イ 指導内容

小学校、中学校、高等学校学習指導要領並びに盲学校、聾学校及び養護学校学習指導要領に基づき児童生徒の障害の状態や特性、発達段階を踏まえ、計画的に進めることが重要である。

障害がある児童生徒に対する性に関する発達課題は、基本的には障害がない児童生徒と同様であるが、障害がある児童生徒に対する性教育は、障害の状態や特性及び学校の実態に即して、各教科、道徳、特別活動、さらには自立活動等の日常活動に組み入れ、コミュニケーションの手段や情報の伝達方法に工夫が必要である。加えて、教材や教具についても障害の種別や程度に応じて、十分に配慮する必要がある。

#### (ア) 自己の性の認識を確かにするために必要な発達課題と指導内容

障害の種類によっては、性に関する体の発育・発達が遅れることがあるが、だれにでも二次性徴が発現し、それぞれ不安や悩みを抱いたりする。知的発達に障害がある場合には、自他の性の認識が難しかったり、身辺自立の面で課題があったりすることがある。そのことから、性について強い関心を持っているのではないかと誤解されたり、性的な被害者になったりすることがある。これらのことを踏まえて、障害がない児童生徒の各学校種における指導内容を基本に、児童生徒の障害の状態に応じて指導内容を選択する必要がある。

#### (イ) 男女の人間関係の育成に必要な発達課題と指導内容

男女の人間関係から見た性に関する発達課題は、基本的には、障害がない児童生徒と同じであるが、障害の程度により異なる。このため、各学校種ごとの指導内容に基づいて指導を進めることとなるが、障害の状態によって、自己表現がうまくいかず、相手に誤解を与えたり、不適切な行動をとったりする児童生徒が見られるので、指導に当たっては配慮する必要がある。

#### (ウ) 家庭や社会の一員として必要な性に関する発達課題と指導内容

障害がある児童生徒は発達段階や障害の程度に応じて、将来にわたって自己実現が図れるよう、男女の役割や責任、生き方などについて考え、男女が互いに尊重し合い、認め合う心情や態度を育てることが大切である。社会的な面から見た指導内容は、基本的には障害がない児童生徒と同様である。

## 【知的障害者を教育する養護学校における性教育の目標及び指導内容】

### ア 目標

知的障害がある児童生徒に対する性教育は、学習指導要領に基づき、児童生徒の障害の状態や各学校の状態を考慮し、人格的発達を促していくための教育活動の一環として、全教育活動を通じて体系的・計画的に行う必要がある。特に、性教育を通して、日常生活の基礎的・基本的事項を身に付けさせるとともに、自己の性についての認識や、他人への認識を深めることが大切である。さらに、児童生徒の心身の発育・発達に応じて、社会性や男女の豊かな人間関係を育て、生命の尊さに気付かせ、将来を積極的に生きていこうとする意欲や態度を育てることが重要である。

### イ 指導上の配慮事項

知的障害がある児童生徒の性教育の指導内容は、障害がない児童生徒の指導内容を基本とするが、障害の状態に応じて重点化を図ったり、個別化を図るなど指導に工夫が必要である。また、学習した内容が日常生活で実際に生かせるよう繰り返し指導する必要がある。

指導のねらいは、学習指導要領に基づき、児童生徒の障害の程度や発達段階等に即して設定する必要がある。知的障害養護学校の各部のねらいは、以下のように設定することができる。

小学部	低学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○手、足などの身体の名称を知るとともに、自分の性別を知る。</li> <li>○自分を大切にする態度を育てるとともに、友だちと一緒に活動する。</li> <li>○家族の役割や日常生活のきまりに気付く。</li> </ul>
	高学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分や友だちの性別が分かり、健康で安全な生活をする。</li> <li>○自分を大切にする態度を育てるとともに、友だちと仲よく活動する。</li> <li>○家族の役割や日常生活の簡単なきまりが分かり、役割を果たしたり簡単なきまりを守ったりする。</li> </ul>
中学部		<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の発育・発達に関心を持ち、健康・安全な生活をしようとする態度を育てる。</li> <li>○男女の身体の違いに関心を持ち、男女が互いに相手を思いやる心情や態度を育てる。</li> <li>○家族の役割や社会のきまりを理解し、役割を果たしたりきまりを守ったりする態度を育てるとともに、犯罪被害が起きていることを知り、被害を防ぐ方法を身に付ける。</li> </ul>
高等部		<ul style="list-style-type: none"> <li>○心身の発育・発達や生活に必要な健康・安全に関する事柄を理解し実際の生活に生かそうとする態度を育てる。</li> <li>○男女の身体の違いを理解し、男女が互いに相手を尊重する心情や態度を育てる。</li> <li>○家族の役割や社会のきまりを理解し、家族や社会の一員として役割を果たしたりきまりを守ったりする態度を育てるとともに、性に関する情報や性被害等があることを知り、健康で安全な生活を営む態度を育てる。</li> </ul>

## ウ 指導内容

視点		自己の性の認識を確かにするために必要な内容	男女の人間関係の育成に必要な内容	家庭や社会の一員として必要な性に関する内容	
小学部	低学年	特徴	○自分及び自分のしたいことが興味の中心の段階である。身体的な発達速度は安定した段階であるが、生理的な機能の発達は未熟である。自分とともに他人を意識し始めている。	○自己中心的な行動が多いが、人間関係が教員や友だちへと少しずつ広がる段階である。互いに異性としての意識はまだ弱く、男女別なく遊ぶ段階である。	○精神的に未熟であり、保護者や教員への依存度が高く、その影響を強く受ける段階である。
		指導内容	○私の誕生日 ○身近な動物に接する ○身体の名称 ○トイレの場所の区別、使用の仕方 ○自分の性別	○仲よく遊ぶ	○家庭での手伝い
	高学年	特徴	○自分に興味を持つと同時に、少しずつ身近なことに興味を持つ段階である。身体的な発達速度は安定した段階であるが、生理的な機能の発達は未熟である。自分と他人との違いを感じ始め、性別の違いを意識し始めている。	○自己中心的な行動が多いが、人間関係が友だちや教員へと広がり、男女別の活動に少しずつ意識が出てくる段階である。互いに異性としての意識は弱い、異性にかかわりを持つ児童も見られる。	○精神的に未熟であり、保護者や教員への依存度が高いが、友だちの影響も少しずつ受ける段階である。
		指導内容	○私たちの誕生日 ○身近な動植物を育てる ○大きくなる身体 ○トイレ、更衣場所等の区別 ○身体の清潔 ○友だちの性別	○仲よく活動する ○友だちと仲よく助け合う	○家族構成を知る ○家庭での手伝い ○集団での役割 ○公共施設の使い方に慣れる ○社会のきまりに気付く
中学部	特徴	○身体の発育に違いが出てくる段階であり、異性への関心が芽生えてくる。多くの生徒は体つきが変わり、男女ともに心身に大きな変化が現れる。	○自己中心的な考え方から、少しずつ集団を意識して行動することが見られる。家族や友だちとの関係を通して自己を見詰め、他人を思いやる心も育ってくる。	○精神的にも成長し、大人よりも友だちとのかかわりを大切にすることが芽生え始める。大人への依存度が低くなり、何事も自分で意欲的に解決しようとする気持ちが育ってくる。	
	指導内容	○友だちや家族の誕生日 ○生命の大切さ ○自分の身体の成長に関心を持つ ○身体と身の清潔 ○思春期の身体の発育と健康（月経の手当てと過ごし方、射精の対応の知識） ○思春期の心の変化	○友だちと協力して活動する ○男女の協力 ○異性との接し方	○家族の一員としての役割を身に付ける ○他者への思いやり ○公共施設を利用するマナー ○社会のきまりを身に付ける ○性被害の防止	
高等部	特徴	○身体の成長に伴い、異性への関心が高まり、自己の性別の理解が確立する段階である。異性に対する様々な感情が現れ、特定の異性と親しくなりたいという気持ちを抱く生徒も見られる。	○客観的に物事を考えられることができるようになり、相手を思いやり、学校や社会で自分の力を発揮し、自己実現しようとする気持ちが強くなる。	○精神的にも自立し、大人よりも友だちとの関係を大切に、何事も自分で考え判断して、解決していこうとする積極的な態度が見られる。	
	指導内容	○生命の誕生 ○生命の尊重 ○健康で安全な生活 ○清潔と衛生 ○思春期の心の変化（性衝動のコントロール） ○欲求やストレスの対処 ○余暇の利用の仕方	○節度ある異性とのかかわり ○異性の尊重と共感 ○対人関係の礼儀作法 ○話し方や聞き方などの意志伝達の方法	○自己の将来 ○家庭における男女の役割 ○地域社会における人間関係 ○性被害・加害の防止 ○性犯罪や性の問題行動（性に関する情報の対処等）	

（『学校における性教育の考え方、進め方』 文部省1999をもとに作成）

## 1 単元名 育ちゆく体とわたし

## 2 題材観

小学部第4学年のこの時期に、小学部の高学年になったという自覚とともに、自分の体の発育・発達についての理解を深めさせ、よりよい生活を築こうとする自主的・実践的態度を育てたいと考える。また、身体の変化や個人の発育・発達の方には個人差があることを理解させ、自分に自信を持たせたいと考え、本単元を設定した。

【個別の支援計画より本児童の実態】

○ 全盲（眼前手動弁）女子

項目	様子	指導のめあて
生活	マイペースではあるが、楽しく学校生活を送っている。	時間に間に合うように行動しようとする。 見通しを持って行動できるようにする。
健康・運動	欠席はほとんどなく健康であるが、運動は苦手意識がある。	体格はいいが、全身の筋力が弱いため、筋力、持久力等の体力を付ける。
学習	各教科とも進度が遅れ気味であり、下学年(3学年程度)の学習をしている。	読み、書き、計算の基礎的な力を付ける。 点字の教科書をすばやく開いたり、読みたい所を素早く探したりすることができるようにする。
社会性・コミュニケーション	人とのかかわりは受動的であるが、会話を楽しむことができる。	人に援助を求めないといけない場面では、自分から援助を求めることができる。

## 3 目標

- (1) 思春期には、体つきなどに男女の特徴が現れることが分かる。
- (2) 体の変化はだれにでも起こり、個人差があることが分かる。
- (3) 自分のこれからの体の変化を前向きに受け止めることができる。

## 4 単元計画

時間	ねらい	学習内容	評価の観点
1	○身長や体重などは、年齢に伴って変化し、個人差があることが分かる。	○入学してからの一年間ごとの身長 の伸びをグラフにして伸び方を調べる。	【関心・意欲・態度】 自分の体の発育の仕方に関心を持ち、これからの発育に期待を持っている。 【知識・理解】 思春期には身体が変化し発育・発達には個人差があることが分かる。 【思考・判断】 自分の生活を振り返り体をよりよく成長させるために、必要なことを考え実践しようとしている。
2	○心身の健全な発育や健康の保持増進には、食事、休養、運動の調和のとれた生活を送ることが必要であることが分かる。	○一日で食べる食品の数を調べ、栄養のバランスの大切さを知る。	
3	○思春期に起こる男女の体の外見上の変化、またその変化には個人差があることが分かる。	○休養や運動の大切さについて考える。	
4	○思春期になると、女子では初経、男子では精通が起こることが分かる。	○おとなに近づくと、男性、女性の体になどどのような変化が起こるか考える。 ○男女のそれぞれの性器の違いや、月経、精通について知る。	

## 5 本時の指導

(1) 主題 思春期における男女の体つきの特徴

(2) ねらい

思春期における男女の体つきの違いについて分かる。

(3) 準備物

ワークシート

(4) 指導上の配慮事項

ア 身体の変化に対して、児童が嫌悪感や劣等感を抱かないように、今の自分を肯定的に受け止めることができるよう配慮する。

イ 事前に各家庭に学習内容を知らせ、理解と協力を得る。

(5) 展開

学習活動・内容	時間	教師のかかわり	評価
1 男女の体つきの違いについて幼児の場合で考える。	5	○幼児の場合では、男女の体つきの違いはあまりないことをとらえさせる。	○自分の体の発育の仕方に関心を持ち、意欲的に調べようとしている。(観察)
2 男女の体つきについて、お父さんとお母さんの場合で調べてきたことを発表する。	10	○父母の体つきの違いを触ったりして具体的に調べてくることによって、男女の体つきの違いをイメージできるようにする。	
3 大人に近づくと、男女の体にどのような変化が起こるか、ワークシートにまとめる。	10	○男女の体の模型を準備し、視覚や触覚を使って確認できるようにする。	○体の変化は、誰にでも起こり、個人差があることを理解している。(発表)
4 体の変化が起こる時期について、教科書のグラフを読み取る。	10	○人それぞれ成長に違いがあることを伝え、違いはあってもだれもが体の変化を迎えることを強調する。	
5 思春期に起こる男女の体つきの違いについて分かったことを発表する。	10	○本時の学習内容を振り返らせる。	

ワークシート

お父さんとお母さんの体つきについて調べよう

1 目をして、お父さんとお母さんの体の後ろの部分（かた、せなか、こしなど）をさわってみよう。どちらがお父さんでどちらがお母さんかわかるかな？

(    わかる            わからない    )

2 わかった人は、そのりゆうをかきましょう。

--

3 お父さんとお母さんの体つきのちがいを、見たり、聞いたり、さわったりしてしらべてみましょう。

体の部分など	お父さん	お母さん

## テーマ 「大きくなったね」

## 1 設定の理由

小学部では毎月の身体計測を実施している。計測の数値を記録するだけでなく、実際どれくらい成長したかについて具体的に気付かせる。

## 2 ねらい

- 自分の体の発育量に気付かせる。
- 身体計測をすることの目的に気付かせ、自己の成長に関心が持てるようにする。

## 3 対象 小学部4年生

## 4 場所 保健室

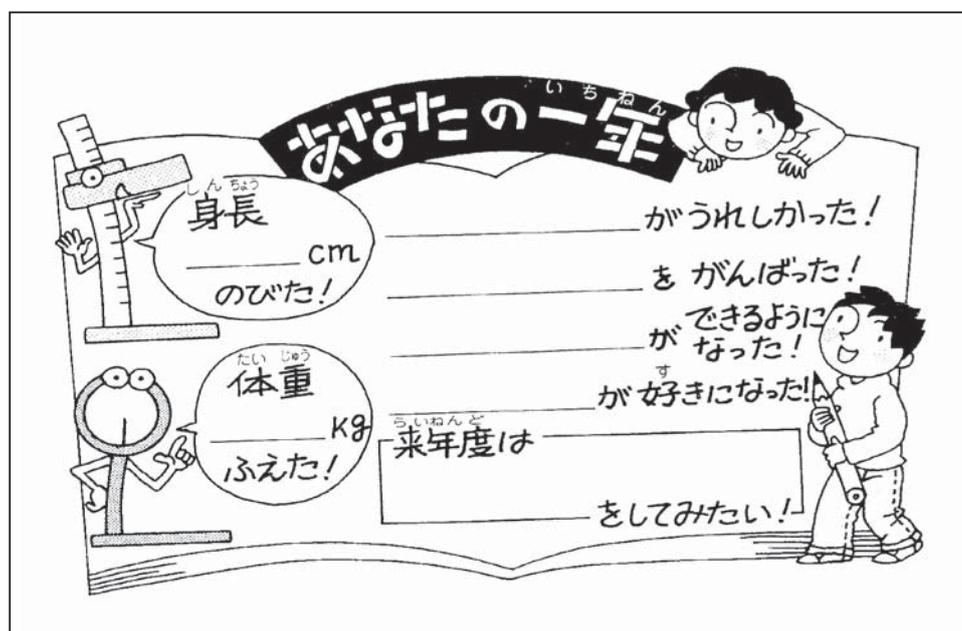
## 5 指導者 養護教諭 学級担任

## 6 内容 (20分間)

学習内容	指導内容
身体計測の目的を知る。	体が成長していることに気付かせる。
一年間の発育量を知る。	「あなたの一年」のプリントを配付し、個人の成長した分を算出させる。その分の砂袋も持たせたり、紙テープを作らせたりすることによって、増加した分を確認させる。

## 7 留意点

- 自分たちの体が、少しずつ成長し、大人のからだに近づいていることに気付かせるとともに、身体計測の目的についても理解させる。
- 実際の増加量を、砂袋を持ってみたり、紙テープを触ってみたりすることで、視覚から入ってくる情報をカバーしながら、発育量を実感させる。
- 発育には個人差があることを説明する。

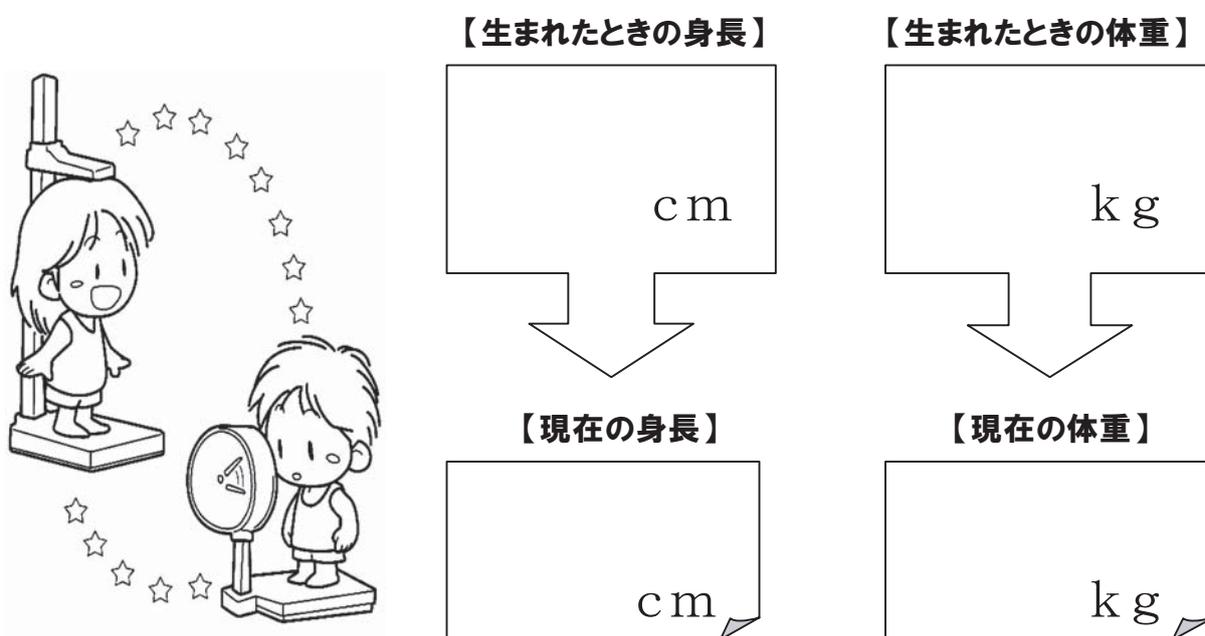


# 保健だより

〇〇盲 3月号  
小学部

保護者の方へ・・・

先日、3月の身体計測を行いました。この一年間で、ぐんぐん背が伸びていた子ども、少しだけ伸びていた子ども・・・みんなの成長のしかたもいろいろあります。今、学校では、子どもたちのからだの成長についての学習をしています。保健室でもいろいろ話す機会をつくっています。よろしければ、生まれた時の身長と体重を、ぜひお子様にお話くだされば、と思います。



この一年間で、子どもたちはずいぶん大きく成長しました。からだが大きくなっただけではありません。以前なら、すぐ泣きべそをかいていた子ども、すぐ黙ってしまった子ども、自分のことだけ考えて行動していた子どもたちが、きちんと自分の意見が言えたり、他の友達の手助けが進んでできるようになりました。まわりの友達のことを考えられる、思いやりの心もどんどん育っています。ご家庭でも、そんなお子様の成長がみられたら、ほめてあげてください。すばらしい芽をみんな大きく育てていけたらと思います。

1 単元名 男女交際のマナー

2 題材観

高等部段階の生徒は、身体の成長に伴い、異性への関心が高まっている。生徒の日常生活に関する実態調査を見てみると、異性に対する興味が非常に高いことが分かる。日常生活の会話の中でも「〇〇さん（くん）が好き」というような言葉もよく聞く。この時期の高校生としての日常生活に視点をあてながら、望ましい男女交際のあり方について考え、好ましいマナーを身に付けることは、将来社会人として社会生活を営む上でも大切なことであると考え、本題材を設定した。

3 目標

- (1) よりよい男女関係や人間関係を築くためには、周りの人や相手に対する心遣いが大切であることを理解し身に付ける。(関心・意欲・態度)
- (2) 高校生としての望ましい男女交際のあり方について考え、異性と接する時のマナーやエチケットを身に付ける。(知識・理解)

4 単元計画

- (1) 高校生らしい行動をとろう・・・1時間
- (2) マナーについて考えよう・・・1時間
- (3) 好ましい男女交際のマナーを身に付けよう・・・2時間（本時その1）

5 本時の指導

(1) 主題

好ましい男女交際のマナーを身に付けよう。

(2) ねらい

- それぞれ異性に対してどのような気持ちを持っているか話し合う。
- 高校生らしい異性との接し方について考える。

(3) 準備物

文字カード 寸劇脚本 ワークシート

(4) 展開

学習活動・内容	時間	教師の指導・支援	評価の観点・方法等
1 本時の学習内容を知る。 ○「異性との接し方」「男女交際のマナー」について学習することを知らせる。	5	○前時までを具体的に振り返り、本時は、特に男女交際のマナーについて考えていくことを意識づける。	
2 異性に対する気持ちを話し合う。 (1) 今までの学校生活を振り返る。	10	○生徒の自由な発言を大切に、できるだけ多くの生徒が恥ずかしながら発言できる雰囲気づくりや言葉掛けをする。	○異性に対する自分の気持ちや行動について素直に考えている。 (観察)

<p>(2) 異性とのかかわりの中で、楽しかったことや嫌だったことについて意見交換をする。</p> <p>3 異性との接し方について考える。</p> <p>(1) 具体的に目にする例から考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○卒業した先輩のことが好きなAさん</li> <li>○休憩時間に好きな人のいる教室に遊びに行くBさん</li> <li>○待ち合わせて帰るCさん</li> </ul> <p>(2) 友達の様子を見て、よい点、悪い点について話し合う。</p> <p>(3) 自分の気持ち、付き合い方について考える。</p> <p>(4) 好きな人とどのような付き合い方をしたいと思っているか。</p>	<p>20</p>	<p>○異性を好きになることは自然の心の動きであり、思春期のだれにでも生じることを話す。</p> <p>○自由な発言が出やすいように、具体例や教師の体験談なども入れる。</p> <p>○ポイントになるような発言については、さりげなく強調する。</p> <p>○友達同士や教師との寸劇により、具体的な場面を想起する。</p> <p>○周りの人がよく見ていることに気付くよう意識付ける。</p> <p>○身近な友達の行動について考え、自分であったらどんな気持ちになるか、どう行動するかなどを考える。</p>	<p>○異性に対する他の人の行動や発言に納得できている。また、納得できない理由がはっきりしている。（観察）</p>
<p>4 本時のまとめをする。</p> <p>(1) 好ましい異性との接し方とはどんなものか考えをまとめる。</p> <p>(2) 男女交際のマナーについて何が大切であるか発表し合う。</p>	<p>10</p>	<p>○自分の考えについてワークシートにまとめることにより、自己の素直な気持ちを見つめる。</p> <p>○いろいろな意見が出るよう自由な発言を大切にし、次時はさらに男女交際のマナーについて深めていくことを伝える。</p>	<p>○男女交際のマナーについて大切なことがわかっている。（発表）</p>

6 資料  
事前アンケート

## 「異性について」のアンケート

年（男 女）

今までの身近なできごとを思い出して

アンケートに答えてください。

- 1 異性とのかかわりの中で、どんなことが楽しいですか。

.....  
.....  
.....

- 2 反対にいやだと思ったことはありませんか。

.....  
.....  
.....

- 3 好きな人と一緒にどんなことをしてみたいですか。（ ）に○を付けてください。○は、何個付けてもよいです。

- ( ) ゆっくり話をしたい。
- ( ) ボウリングに行きたい。
- ( ) 買い物に行きたい。
- ( ) 勉強やスポーツをしたい。
- ( ) 映画に行きたい。
- ( ) 手をつなぎたい。
- ( ) きれいな景色を見に行きたい。
- ( ) 散歩をしたい。
- ( ) 食事をしたい。

\* その他何かあれば書いてください。

.....



テーマ 「高校生のマナーについて」

1 設定の理由	<p>二学期に入り学校生活に慣れたためか、単独通学をしている生徒たちの服装や行動にやや乱れが目立つようになった。そこで、この機会をとらえ高等部の生徒たちに、思春期の心と体の発達について話し、高校生らしい行動や男女交際のマナーについて考えさせることにした。</p>
2 ねらい	<p>高校生らしい行動や異性に対する好ましいマナーを身に付ける。</p>
3 対象	<p>高等部生徒全員 173名</p>
4 場所	<p>第二体育館</p>
5 指導者	<p>生徒指導主事 高等部主事 養護教諭</p>
6 内容	<p>思春期における心と体の発達について（高校生らしい行動や男女交際のあり方について等）、寸劇やパソコンソフトを通して、自分自身の行動を振り返り見直す機会とする。</p> <p>(1) 生徒指導主事の話聞く。</p> <p>(2) 寸劇を見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○服装や言葉遣いの乱れている例</li> <li>○通学時の様子（一般道路）</li> <li>○通学時の様子（電車の中）</li> <li>○男女交際の例</li> <li>○休日の友達との過ごし方 <ul style="list-style-type: none"> <li>・寸劇ごとに生徒の感想を聞く。</li> <li>・それぞれの場面のよい点悪い点について話し合う。</li> <li>・正しい行動、言葉遣いについて考える。</li> <li>・自分たちのとるべき行動について考える。</li> </ul> </li> <li>○正しい行動についての寸劇を一連の流れで見て確認する。</li> </ul> <p>(3) 薬物乱用防止のパソコンソフトを見る。</p> <p>(4) 生徒の意見・感想発表をする。</p>
7 留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大人数の生徒集団であり一人一人の理解度の差が大きいため、HRや日常生活の指導の時間などでさらに意識付けを行う。</li> <li>○生徒たちに身近な例を取り上げた寸劇とする。</li> </ul>

## (6) 保健センターと連携した実践例

平成元年から、市の保健センターの保健師が中心となって、学期に1回、市教育委員会学校教育課担当者や校区の学校関係者が、子どもたちの実態を基に、相互にどのような協力ができるのかについて話し合っており、学校における性教育の在り方についても意見交換を行っている。

また、年に1～2回、中学校や保健センターを会場に講演会を開催することにより、生徒や保護者への啓発活動を行っている。

### ア 実施計画

日程	事業項目	事業内容・指導内容
4月	事前打ち合わせ会	校区の学校・町・保健センターとの事業の打合せ
6月	保健学習(保健体育) (第1回性教育)	「生殖にかかわる機能の成熟」
7月	思春期教室 (学校行事) (第2回性教育)	「自分たちの身体と心について楽しく学ぼう」 〇〇保健師 60分講演 参加者 中学校1～3年生・保護者・教職員
10月	事前打合せ会	「総合的な学習の時間」の指導内容について、保健センター保健師との打合せ
12月	総合的な学習の時間 (第3回性教育)	「自分や他人の命の大切さを知ろう」学級担任と保健センター保健師による参観授業 対象学年 中学2年生
2月	事後反省と次年度の打合せ会	校区の学校・保健センターとの事業の反省と次年度の計画立案

### イ 町・学校・保健センターの関係者による性教育「思春期教室」

#### (ア) ねらい

子どもたちと一緒に講演を聞くことで保護者の理解を深め、親子で性について話し合うきっかけを作る。

#### (イ) 参加者

中学1～3年生と町内の小・中学生の保護者、教職員

## (ウ) 実施の概要

13:50 あいさつ・講師紹介（教育委員会）

14:00 講演「自分たちの身体と心について楽しく学ぼう！」（〇〇保健師）

○自分の身体を理解し好きになることが、自分のライフスタイルを確立するための第一歩

- ・思春期の男女の身体の変化（二次性徴）
- ・プライベートゾーンは、自分だけの大切な所

○自分の身体を知ることは、自分の健康を守るためにとても重要なこと

- ・性感染症とは
- ・自立って何だろう
- ・自分の身体っていいなあと思えるようになる
- ・お互いを理解することによって、人を愛し大事にすることができる

15:00 質疑応答・お礼の言葉（生徒会保健委員長）

15:10～15:45 事後指導（感想文）

※ 開催に当たって次の文書を配布した。

### 「思春期教室」の開催について

「思春期」の子どもや親・教師が「思春期」に対する正しい知識を持ち、この時期の子どもたちの心や体の変化に適切な対応ができるようになるために、下記の日程により「思春期教室」を開催いたします。

是非ともお気軽にご参加ください。

記

日 時 7月〇日（〇） 14:00～15:00

会 場 〇〇中学校

講 師 〇〇保健師

テーマ 「自分たちの身体と心について楽しく学ぼう！」

## (エ) 生徒の感想

○自分の身体について知らないことがたくさんありました。今日の話聞いて、身体のしくみについてよく分かった。

○身体の変化などで不安に思うこともあったけど、人それぞれに個人差があることが分かり、安心した。

○今まで知らなかった身体のことをきちんと分かってよかった。悩みができて、一人で悩まずに、保健師さんなど専門の人に相談しようと思う。

○思春期や成長のことがよく分かった。自分の身体を大切にしようと思う。

○人を愛することは大切なことだと分かった。相手のことを考えて行動しようと思う。

## (オ) 評価と課題

- 中学1年生から3年生までを対象としたため、講演内容の検討など講師との事前の打ち合わせに時間がかかった。
- どの学年の生徒も、分かりやすかったと感想に書いているものが多く、手応えを感じた。
- 保護者からは、「親では説明しにくいことも、きちんと分かりやすく説明してもらえてとてもありがたかった。異性の身体についてよく分かった。」などの感想が寄せられ、好評だった。
- 生徒は保健の授業などで学習したことを忘れがちである。生徒の実態に応じた内容で、繰り返し学習を継続することによって、正しい判断ができる生徒に育ってほしいと思う。

## ウ 学級担任と保健師のチームティーチングによる性教育

「自分や他人の命の大切さを知ろう」（2年生総合的な学習の時間：参観日）



写真1

## (ア) 実施の概要

- 講師（保健センター保健師）のお話
  - ・保健センターの母と子どもを守る事業（母子保健制度）について知る。
  - ・自分の命が家庭や地域でどのように生まれ、守られてきたかを知る。
  - ・妊婦健診や出産、赤ちゃん健診などでの両親や家族の思いを知る。
- 体験学習
  - ・乳児人形を抱く。（写真1）
  - ・妊婦体験ジャケットを装着し、実際の胎児心音を聞く。
- 感想や意見発表
  - ・学習後の自分の考えとみんなの考えを書き、学習前と比較してみる。

※ 授業ノート

Q 「命の誕生→妊娠→出産→・・・」には、どんなことが必要でしょうか？

① 学習前（ 年 月 日）

自分の考え

みんなの考え

② 学習後（ 年 月 日）

自分の考え

みんなの考え

(イ) 生徒の感想

- 今回の学習でとてもうれしかったことがあります。それは、保健師さんがクラス全員の小さいときの様子を覚えていて、話してくださったことです。
- お腹の中にいるときから大切にされていて、命は自分一人のものだけじゃなく、みんなに大事にされているかけがえのないものなのだなあと思いました。だから、これからも自分の命を大切にしたいです。
- 自分が、地域に見守られながら、誕生したことを初めて知ってビックリしました。今、生きているのは、本当にたくさんの方のおかげだと実感しました。
- 弟や妹を産む前のお腹のふくらんだ母の姿を覚えていますが、それほど苦しそうに見えませんでした。妊婦さんの体験をして、改めて母はすごいなあと思いました。

(ウ) 評価と課題

- 母親が母子手帳の交付を受けた時に始まり、以後、妊婦健診や出産、乳児健診を通してずっと自分たちにかかわってくれた保健師さんから直接話を聞くことができたので、自分たちが地域の中で大切に育てられたことが、実感できたようだった。

## 2 性教育を効果的に進めるためのQ & A

教職員が指導する際に比較的多く持った疑問について、Q & A形式で学校における性教育を効果的に進めるための留意事項をまとめたものである。

### 【共通】

#### Q 1 学校は保護者や地域に対し、どのように発信したらよいか？

A 1 学校説明会や学校だより、学年だより、学級通信、授業参観、懇談会、講演会、学校保健委員会、家庭教育学級等を通して、年間指導計画を提示するとともに、地区別懇談会等で話題を提供するなどして、家庭や地域の性教育への意識を高め、共通理解を図るようにする。

また、性教育を授業参観等で公開したり、保護者に授業に参加してもらったりすることも意識を高め、理解を深めるのに効果的な方法である。

#### Q 2 外部講師と連携をとるときに留意すべきことは何か？

A 2 指導内容及び児童生徒の実態に応じて、学校における性教育に外部講師（学校医、産婦人科医、助産師、保健師等）を招くことにより学習を深めることができる。指導のねらいや単元目標について講師と十分に事前に打ち合わせを行い、児童生徒の実態や既習内容、発達段階等を知らせるなどにより、教育効果がより高まるようにする必要がある。

#### Q 3 課題解決的な学習を性教育で取り入れるときに留意すべきことは何か？

A 3 教師は児童生徒が単元目標を十分実現できる課題を設定できるとともに、課題の内容が児童生徒の発達段階に即した適切なものになるよう指導を行う必要がある。

課題解決的な学習で調べる活動を行う際は、学校図書館や地域の教材、学習環境を積極的に活用することを指導することは必要であるが、児童生徒が発達段階に即していない様々な情報を収集することもあるので、学習方法と教材については慎重に取り扱う必要がある。

#### Q 4 学習指導要領一部改正により、発展的な学習として学習指導要領に示されていない学習内容を指導してよいのか？

A 4 学習指導要領の一部改正等によって、学習指導要領第1章第2の2において、内容の取り扱いに関し、「学校において特に必要がある場合第2章以下に示していない内容を加えて指導することができる」ようになった。

しかし、この場合第2章以下に示す各教科、道徳、特別活動における各学年の目標や内容の趣旨を逸脱したり、児童生徒の負担過重となったりすることのないようにしなければならない。今回の一部改正は、内容の取り扱いについて無制限に許容するものではない。

したがって、発展的な内容は、個に応じた指導の充実のために取り入れるものであり、一律の指導内容として扱うものではない。

**Q 5 一律の指導だけでは十分でない児童生徒の指導はどうしたらよいか？**

A 5 一律の指導内容では、個人の課題への対応が不十分な場合には、個別指導を十分に行う必要がある。

その場合、学校の対応だけでは限界があるため、各種相談機関をケースに応じて活用することも有益である。また、必要に応じて、相談機関を生徒や保護者に周知することも考えられる。

**【小学校】**

**Q 1 小学校低学年で、性器の名称としてペニス、ワギナを教えるべきか？**

A 1 小学校低学年において、性器は大切な器官の一つであり、清潔にしておくことを理解させることは大切である。しかし、一律の指導で性器の名称まで学習する必要はない。

性器の名称は、第4学年の体育・保健領域で初経、精通を理解させるために、教科書に出ているが、平成17年度より教科書の性器の名称は「ペニス」「ワギナ」から「いんけい」、「ちつ」の表記になった。

**Q 2 小学校低学年の学級活動で「男の子・女の子・大切な体」を扱う場合、性器の名称はどのように教えるのがよいか？**

A 2 児童の発言の中に、おちんちんの有無、形の違いや排尿の違いについてなどが出ることもある。だからといって、そこで特別に、ペニス、ワギナという名称を教える必要はない。第4学年の体育・保健領域「育ちゆく体とわたし」の内容では、初経や精通について学習することになっており、教科書においても、その段階で性器の名称を表記する取扱いになっている。低学年の段階では、必要があれば幼児語を用いて説明すればよい。

**Q 3 性的接触を小学校で扱うことは適切か？**

A 3 一般に小学生に、性的接触を理解させることは困難である。また、性的接触を扱うことは学習指導要領の趣旨を越えることになるとともに、保護者等の理解も得られにくく、一律の指導内容としては適切とは言えない。

小学校中、高学年になると、自分がどのように生まれてきたのかということを知り、自己認識を確かめたいという欲求が生じてくる。したがって、生命誕生について理解させ、自他の生命を大切にしようとする態度を育てることは必要であるが、生命誕生を理解させるために性的接触まで扱う必要はない。

**Q 4 小学校低学年で生まれる前の様子を指導することは適切か？**

A 4 この時期は自分が父親・母親によって生まれ、多くの人々の愛情と保護によって育てられてきたことに気付かせる指導は必要である。生活科の内容(8)の「自分の成長」で扱う場合は、これまでの生活や成長を支えてくれた人々への感謝の気持ちを持ち、意欲的に生活できるようにすることを目的とした指導内容にする必要がある。

母体内での成長の様子については、第5学年の理科で選択して指導することになっているが、小学校低学年の特別活動等で指導する場合には、既習内容や発達段階を踏まえ、児童が理解できる内容とする必要がある。

Q 5 生活科で、自分の成長を振り返る場合にはどのような点に配慮すればよいのか？

A 5 生活科の内容（8）では、多くの人々の支えにより自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かり、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつとともに、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活することができるようにすることを示している。

どの時点から自分の成長を振り返り実感するかは、児童によって異なり、よく覚えていることから振り返る児童もいれば、現在の自分から振り返る児童もいる。一律に過去から順にたどることではない。まして、出生の時の状況などに詳しく踏み込むことを求めているものではない。

児童にとってその成長の過程や環境はそれぞれ異なっているので、この点を十分に配慮し、保護者等との協力や教師の見通しをもった支援が大切である。

Q 6 性に関する問題行動について考えさせる授業を行ってよいか、またそのときの留意点は何か？

A 6 小学校高学年になると性に関心を示し出し、例えば、携帯電話やインターネットの普及により様々な情報に触れる機会も多くなってくることから、家庭と協力しながら、人権の重要性や性の商品化の弊害について適切に指導する必要がある。

現代的課題として性に関する問題行動を課題解決的な学習として扱う場合は、興味本位な課題が出される可能性があるため、十分注意する必要がある。

Q 7 6年生の保健でエイズについてどのように取り扱ったらよいか？

A 7 第6学年の体育・保健領域の「病気の予防」でエイズという病気のあらましを理解させ、エイズに対する偏見や差別を持つことなく、正しい判断ができる能力を育てることが大切である。

なお、エイズが「性的接触」で感染することは中学校の保健体育・保健分野で扱うことになっており、小学校では「性的接触」による感染症としては扱う必要はない。

## 【中学校】

Q 1 性に関する指導にはどのような視点が必要か？

A 1 自己の体の発育・発達や性的成熟への適応のための支援、社会的成熟への適応のための支援、適切な行動選択の能力を高めるための支援は、この時期において極めて重要である。性の成熟により、妊娠が可能となった自己の体への認識を深めるとともに、妊娠の持つ意味と生命尊重の意義を考え、体は成熟してもまだ親にはなれないことと、中学校時期の望ましい男女の人間関係について考えさせる指導が必要である。

Q 2 性的接触を中学校で一律の指導として取り扱ってよいか？

A 2 中学校の学習指導要領では、第1学年の保健体育・保健分野で、「生殖にかかわる機能の成熟」について学習すると定められており、内容の取扱いで「受精・妊娠までを取扱うものとし、妊娠の経過は取扱わないものとする。」となっている。妊娠すること、させることが可能となる性の成熟が始まるという観点から取り扱われており、性的接触は内

容として示されていない。ここでは、性機能の成熟により、妊娠が可能となった自己の体への認識を高めるとともに、こうした変化に対応した適切な行動の必要性を理解し、体は成熟してもまだ親にはなれないこと等を考えさせていくことが大切である。

また、妊娠や性感染症への感染など、安易な性的接触による危険性を考えさせることにより、性行動の適切な判断と行動選択の能力を育てる指導も必要である。

### Q 3 一律の指導でコンドームについて指導はどうしたらよいか？

A 3 中学校の第3学年の保健体育・保健分野で後天性免疫不全症候群（エイズ）を指導する際は、「感染経路は性的接触であることから、感染を予防するには性的接触をしないこと、コンドームを使うことなどが有効であることにも触れるようにする。」（「中学校学習指導要領解説」文部省編）こととしているが、コンドームの装着の仕方等は、内容として示されていない。

また、中学生の「性的接触」や「コンドーム」に対する知識や情報については個人差が大きく、理解や受け止め方が異なるため、一律の実習や指導は適切ではない。

### Q 4 保健の授業時数については、どのように考えたらよいか？

A 4 中学校学習指導要領は、国が定めた教育課程の基準であるので、各学校の教育課程の編成及び実施に当たっては、これに従うことになっている。

また、学習指導要領一部改正（平成15年12月26日）が行われたが、改正で「学習指導要領に示された内容の取扱いのうち、内容の範囲や程度等を示す事項はすべての生徒に対して指導するものとする内容の範囲や程度を示したもの」が新たに加わり、学習指導要領の基準性を踏まえた指導の一層の充実を図ることとされている。保健の授業は、各学校の教育課程に位置付け、定められた標準の授業時数を確保し、保健学習の内容を充実させることが必要である。

参考 中学校学習指導要領（平成10年12月）第2章 第7節 保健体育

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 授業時数の配当については、次のとおり取り扱うこと。

ア 保健分野の授業時数は、3学年間で、48単位時間程度を配当すること。

（東京都教育委員会「性教育の手引」（平成16年）、横浜市教育委員会「横浜市学校における性教育の考え方、進め方」（平成16年）より一部改変）



# 資料編





## 資料1 各教職員の役割（例）

ここに示した役割は、あくまでも例なので、各学校の実態に応じた役割分担を行うこと。

### （ア）校長・教頭

性教育の意義を十分に理解し、自校の課題を把握した上で、性教育の基本方針を明らかにする。

教職員の役割を明確にするとともに、リーダーシップを発揮して学校全体で推進できる体制を整える。

また、性教育の推進状況を把握し、関係機関などと連携を図るための条件（予算・時間等）を整える。

さらに、教職員や児童生徒がお互いに尊重し合うことができるような学校経営に努める。

### （イ）教務主任

学校教育活動全体と性教育に関する全体計画との調整を行う。特に、特別活動において、性教育に必要な時間が確保できるように努める。

### （ウ）生徒指導・教育相談担当者

児童生徒の意識や行動などの状況を的確に把握し、集団指導及び個別指導、相談活動などにおいて、性にかかわる問題行動などへの指導支援が適切に行われるように企画・実施する。

### （エ）保健主事

性教育の全体計画の立案及び推進の中心的役割を担い、その実施状況を把握するとともに、必要な校内外の関係者との連絡、調整に当たる。

また、養護教諭と協力し、学校保健委員会などを通じて家庭や地域関係機関と連携を図るとともに、児童生徒の性に関する情報提供などを行う。

### （オ）養護教諭

専門性を生かし、保健室での健康相談活動等を通して性にかかわる情報の収集に努め、関係者と協力して性教育の全体計画の立案や児童生徒への集団及び個別指導を積極的に行う。指導においては、学級担任とのチームティーチングや兼職発令を受けて「保健学習」を担当することにより、性教育の充実と推進を図る。

### （カ）研修主任

年間の校内研修計画に性教育にかかわる内容を位置付けたり、効果的な研修を進めたりするための研修方法の工夫・改善を図る。

### （キ）人権教育主任

性教育を推進する上で、人間尊重、男女平等などの精神に基づく正しい異性観を持たせる必要があることから、人権教育の視点から指導内容等について助言を行う。

#### (ク) 学年主任

担当する学年において、計画された性教育が適切かつ効果的に行われるように、学級担任や教科担任等の連絡調整を図る。

また、学年経営においては、学年の中で生命尊重や人間尊重など、好ましい人間関係の醸成が図れるように配慮する。

さらに、学年通信や学年保護者会等を通じて、性教育について保護者との相互理解を十分に図れるようにする。

#### (ケ) 教科担任・学級担任

担当する教科や学級において、指導計画に基づいた指導を行う。指導に当たっては、自校の性教育の方針やねらいに沿って、効果的な指導がなされるよう創意工夫する。

また、学級経営に当たっては、学校生活が児童生徒の性にかかわる意識や行動の形成に大きく影響するものであることを理解し、人間尊重、男女平等などの性教育の理念が具体化するように努める。

#### (コ) その他

学校における性教育は、原則として校内の教職員が実施すべきであると考え、医師、助産師等の専門家の協力を得ることが効果的な場合もある。

外部講師を依頼する場合は、事前に「学校における性教育」という観点で指導内容や指導方法について十分な打合せを行うことが必要である。

地域の専門家等からの指導、協力を得て、より効果的な性教育を進めるためには、日ごろから、学校の性教育の方針や児童生徒の現状などについて情報交換を行い、連携を深めておくことが大切である。

## 資料2 実態把握の進め方

判断材料	日常の行動、言葉遣い、服装（髪型、持ち物）、態度、健康診断結果、保健室での情報・相談内容、子ども同士の会話の様子など
実態	<input type="checkbox"/> 性に関する意識や価値観：大人との意識のずれ、社会規範とのずれ <input type="checkbox"/> 児童生徒の交友関係：異性、仲間、先輩や成人などのかかわり <input type="checkbox"/> 心身の発育・発達の状況：発育・発達に伴う心理状態 <input type="checkbox"/> 性に関する知識の内容：量とその入手経路、マスメディアの影響 <input type="checkbox"/> 家庭環境など
留意事項	<p>○課題のみならず学校又は個人のよい点にも着目して実態を把握する。            プラスの健康行動をしている子どもの実態を把握することで、課題解決のための工夫に深みと広がりを持たせることができる。</p> <p>○すべての教職員が指導に当たる。</p> <p>○性に関する問題行動の背景にある要因にも留意する。</p>

### KJ法による実態把握

（注）KJ法とは、ブレインストーミングなどで出された意見や情報を1枚ずつ小さいカード（紙片）に書き込み、それらのカードの中から近いもの同士を集めてグループ化していき、それらを小グループから中グループ、大グループへと組み立てて図解していきます。それによって、課題等を明確化していく収束的思考を助ける手法です。

### <例：小学校>

<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center; background-color: #e0f0ff;">成長の受け止め方</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">胸が大きくなることを嫌がっている</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">成長することに嫌悪感を感じている</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">自分の体型に不満を持っている</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">月経を恥ずかしがる</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;">身長が伸びることを楽しみにしている</div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center; background-color: #e0f0ff;">自己肯定感</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">言葉遣いが悪い（児童同士、対教師）</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">簡単に「死ね」「死にたい」と言う</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">わたしなんかどうせ・・・</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;">正義感が強い子がいる    クラスの仲がよい</div>
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center; background-color: #e0f0ff;">トイレの使い方</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">トイレに卑わいな落書きをする</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">トイレのスリッパがそろっていない</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;">汚物入れ周辺が散らかっている</div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center; background-color: #e0f0ff;">マナー・エチケット</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">胸部が大きく開いた服を着る子がいる</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">女子が性被害に遭いそうになった</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;">どこにでも座り込む</div>
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center; background-color: #e0f0ff;">性情報</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">「セックス」という言葉を頻繁に使用    出会い系サイトにアクセス</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">雑誌からの性情報    インターネットによる情報閲覧    アダルトビデオ・DVD</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;">少女マンガの過激な性描写    ドラマの影響</div>	

### 資料3 学習指導要領に示されている性教育に関する主な内容

＜小学校＞

（学習指導要領解説より一部抜粋）

主 な 内 容	
体 育 ・ 保 健 領 域	<p>＜3年＞「毎日の生活と健康」</p> <p>(1) 健康の大切さを認識するとともに、健康によい生活の仕方が理解できるようにする。</p> <p>ア 毎日を健康に過ごすためには、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける必要があること。</p> <p>イ 毎日を健康に過ごすためには、体の清潔を保つことや明るさ、換気などの生活環境を整えることなどが必要であること。</p>
	<p>＜4年＞「育ちゆく体とわたし」</p> <p>(2) 体の発育・発達について理解できるようにする。</p> <p>ア 体は、年齢に伴って変化すること。また、体をよりよく発育・発達させるためには、調和のとれた食事、適切な運動、休養及び睡眠が必要であること。</p> <p>イ 体は、思春期になると次第に大人の体に近づき、体つきが変わったり、初経、精通などが起こったりすること。また、異性への関心が芽生えること。</p> <p>(解説) 自分を大切にす気持ちるを育てる観点から、自分の体の変化や個人による発育の違いなどについて肯定的に受け止めることが大切であることに気付かせるよう配慮するものとする。</p>
	<p>＜5年＞「心の健康」</p> <p>(2) 心の発達及び不安、悩みへの対処の仕方について理解できるようにする。</p> <p>ア 心は、いろいろな生活経験を通して、年齢とともに発達すること。</p> <p>イ 心と体は密接な関係にあり、互いに影響し合うこと。</p> <p>ウ 不安や悩みへの対処には、大人や友達に相談する、仲間と遊ぶ、運動をするなどいろいろな方法があること。</p>
	<p>＜6年＞「病気の予防」</p> <p>(3) 病気の予防について理解できるようにする。</p> <p>ア 病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境がかかわりあって起こること。</p> <p>イ 病原体が主な要因となって起こる病気の予防には、病原体を体に入れないことや病原体に対する体の抵抗力を高めることが必要であること。</p> <p>ウ 生活習慣病など生活行動が主な要因となって起こる病気の予防には、栄養の偏りのない食事や口腔の衛生など、望ましい生活習慣を身に付けることが必要であること。また、喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、健康を損なう原因となること。</p>
特別活動	<p>＜1～6年＞ A 学級活動</p> <p>(2) 日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること。</p> <p>希望や目標をもって生きる態度の形成、基本的な生活習慣の形成、望ましい人間関係の育成、学校図書館の利用、心身ともに健康で安全な生活態度の形成、学校給食と望ましい食習慣の形成など</p>
道 徳	<p>＜1～2年＞</p> <p>3 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること。</p> <p>(2) 生きることを喜び、生命を大切にす心をもつ。</p>
	<p>＜3～4年＞</p> <p>3 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること。</p> <p>(2) 生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にす。</p>
	<p>＜5～6年＞</p> <p>2 主として他の人とかかわりに関すること。</p> <p>(3) 互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。</p> <p>(解説) …また、特にこの段階は、第二次性徴期に入るため、異性に対する正しい理解と男女間の友情を育てることに配慮する必要がある。</p> <p>3 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること。</p> <p>(2) 生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。</p> <p>4 主として集団や社会とかかわりに関すること。</p> <p>(3) だれに対しても差別をすることや偏見をもつことなく公正、公平にし、正義の実現に努める。</p>
生活	<p>＜1～2年＞</p> <p>(7) 動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気付き、生き物への親しみをもち、大切にすことができるようにす。</p>
理科	<p>＜5年＞ A 生物とその環境</p> <p>(2) 魚を育てたり人の発生についての資料を活用したりして、卵の変化の様子を調べ、動物の発生や成長につれての考えをもつようにす。</p> <p>イ 人は、母体内で成長して生まれること。</p> <p>(内容の取扱い) 受精に至る過程は取り扱わないものとする。</p>

（新潟県教育委員会作成「性教育の手引」より一部改編）

< 中学校及び中等教育学校（前期課程） >

主 な 内 容	
保 健 体 育	<p>&lt; 1年 &gt; 「心身の機能の発達と心の健康」</p> <p>(1) 心身の機能の発達と心の健康について理解できるようにする。</p> <p>ア 身体の機能は年齢とともに発達すること。</p> <p>イ 思春期には、内分泌の働きによって生殖にかかわる機能が成熟すること。また、こうした変化に対応した適切な行動が必要となること。</p> <p>ウ 知的機能、情意機能、社会性などの精神機能は、生活経験などの影響を受けて発達すること。また、思春期においては、自己の認識が深まり、自己形成がなされること。</p> <p>エ 心の健康を保つには、欲求やストレスに適切に対処するとともに、心身の調和を保つことが大切であること。また、欲求やストレスへの対処の仕方に応じて、精神的、身体的に様々な影響が生じることがあること。</p> <p>(内容の取扱い)</p> <p>妊娠や出産が可能となるような成熟が始まるという観点から、受精・妊娠までを取り扱うものとし、妊娠の経過は取り扱わないものとする。また、生殖にかかわる機能の成熟に伴い、性衝動が生じたり、異性への関心が高まることなどから、異性の尊重、情報への適切な対処や行動の選択が必要となることについて取り扱うものとする。</p>
保 健 分 野	<p>&lt; 3年 &gt; 「健康な生活と疾病の予防」</p> <p>(4) 健康な生活と疾病の予防について理解を深めることができるようにする。</p> <p>エ 感染症は、病原体が主な原因となって発生すること。また、感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できること。</p> <p>(解説) エイズ及び性感染症の増加傾向とその低年齢化が社会問題になっていることから、その疾病概念、感染経路、予防方法を身に付ける必要があることを理解できるようにする。例えば、エイズの病原体はヒト免疫不全ウイルス（H I V）であり、その主な感染経路は性的接触であることから、感染を予防するためには性的接触をしないこと、コンドームを使うことなどが有効であることにも触れるようにする。</p> <p>(内容の取扱い) 後天性免疫不全症候群（エイズ）及び性感染症についても取り扱うものとする。</p>
特 別 活 動	<p>&lt; 1～3年 &gt; A 学級活動</p> <p>(2) 個人及び社会の一員としての在り方、健康や安全に関すること。</p> <p>ア 青年期の不安や悩みとその解決、自己及び他者の個性の理解と尊重、社会の一員としての自覚と責任、男女相互の理解と協力、望ましい人間関係の確立、ボランティア活動の意義の理解など</p> <p>イ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成、性的な発達への適応、学校給食と望ましい食習慣の形成など</p>
道 徳	<p>&lt; 1～3年 &gt;</p> <p>2 主として他の人とのかかわりに関すること。</p> <p>(4) 男女は、互いに異性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重する。</p> <p>3 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること。</p> <p>(2) 生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。</p> <p>4 主として集団や社会とのかかわりに関すること。</p> <p>(4) 正義を重んじ、だれに対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める。</p> <p>(6) 父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。</p>
技 術 ・ 家 庭	<p>(家庭分野) &lt; 1～3年 &gt; B 家族と家庭生活</p> <p>(1) 自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて考えさせる。</p> <p>(2) 幼児の発達と家族について、次の事項を指導する。</p> <p>イ 幼児の心身の発達の特徴を知り、子どもが育つ環境としての家族の役割について考えること。</p> <p>(3) 家庭や家族関係について、次の事項を指導する。</p> <p>ア 家庭や家族の基本的な機能を知り、家族関係をよりよくする方法を考えること。</p>
理 科	<p>(第2分野) &lt; 2～3年 &gt;</p> <p>(3) 動物の生活と種類</p> <p>身近な動物についての観察、実験を通して、動物の体のつくりと働きを理解させるとともに、動物の種類やその生活についての認識を深める。</p> <p>(5) 生物の細胞と生殖</p> <p>身近な生物についての観察、実験を通して、細胞のレベルで見た生物の体のつくりと生殖について理解させるとともに、親の形質が子に伝わる現象について認識させる。</p>
社 会	<p>(公民的分野) &lt; 3年 &gt;</p> <p>(1) 現代社会と私たちの生活</p> <p>イ 個人と社会生活</p>

(新潟県教育委員会作成「性教育の手引」より一部改編)

<高等学校及び中等教育学校（後期課程）>

主 な 内 容	
保 健 体 育 ・ 保 健	<p>(1) 現代社会と健康</p> <p>イ 健康の保持増進と疾病の予防 健康を保持増進するとともに、生活習慣病を予防するためには、食事、運動、休養及び睡眠の調和の取れた生活の実践及び喫煙、飲酒に関する適切な意志決定や行動選択が必要であること。 薬物乱用は心身の健康などに深刻な影響を与えることから行ってはならないこと。また、医薬品は正しく使用する必要があること。 感染症の予防には、適切な対策が必要であること。</p> <p>(解説) (エ) 感染症とその予防 エイズ、結核、腸管出血性大腸菌感染症や薬剤耐性菌問題など、近年、感染症の新たな問題が起こっていること、及びその予防には、社会的な対策とともに個人の適切な行動が必要であることを理解できるようにする。</p> <p>(2) 生涯を通じる健康</p> <p>ア 生涯の各段階における健康 生涯にわたって健康を保持増進するためには、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理を行う必要があること。</p> <p>(解説) (ア) 思春期と健康 思春期における心身の発達や健康問題について、特に性的成熟に伴い、心理面、行動面が変化することを中心に理解できるようにする。また、これらの変化に対応して、異性を尊重する態度が必要であること、及び性に関する情報への対処など適切な意志決定や行動選択が必要であることを理解できるようにする。</p> <p>(イ) 結婚生活と健康 健康な結婚生活について、心身の発達や健康状態など保健の立場から理解できるようにする。その際、受精、妊娠、出産とそれに伴う健康問題について理解できるようにするとともに、家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響などについても理解できるようにする。また、適切な意志決定や良好な人間関係を築くことが健康な結婚生活の基礎となることについても触れるようにする。なお、男女それぞれの生殖に関わる機能については、必要に応じ関連付けて扱う程度とする。</p> <p>(内容の取扱い) 思春期と健康、結婚生活と健康及び加齢と健康を取り扱うものとする。また、生殖に関する機能については、必要に応じ関連付けて扱う程度とする。さらに、異性を尊重する態度や性に関する情報等への対処、適切な意志決定や行動選択の必要性についても扱うよう配慮するものとする。</p>
特 別 活 動	<p>&lt;1～3年&gt; A ホームルーム活動</p> <p>(2) 個人及び社会の一員としての在り方生き方、健康や安全に関すること。</p> <p>イ 心身の健康と健全な生活態度や習慣の確立、生命の尊重と安全な生活態度や習慣の確立など</p>
家 庭	<p>(家庭基礎)</p> <p>(1) 人の一生と家族・福祉 人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族や家庭生活の在り方、乳幼児と高齢者の生活と福祉について理解させ、男女が相互に協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について認識させる。</p> <p>(家庭総合)</p> <p>(1) 人の一生と家族・家庭 (2) 子どもの発達と保育・福祉</p>
理 科	<p>(生物 I)</p> <p>(1) 生命の連続性 イ 生殖と発生</p>
公 民	<p>(現代社会)</p> <p>(2) 現代の社会と人間としての在り方生き方</p> <p>(倫理)</p> <p>(1) 青年期の課題と人間としての在り方生き方</p>

(新潟県教育委員会作成「性教育の手引」より一部改編)



資料5 性教育全体計画作成例 ○○小学校 性教育全体計画



学校における性教育の基本的態度	家庭や地域との連携
児童との信頼関係を基盤として、すべての教育活動を通じて、正しい知識を身に付け、自分を大切に考え、成長を肯定的に受け止めることができる児童の育成を目指す。	家庭や地域において役割を持って過ごすことにより、自分の存在価値を再確認することができるようにする。保護者が子どもにとってよき人生のモデルとなることを目指す。

各教科等における主な内容	性教育推進の目標	家庭や地域との連携
<b>(低学年)</b> ◆生活科 ○私の成長（第1学年） ○飼育・栽培を通しての成長への付きと生命の大切さ（第2学年） ◆道徳 ○（第1学年） ○（第2学年） ◆学級活動 ○（第1学年） ○（第2学年）	<b>(低学年)</b> ①男女の体の違いに気付くとともに、自分は父親・母親から生まれ、愛情と保護によって育てられたことを知り自分を大切にしようとする気持ちを育てる。 ②男女の体には違いがあるが、人間として共に大切な存在であることを知り、男女の別なく仲よくしようとする態度を育てる。 ③家族は互いに助け合って生活していることに気付き、家族の一員として協力していこうとする態度を育てるとともに、性被害が起きている現状を知り、被害を防ぐ方法を身に付ける。	☆家族と触れ合う機会を確保し、コミュニケーションを図る。 ☆家庭や地域が一体となった行事等を通じて、子どもたちに自己の存在感を体験させる。 「秋祭り」 「○○地区運動会」
<b>(中学年)</b> ◆体育科（保健領域） ○毎日の生活と健康（第3学年） ○育ちゆく体とわたし（第4学年） ◆道徳 ○（第3学年） ○（第4学年） ◆学級活動 ○（第3学年） ○（第4学年）	<b>(中学年)</b> ①体のつくりや働きを理解するとともに、男女の体の違いや発育・発達の特徴を知り、互いに尊重し合う態度を育てる。 ②男女が互いの違いや良さに気付き、互いに相手を尊重し、男女仲よく協力する態度を育てる。 ③家庭の機能について理解し、家庭における自分の役割を自覚して行動する態度を育てる。また、性情報を正しく受け止め、適切に行動しようとする態度を育てる。	☆命の大切さ、素晴らしさを親子で話し合い、お互いを大切な存在として認め合う。 「性教育授業参観日」 「親子学級会」 ☆豊かな心をはぐくむ。 「朝の読書活動」 「親子読書、読み聞かせ」
<b>(高学年)</b> ◆体育科（保健領域） ○心の健康（第5学年） ○病気の予防（第6学年） ◆理科 ○生物とその環境（第5学年） ◆道徳 ○（第5学年） ○（第6学年） ◆学級活動 ○（第5学年） ○（第6学年）	<b>(高学年)</b> ①心身の発育・発達には男女や個人によって違いがあることを知るとともに、生命の連続性や人の誕生について理解し、自他の生命を尊重する態度を育てる。 ②異性に対する心は男女に違いがあることを知り、互いを尊重し、よりよい男女の友達関係を築こうとする態度を育てる。 ③家庭や社会における男女の役割について考え、固定的な性役割にとらわれず、男女が協力することの大切さを知るとともに、性情報や性被害、エイズに関することなどについて認識を深め、健康で安全な生活を営む態度を育てる。	☆学校の活動のねらいや実践を知らせ、家庭での取組につなげていく。 「学校・学級通信」 「保健だより」 ☆子どもたちの心身の状態を理解し、家庭での子育てを支援する。 「個別懇談」 「アンケート調査」 「学校医による講話」
<b>(全学年)</b> 集会活動 朝（帰り）の会 個別指導等		

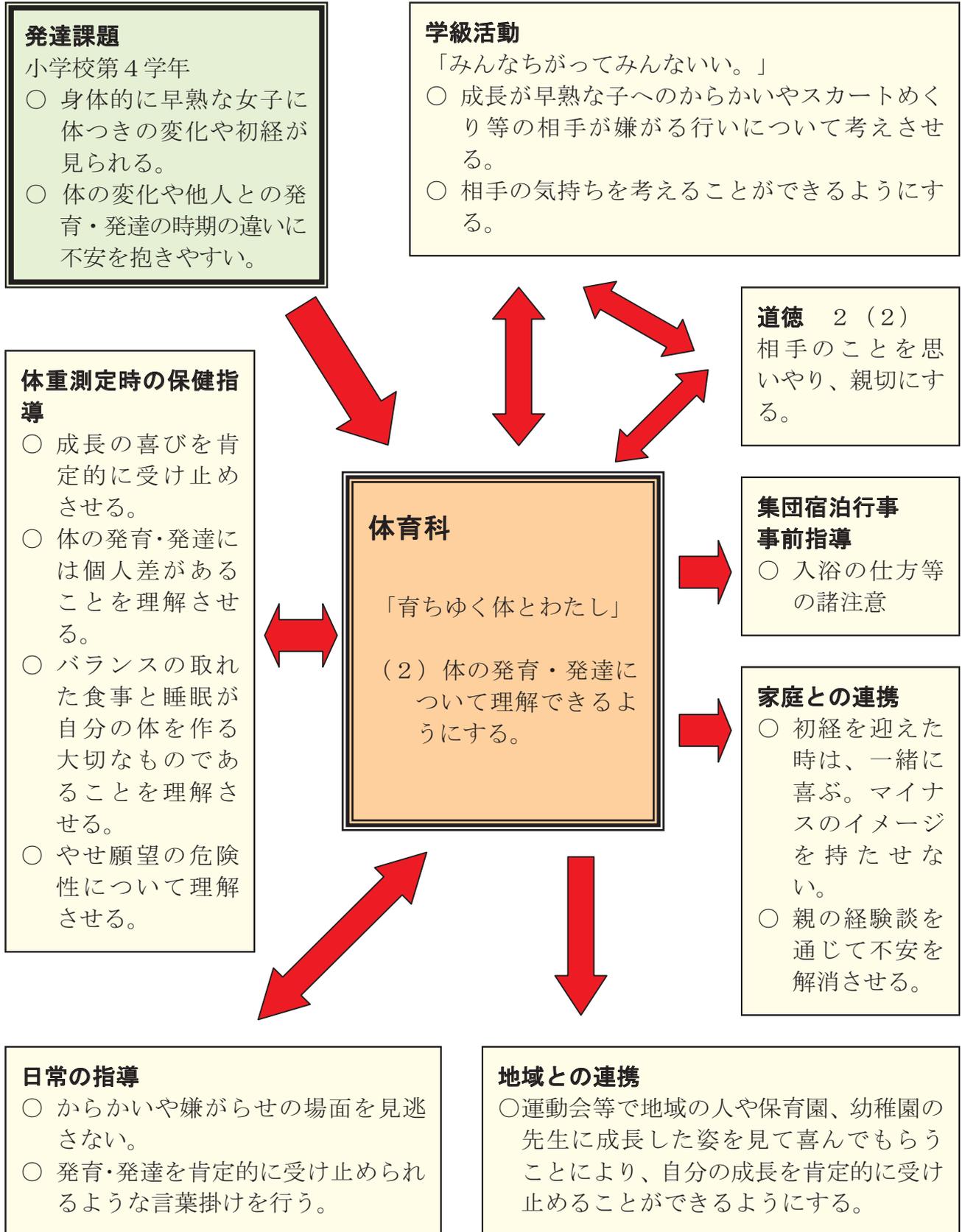
資料6 年間指導計画作成例〈高等学校及び中等教育学校（後期課程）〉

	集団（学級）を対象とした学習活動		集団及び個人を対象とした活動	
1 年	教 科	保健体育（1）現代社会と健康 イ 健康の保持増進と疾病の予防 （エ）感染症とその予防 家庭（家庭基礎） （1）人の一生と家族・福祉（家庭総合） （1）人の一生と家族・家庭 公民（現代社会） （2）現代社会と人間としての在り方生き方	学校行事	
		「自立について考える」 「広告を分析して、メディアリテラシーを身に付けよう」 「望ましい男性観・女性観を考える」	文化祭	生徒保健委員会活動 ・「おしゃれと健康」をテーマに展示
2 年	教 科	保健体育（2）生涯を通じる健康 ア 生涯の各段階における健康 （ア）思春期と健康 （イ）結婚生活と健康 家庭（家庭総合） （2）子どもの発達と保育・福祉 公民（倫理） （1）青年期の課題と人間としての在り方生き方 生物Ⅰ（1）生命の連続性 イ 生殖と発生	学校保健委員会	・性に関する意識調査発表 ・よりよい人間関係作りを考える。
		「携帯電話について考える」 「望まない妊娠とそのリスク」	性教育講話 部活動	・外部講師による講演 ・更衣のエチケット ・けがの手当て ・コミュニケーション能力の育成
3 年	ホーム ルーム 活動	「社会の一員としての行動選択」 「二人の関係を考える」 「若者の性とトラブル」	ショートホーム ルーム 活動	・身だしなみ指導 ・生徒の自己肯定感を高める取組 ・3分間スピーチ ・3分間性教育指導（新聞記事等の活用）
			集会活動	全校集会 ・身だしなみチェック ・生徒指導（メール・インターネット・夜間外出・化粧等）
3 年	ホーム ルーム 活動	「社会の一員としての行動選択」 「二人の関係を考える」 「若者の性とトラブル」	教育相談	個別相談で性に関する問題へ対応
			健康相談	学校医が対応
			健康相談活動	心身の不調への対応
			個別保健指導	・ダイエット、生理痛 ・生活習慣等

資料7 教育活動全体を通じて行う性教育とは？

どのような場面で	誰が	何を	どのように指導することができるか
学級内で好ましくない性情報の氾濫を把握した日の帰りの学級活動	学級担任 ホームルーム担任	マスコミの性情報には営利目的で興味本位な内容が含まれていること	情報に対する適切な選択能力を身に付ける必要性を指導する。
児童保健委員活動（保健集会等）	児童保健委員会担当	家庭や社会の一員としての役割	劇を通じて、お互いが助け合い、自他を大切にしようとする態度を育てる。
生徒保健委員活動（保健集会等）	生徒保健委員会担当	思春期の心を知ろう	劇を通じて、思春期の心理的特徴や不安定な状態がだれにでも起こる可能性があることを知らせ、望ましい対応策について考えさせる。
生徒保健委員活動（文化祭）	生徒保健委員会担当	男女交際の在り方	実態調査等を基に、望ましい男女交際の在り方について提案する。
健康相談活動	養護教諭	発育に関する心配	受容しながら、体の発育や発達を踏まえ、相手の人格を尊重し、個人差があることに気付かせる。
		恋愛の悩み相談	受容しながら、発達段階を踏まえ、相手の人格を尊重し、相互理解を深めていくことが大切であるということに気付かせる。
		月経に関する相談	個人差がある。月経痛がひどい場合は、受診して異常の有無を確認する必要がある旨を指導する。
修学旅行や集団宿泊研修前の保健指導	学級担任 ホームルーム担任 養護教諭	お風呂を利用する際の留意事項やみんなが気持ちよく過ごせるためのマナーについて	共同生活を送る上で必要なマナーやエチケットを身に付け、適切な行動がとれるように指導する。
運動会当日の朝の会	学級担任 ホームルーム担任	けがをした時の応急手当	傷口は水できれいに洗ってから手当を受けることを指導する。
		協力して助け合うこと	それぞれのよさを発揮して協力することの大切さを指導する。
健康相談	学校医	心身に関する悩み相談	不安を解消し、自らの成長や性を肯定的に受け止めることができるように指導する。
校外指導	生徒指導担当 PTA役員	性被害の防止	性犯罪に巻き込まれやすい条件を考えさせる。
		問題行動への指導	不安定な心の状態を受容し、教育相談的対応を行いながら、適切な行動選択ができるように指導する。
学校保健委員会	情報担当教諭 生徒指導担当教諭	携帯電話やインターネットの使い方	児童生徒、保護者に対して相手を傷つけたり、被害に遭ったりしないための携帯電話等の使い方を指導する。

学びのネットワークを考えてみましょう！





## 平成18年度 愛媛県性教育実践調査研究委員会

### 委員長

三木 とみ子 女子栄養大学教授

### 副委員長

平松 義 樹 愛媛大学教育学部附属教育実践総合センター助教授

### 委員

今井 洋 子 奥島病院副院長

越智 誠 二 愛媛県総合教育センター研究主事

角田 敏 郎 愛媛県PTA連合会副会長

勝田 美由紀 愛媛県立松山西中等教育学校養護教諭

烏谷 真由美 愛媛県教育委員会障害児教育課教育指導係長

城戸 茂 愛媛県教育委員会義務教育課指導主事

高石 節 子 愛媛県立第三養護学校養護教諭

難波江 千 春 西条市立西条南中学校養護教諭

廣瀬 浩 美 松山保健所健康増進課長

山下 敏 子 伊予市立伊予小学校養護教諭

## 性教育指導マニュアル作成協力者

井上 結 香 松山市立石井北小学校養護教諭

岩間 由 子 西条市立神拝小学校養護教諭

印南 扶美恵 愛媛県立第三養護学校教諭

宇治 孝 恵 鬼北町立日吉中学校養護教諭

祖母井 規 子 大洲市立久米小学校教諭

越智 克 昌 今治市立伯方中学校教諭

越智 誠 二 愛媛県総合教育センター研究主事

中野 典 子 松山市立道後中学校養護教諭

村上 容 子 愛媛県立松山盲学校養護教諭

村田 ゆかり 愛媛県立東温高等学校養護教諭

和家 哲 也 愛媛県立三瓶高等学校教諭

事務局 今井 裕 一 愛媛県教育委員会保健スポーツ課長

事務局 森 藤 博 明 愛媛県教育委員会保健スポーツ課長補佐

事務局 小野 誠 一 愛媛県教育委員会保健スポーツ課学校体育係長

事務局 石山 光 一 愛媛県教育委員会保健スポーツ課指導主事

事務局 上田 知 子 愛媛県教育委員会保健スポーツ課指導主事

本書は、上記の委員会及び作成協力者の協力を得て作成しました。

表紙及び挿入絵：石川 真也 挿入絵：兵頭 浩彰 パリ日本人学校教諭

すべての教職員が取り組む性教育指導マニュアル  
— 心と体の性教育のために —

平成19年3月発行

発行者 愛媛県教育委員会  
〒790-8570 愛媛県松山市一番町4丁目4-2  
TEL 089-912-2982

印刷所 佐川印刷株式会社